



もっともっと知ったからパソコンも

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！
 機能や設定など、もっと知りたいあなたに！
 パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

マニュアルを活用しよう

このパソコンには次のマニュアルや練習ソフトが用意されています。
『はじめにお読みください』でセットアップを終了したら、目的に応じて次のマニュアルや練習ソフトを活用してください。



『はじめにお読み
ください』

このパソコンの機能をもっと使いこなしたい!

『もっと知りたいパソコン』

- ・パソコンの機能を詳しく知る
- ・周辺機器を接続する
- ・パソコンのメンテナンスをする
- ・BIOSの設定を変更する

パソコンでTVを見たい!

『TVモデルガイド』

- ・テレビや地上波データ放送を見る
- ・テレビ番組を予約録画する
- ・TVモデルに関するQ&A

困ったなあ、どうしたらいいのかな?

『困ったときのQ&A』

- ・トラブルを解決する
- ・パソコンを再セットアップする

パソコン初心者な
ので、基本的なこと
から覚えたい!



『パソコンのいろは』

- ・NXパッドの使いかた
- ・文字の入力のしかた
- ・Windowsの基本操作を覚える
- ・インターネットの練習

知りたいことを画面上で調べてみよう



©TPVN

『パソコンガイド』(電子マニュアル)

- ・インターネットやメールをする
- ・文字の入力のしかた
- ・Windowsの基本操作
- ・添付のアプリケーションを使う
- ・トラブルを解決する
- ・アプリケーションを追加 / 削除する
- ・サービス&サポート窓口紹介
- ・BIGLOBEに入会する

巻末に簡単な操作方法が載っています。

はじめに

このマニュアルは、パソコンの機能全般についての取扱説明書です。各機能について詳しく知りたいときや周辺機器を接続したいとき、パソコンの設定を変更したいときなど、必要に応じて活用してください。

2001年11月 初版

このマニュアルに出てくる基本的な操作

キーボードでの操作

キーボードでの操作は、【 】で囲んで記載しています。

記載例	意味
【F2】を押す	キーボードの F2 を押すことを表しています。
【Ctrl】+【Alt】+【Del】	Ctrl と Alt を押しながら同時に Del を押すことを表しています。

「スタート」ボタンからの操作

Windowsの「スタート」ボタンから行う操作は、「 」で囲んで記載しています。


記載例	意味
「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「システムツール」 「システムの復元」 をクリックする	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを表しています。

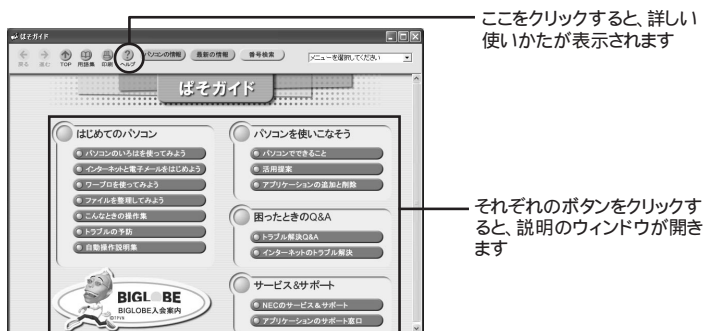
「ばそガイド」の使いかた

このパソコンには、電子マニュアル「ばそガイド」がインストールされています。

ばそガイドを起動するには

ばそガイドは、次のようにして起動してください。

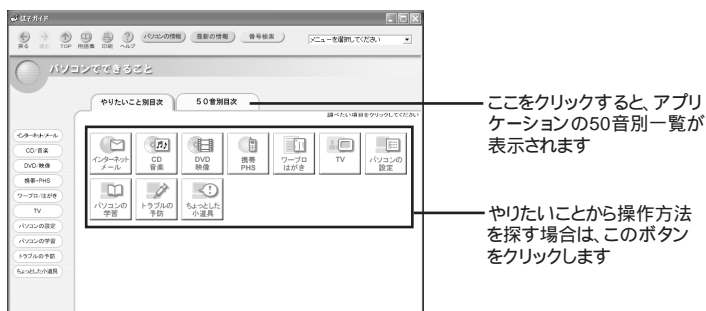
- ・パソコンの【ヘルプ】ボタンを押す
- ・デスクトップの「ばそガイド」アイコン()をダブルクリックする



©TPVN

「パソコンでできること」の使いかた

「パソコンガイド」ウィンドウで「パソコンでできること」をクリックすると、次のような画面が表示されます。



「デバイス マネージャ」の開きかた




次のようにするとデバイス マネージャを開くことができます。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」をクリックする
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックする
「パフォーマンスとメンテナンス」ウィンドウが表示されます。
- 3 「システム」をクリックする
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックする
- 5 「デバイス マネージャ」ボタンをクリックする
「デバイス マネージャ」ウィンドウが表示されます。




表記について

記号

パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

 警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 注意	注意事項を守っていただけない場合、人が損害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。
 感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意、けが注意についても、それぞれ記載しています。

その他の記号

 チェック	しては けないことや、注意して きたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性が あります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
 参照	関連する情報が書かれている所を示しています。

モデル

モデルの呼びかた

セカンドハードディスクドライブ搭載モデル	セカンドハードディスクドライブを搭載しているモデルのことです。
Bluetooth™モデル	Bluetooth™インターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
ワイヤレスLANモデル	ワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
LANカード添付モデル	LANカードが添付されているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。

LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

記載内容

- ・本文中に記載されているCD/DVDドライブは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブを指します。
- ・本文中に記載されているBIOSセットアップメニューは、BIOSセットアップユーティリティを指します。
- ・イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

ソフトウェアなどの正式名称

Windows、 Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版
インターネット エクスプローラ、 Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 6.0
Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
RecordNow DX	VERITAS RecordNow DX
スナップショット	スナップショット Ver2.1
VideoStudio	Ulead® VideoStudio® 5 SE Basic
DVDit!	DVDit!® LE 2.3
iモード	i-mode、アイモード



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

本製品を日本で使用する場合は必ず日本国モードで使用下さい。他国モードをご使用になると電気通信事業法(技術基準)に違反する行為となります。

(初期値は日本になっています)

対象機種	認証番号
LT900	A01-0505.JP
LT700	
LT500	
LG10JE	
LG85JE	

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

[バッテリーパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリーパックを取り付けている場合]

本装置にバッテリーパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

レーザー安全基準について

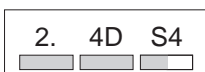
このパソコンには、レーザーに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD/DVDドライブが内蔵されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Windowsは本機でのみご利用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) あなたがテレビ放送や録画物などから引用したものは、個人として楽しむなどの場合は、著作権上、権利者に無断で使用できません。
- (10) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

ワイヤレスLANモデルの場合の注意

- ・ 本製品には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域(2.4GHz ~ 2.4835GHz)を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域(2.427GHz ~ 2.47075GHz)が回避可能です。変調方式としてDS-SS方式を採用しており、与干渉距離は40mです。



- ・ 本製品は、日本国における電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。
- ・ 本製品の電波出力は、社団法人電波産業会が策定した「電波防護標準規格(RCR STD-38)」に基づく基準値を下回っています。
- ・ 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。
 - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止してください。
 - その他、本製品から移動体識別用特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、NEC 121コンタクトセンターまでご相談ください。
NEC 121コンタクトセンター
(フリーコール)0120-977-121
- ・ 自動ドアや火災報知機等、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因となる場合があります。

- ・ 一般の電話機やテレビ、ラジオ、その他の無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本製品を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります(本製品の電源を入/切することで影響の原因になっているかどうか判別できます)。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。
 - 本製品と影響を受けている装置の距離を離してください。
 - 影響を受けている装置が使用しているコンセントと別の電気系統のコンセントから、本製品の電力を供給してください。
 - 電話機やテレビ、ラジオの干渉について経験のある技術者に相談してください。
- ・ トラック無線(CB無線)やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の電波管理局へ申し入れてください。詳しくは、ご使用場所管轄の電波管理局へお問い合わせください。
- ・ 他の無線機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。さらに、前記処置を行っても影響が軽減されないときは、NEC 121コンタクトセンターまでご相談ください。
- ・ 電子レンジなど、本製品と同じ周波数帯域を使用する産業・科学・医療用機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。さらに、前記処置を行っても影響が軽減されないときは、NEC 121コンタクトセンターまでご相談ください。
- ・ 本製品は、電波の特性上、設置場所によって通信距離や通信容量が異なります。
- ・ 本製品は、ネットワーク名を設定することにより、無線ネットワークでの不正アクセスを防止することが可能です。
- ・ 本製品は、暗号キーを設定することにより、無線区間での漏洩・傍受を防ぐことが可能です。
- ・ 本製品のセキュリティ向上のため、ネットワーク名と暗号キーを定期的に変更されることをお勧めします。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Adobe、AcrobatおよびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。

携快電話はソースネクスト株式会社の登録商標です。

Ulead、VideoStudioは、Ulead Systems, Inc.の登録商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

SpeedStepは、Intel Corporationの商標です。

Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

VERITAS RecordNowは、米国VERITAS Software Corp.の米国における登録商標です。

cdmaOneは、CDGの登録商標です。

Sonic、Sonic Solutions、DVDit!はSonic Solutionsの商標または登録商標です。

「メモリースティック」_μ、「マジックゲート」_μ、「マジックゲート」メモリースティックはソニー株式会社の商標です。

Bitcastおよびビットキャストの名称、ロゴは、株式会社インフォシティの登録商標です。

ADAMS TV-Asahi Data And Multimedia Serviceは、テレビ朝日データ株式会社によるデータ多重放送サービスです。

ADAMS-EPGは、テレビ朝日系列24局のデータ放送によるテレビ番組の情報配信サービスです。ビットキャストブラウザで表示する地図の作成にあたっては、建設省国土地理院の承認を得て、同院発行の300万分の1日本とその周辺、および50万分の1地方図を使用したものです。(承認番号 平11総使、第371号)

らくちんは株式会社メディア・ナビゲーションの登録商標です。

「i-mode / アイモード」_μ、「DoPa」は(株)NTTドコモの登録商標です。

「BIGLOBE」/「SmartGallery」/「BusBrain」/「SmartVision」/「イルミネーション・エンブレム」は、日本電気株式会社社の商標または登録商標です。

Bluetooth™はその商標権者が所有しており、NECはライセンスに基づき使用しております。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation, NEC CustomTechnica, Ltd. 2001

日本電気株式会社、NECカスタムテクニカ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

Notes on export

This product(including software)s designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1:NEC Corporation, NEC CustomTechnica, Ltd.

このパソコンの基本機能	1
本体の各部の名称	2
本体前面 / 右側面	2
本体背面 / 左側面	3
本体底面	4
ボタン / スイッチ	5
光ナビゲーション機能について	5
イルミネーション・ボタンについて	6
ワンタッチスタートボタン	7
表示ランプ	10
名称と役割	10
イルミネーション・エンブレム™	12
キーボード	14
キーの名称	14
キーの使いかた	15
キーボードの設定をする	17
言語の設定をする	17
別売のキーボードやテンキーボードを使うには	18
NXパッド	19
名称と役割	19
スクロールスライドスイッチを使う	20
NXパッドの設定をする	22
ジョグホイール	26
名称と役割	26
ジョグホイールを使う	26
インナーシートホルダー	28
インナーシートホルダーとは	28
インナーシートホルダーの取り外しかたと取り付けかた	28
インナーシートを作成する	30
ハードディスク	31
ハードディスクを使用するときの注意	31
セカンドハードディスクドライブを使う	32
セカンドハードディスクドライブの取り外しかたと取り付けかた	32
フロッピーディスクドライブ	36
フロッピーディスクドライブの接続のしかたと取り外しかた	36

使用できるフロッピーディスクの種類	38
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意	38
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた	39
フロッピーディスクをフォーマットする	40
CD/DVDドライブ	41
名称と役割	41
使用できるディスク	42
CD/DVDドライブを使用するときの注意	42
ディスクのセットのしかたと取り出しかた	43
音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する	46
CD-RやCD-RWにデータを書き込む	46
液晶ディスプレイ	47
解像度と表示色	47
解像度と表示色の設定	48
画面表示を調整する	49
バーチャルスクリーン	50
画面分割機能	51
【全画面】ボタンを使う	52
バッテリー	53
バッテリーのみで使う	53
バッテリーを充電する	53
バッテリーの残量を確認する	54
バッテリーリフレッシュ	56
バッテリーパックを交換する	58
省電力機能	61
省電力機能とは	61
省電力機能を使用するときの注意	61
スタンバイ状態(サスペンド)	63
休止状態(ハイバネーション)	65
スタンバイ状態や休止状態から復帰させる	66
セキュリティ機能	67
このパソコンのセキュリティ機能	67
パスワードを設定してパソコンの利用者を制限する	67
サウンド機能	73
このパソコンのサウンド機能	73
音量を調節する	73

ボリュームコントロールを使う	74
ピープ音を設定する	74
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力機能について	75
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について	76
音楽CDのデジタル出力設定	76
通信機能	77
モデム	78
内蔵モデムを利用する	78
接続先を設定する	80
インターネットへの通信環境を切り替える	81
携帯電話 / PHS接続機能	82
携帯電話またはPHSと接続する	82
携帯電話 / PHS接続機能を使用するときの注意	83
接続先を設定する	83
ダイヤル設定のしかた	84
いろいろなデータ通信を行う	85
携帯電話連携機能	87
携帯電話に登録してある情報を編集する	87
iモード機能を備えている携帯電話と連携して使う	87
LAN(ローカルエリアネットワーク)	91
LANに接続するときの注意	91
LANに接続する	91
電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定(LAN内蔵モデルのみ)	93
ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)	94
CATVでインターネットを利用する	94
ワイヤレスLAN	96
ワイヤレスLAN機能でできること	96
ワイヤレスLAN機能を使用するときの注意	97
接続できるワイヤレスLAN製品	98
ワイヤレスLAN機能のオン / オフ	99
ワイヤレスLANの設定を行う	100
ADSLについて	106
ADSLの特長	106
Bluetooth™機能	107

マルチメディア機能	109
音楽の再生 / 編集機能	110
音楽を再生するには	110
CDプレイモードで音楽CDを再生する	112
Windowsを起動して音楽CDや音楽データを再生する	113
編集してオリジナルMDを作る	114
編集してオリジナル音楽CDを作る	116
映像の再生 / 編集機能	117
映像の再生	117
映像の編集	119
画像ファイルや映像ファイルを活用する	122
DVD形式のビデオデータ作成機能	123
DVD形式のビデオデータの作成のしかた	123
マルチメディアファイルの管理機能	125
SmartGalleryを使う	125

周辺機器を使う	127
このパソコンに接続できる周辺機器	128
本体前面 / 右側面	128
本体背面 / 左側面	129
本体底面	130
周辺機器を接続する前に	131
周辺機器を利用する	131
周辺機器を利用するときの注意	131
周辺機器の取り外しと再接続	134
周辺機器を使えるようにセットアップする	134
プリンタ	136
プリンタを使う準備	136
プリンタを設定する	137
マウス	138
別売のマウスの設定方法	138
NXパッドを使用する設定に戻す	140
他社製のマウスドライバに変更する	141
外部ディスプレイを使う	142
CRTディスプレイを使う	142

プロジェクタを使う	143
テレビを使う	144
表示するディスプレイを切り替える	144
複数のディスプレイに同時表示する	144
InfoAudio、「メモリスティック」、「SDメモリーカード」を使う	148
メディア用ポケットのアダプタについて	148
PCカード	149
使用できるPCカードの種類	149
PCカードを使用するときの注意	149
PCカードのセットのしかたと取り出しかた	149
メモリ	152
メモリを増設する	152
増設RAMボードを取り扱うときの注意	152
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた	153
IEEE1394コネクタ	158
IEEE1394とは	158
接続する前に	158
IEEE1394対応機器の接続のしかたと取り外しかた	158
IEEE1394コネクタでファイルを転送する	159
USB対応機器	160
USBとは	160
USBコネクタについて	160
USB対応機器の接続のしかたと取り外しかた	161
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力端子	163
オーディオ機器を接続する	163
ヘッドホン/光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子	164
オーディオ機器やヘッドホンを接続する	164
マルチベイ	165

BIOSセットアップメニュー 167

BIOSセットアップメニュー	168
BIOSセットアップメニューを使ってできること	168
BIOSセットアップメニューを使う	168
BIOSセットアップメニューを終了する	169
購入時の値に戻す	170
設定項目一覧	170

付録 175

本体機能一覧	176
LT900 / LT700 / LT500	176
LG10JE / LG85JE	179
内蔵FAXモデム	182
携帯電話 / PHS接続機能	184
内蔵LAN	185
ワイヤレスLAN	186
割り込みレベルとDMAチャンネル	187
割り込みレベルとDMAチャンネルについて	187

索引 189

P A R T

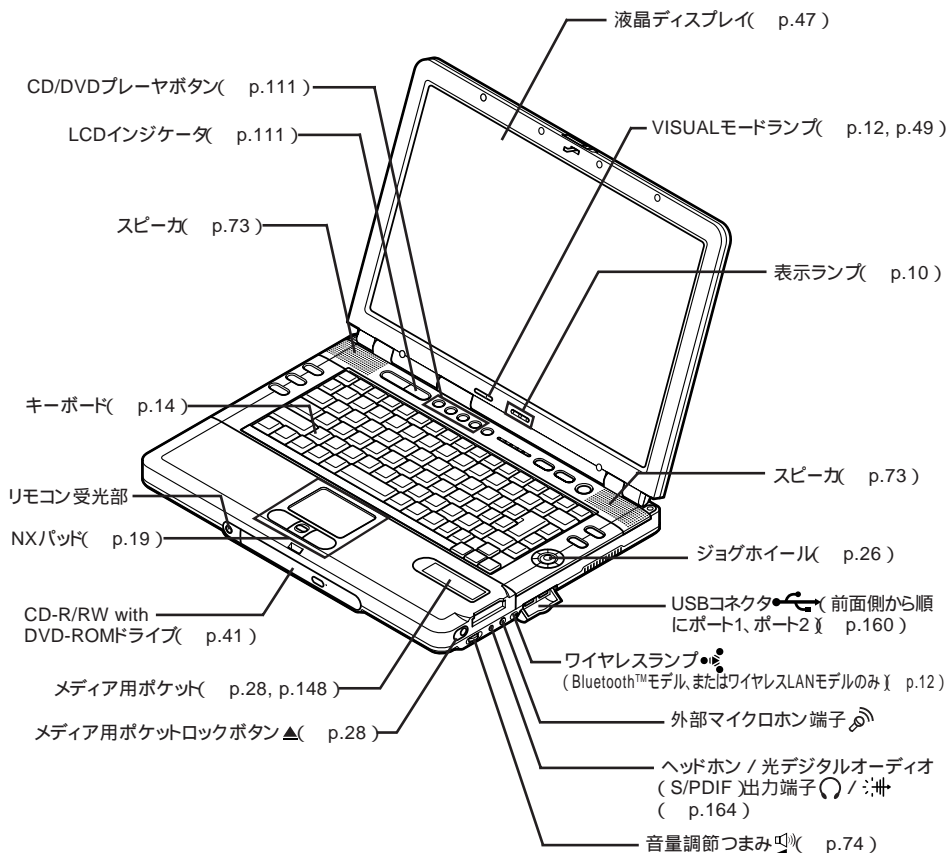
1

このパソコンの基本機能

このパソコンの各部の名称とおもな機能について説明しています。

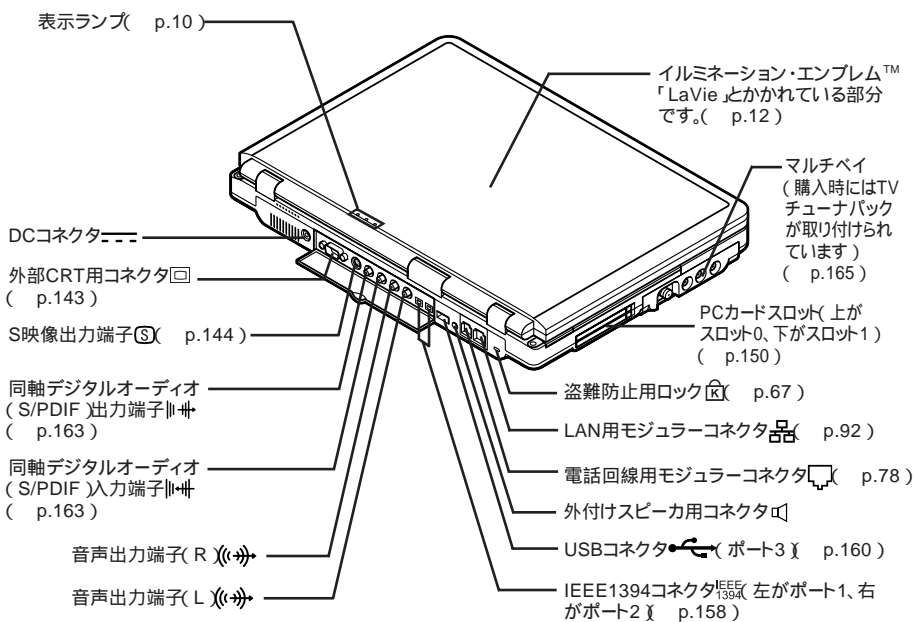
本体の各部の名称

本体前面 / 右側面

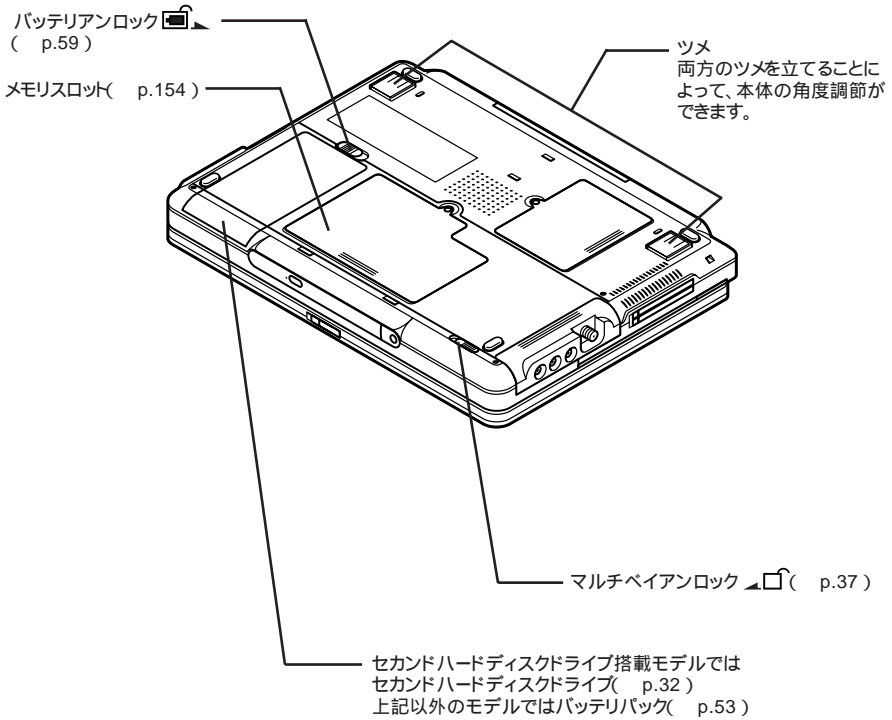


ボタンやスイッチについては p.5をご覧ください。

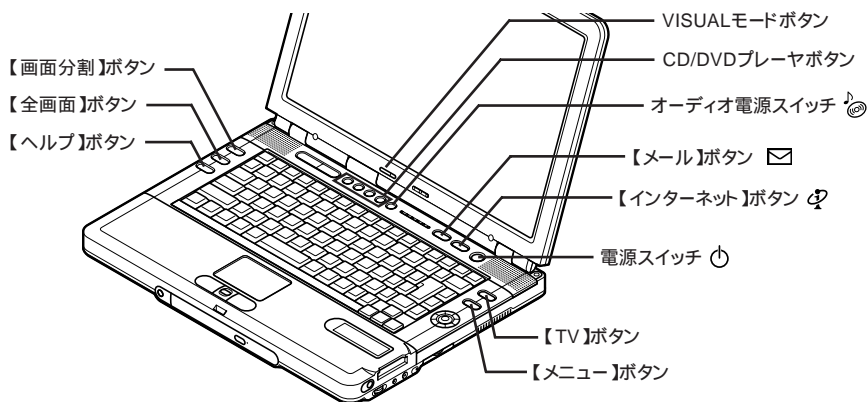
本体背面 / 左側面



本体底面



ボタン/スイッチ



光ナビゲーション機能について

光ナビゲーション機能とは、使用できるボタンやスイッチをランプの点灯で知らせる機能です。

液晶ディスプレイを開くと、使用できるボタンやスイッチが約10秒間オレンジ色に点灯します。

ボタンを押すと、押したボタンが青色に点灯します。

イルミネーション・ボタンについて

パソコンの電源がオンになっているときやCDプレイモードでの使用時には、使用できるボタンやスイッチが常時青色に点灯します。

ボタンの点灯 / 消灯を切り替える

次のように設定すると、ボタンやスイッチの点灯 / 消灯の状態を切り替えることができます。

1 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「イルミネーション・エンブレム(TM)」 「イルミネーション・ボタンを消灯する」または「イルミネーション・ボタンを点灯する」をクリックする

「イルミネーション・ボタン設定」ウィンドウが表示されます。

2 「はい」ボタンをクリックする




イルミネーション・ボタンが常に点灯または消灯します。

以上で、イルミネーション・ボタンの点灯 / 消灯が切り替わります。

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンの使いかた

次の各ボタンをまとめて「ワンタッチスタートボタン」と呼びます。
ワンタッチスタートボタンを使うと、機能をすばやく実行することができます。

ボタンの名称	押すタイミング	機能
【画面分割】ボタン (DISPLAY)	電源が入っているとき	画面が等分割されます。 ¹ 各アプリケーションを並べて表示させることができます(p.51)
【全画面】ボタン (F-SCREEN)	電源が入っているとき	選択されているウィンドウがディスプレイ全体に拡大されて表示されます(p.52)
【ヘルプ】ボタン (HELP)	電源が入っているとき	 「ばそガイド」が起動します。
【メール】ボタン ()	電源が切れているとき スタンバイ状態 休止状態 電源が入っているとき	メールのアプリケーションを起動するためのボタンです。購入時の状態では「Outlook Express」が起動します。インターネット接続の設定をしていない状態では、「インターネット接続ウィザード」ウィンドウが表示されます。
【インターネット】 ボタン()	電源が切れているとき スタンバイ状態 休止状態 電源が入っているとき	インターネットに接続するためのボタンです。購入時の状態では「インターネット無料体験」が起動します。設定を変更すると「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。
【TV】ボタン(TV)	電源が切れているとき スタンバイ状態 休止状態 電源が入っているとき	SmartVision/TVが起動します。
【メニュー】ボタン (MENU)	DVD VIDEOディスク 再生時	タイトルメニューが表示されます。 ²
	SmartVision/TVでの TV視聴時	EPGモードに切り替わります。 もう一度押すとテレビモードに戻ります。
	Internet Explorer起 動時	「お気に入り」リストが表示されます。

1:ウィンドウサイズ固定等の一部のアプリケーションを除く

2:DVDの種類によってはタイトルメニューが表示されない場合があります

❗ チェック

- ・セーフモードなど、Windowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンを使うことはできません。
- ・スタンバイ状態や休止状態からワンタッチスタートボタンを押して復帰したときに、設定したアプリケーションが起動しない場合があります。
このような場合は、以下のいずれかの設定を行ってください。
 - 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」 をクリックし、「詳細設定」タブの「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」の をクリックして にする
 - 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「ユーザーアカウント」 「ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」の「ユーザーの簡易切り替えを使用する」の をクリックして にする

ボタンの設定を変更する

【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの機能は、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使って設定することができます。

- 1 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 をクリックする
「ワンタッチスタートボタンの設定」ウィンドウが表示されます。



❗ チェック


ショートカット(拡張子が.lnkのファイル)で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが表示されません。
登録後正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。

📌 メモ

画面右下の通知領域にある  をダブルクリックして起動することもできます。



参照

「ワンタッチスタートボタンの設定」について  「ばそガイド」 「パソコンでできること」 または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

ワンタッチスタートボタンの有効 / 無効を切り替える

次の操作でワンタッチスタートボタンの有効 / 無効を切り替えることができます。

1 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」で、「ワンタッチスタートボタンを無効にする」または「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリックする

ワンタッチスタートボタンが無効の状態の場合は「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が表示され、有効の状態の場合は「ワンタッチスタートボタンを無効にする」が表示されています。

2 ワンタッチスタートボタンを有効または無効にするメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

3 再起動のメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

再起動後、ワンタッチスタートボタンの有効 / 無効が切り替わります。

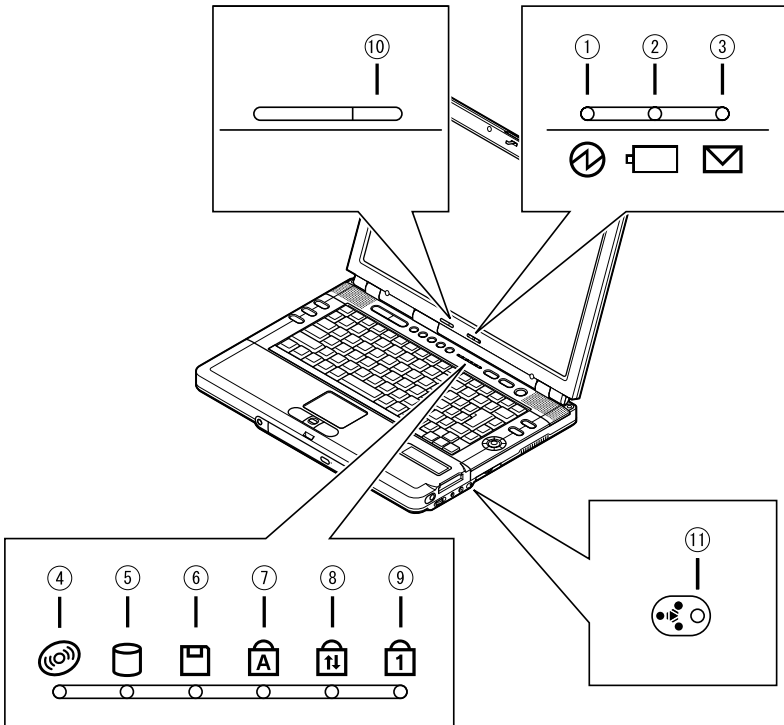


チェック

- ・ワンタッチスタートボタンが無効に設定されている場合にワンタッチスタートボタンを操作すると、ボタンの設定と異なる機能が働く場合があります。これはWindowsの標準的な動作です。
- ・ワンタッチスタートボタンが無効に設定されている場合は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で登録したボタン設定、オンスクリーン表示や、CD/DVDプレーヤボタンによるJet-Audio Playerの制御は無効になります。

表示ランプ

名称と役割



電源ランプ (10)

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

バッテリー充電ランプ()

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

: バッテリを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリーリフレッシュを行ってください(p.56)。

メール着信ランプ()


ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり
消灯	メール着信なし

CD/DVDアクセスランプ()

ランプ	状態
緑点灯	CD-ROMやDVD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	CD-ROMやDVD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

ハードディスクアクセスランプ()

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやセカンドハードディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやセカンドハードディスクにアクセスしていない

フロッピーディスクアクセスランプ()

ランプ	状態
緑点灯	フロッピーディスクにアクセス中
消灯	フロッピーディスクにアクセスしていない

キャップスロックキーランプ()

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている (英字を入力すると大文字になります)
消灯	【Caps Lock】がロックされていない (英字を入力すると小文字になります)

スクロールロックキーランプ(10)

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

ニューメリックロックキーランプ(11)

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている (キーを押すとキー前面の文字が入力されます)
消灯	【Num Lock】がロックされていない (キーを押すとキー上面の文字が入力されます)

VISUALモードランプ

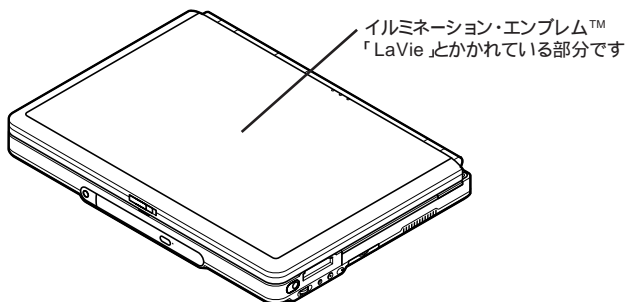
ランプ	状態
緑点灯	VISUALモードになっている (液晶ディスプレイのバックライトがより明るくなります)
消灯	VISUALモードになっていない

ワイヤレスランプ(●●●)ワイヤレスLANモデル / Bluetooth™モデルのみ)


ランプ	状態
緑点灯	ワイヤレスLAN / Bluetooth™機能が使用可能
消灯	ワイヤレスLAN / Bluetooth™機能が使用不可

イルミネーション・エンブレム™

イルミネーション・エンブレム™は、液晶ディスプレイの背面に搭載されているランプです。イルミネーション・エンブレム™には、誰からのメールが到着したのか、どこのホームページが更新されたのかをランプの色で知らせる機能があります。また、インテリア感覚で常時ランプを点灯させておくこともできます。ランプの色は7種類の色に点灯させることができます。点灯方法は次のように設定してください。




イルミネーション・エンブレム™の設定をする

- 1 「スタート」ボタン「すべてのプログラム」「イルミネーション・エンブレム(TM)」「イルミネーション・エンブレム(TM)の設定」をクリックする
「イルミネーション・エンブレム(TM)の設定」ウィンドウが表示されます。
- 2 点灯のON/OFFボタンがグレー表示(オフ状態)になっている場合は、クリックして点灯をオンにする
- 3 点灯方法に合わせて以下の設定を行う
 - ・1色を点灯させる場合
「定期的に色を変更しながら点灯する」がになっている場合はクリックしてにし、点灯させたい色のボタンをクリックします。
 - ・定期的に色を変更しながら点灯させる
「定期的に色を変更しながら点灯する」がになっている場合はクリックしてにし、色の点灯間隔(1~60秒)を設定します。
点灯間隔は「点灯間隔」の上のつまみを左右にドラッグして設定します。つまみを右に動かすと点灯時間が長くなり、左に動かすと点灯間隔が短くなります。
 - ・Windows起動時に点灯させる
「コンピュータ起動時に点灯する」がになっている場合は、クリックしてにします。
- 4 「OK」ボタンをクリックする

イルミネーション・エンブレム™を使用するときの注意

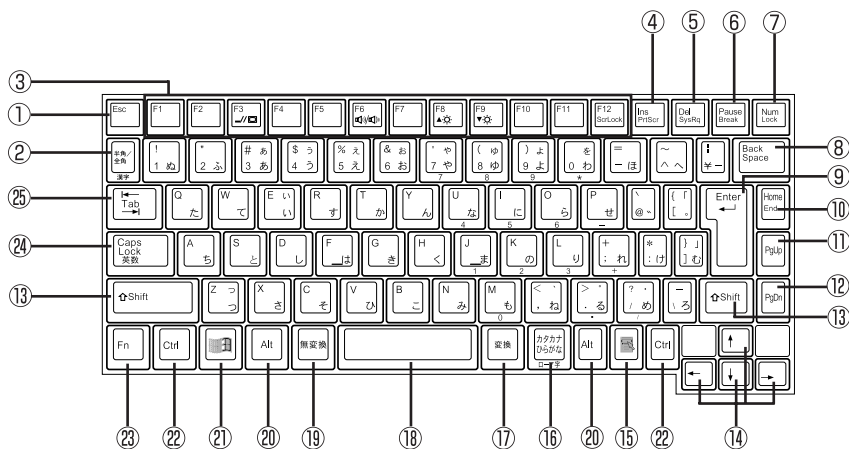
- ・イルミネーション・エンブレム™は、電源が入っている状態のときに機能します。スタンバイ状態または休止状態では機能しません。
- ・自動メール受信ユーティリティを使用してメールの到着確認やホームページの更新チェックを行っている場合は、自動メール受信ユーティリティの設定が優先となるため、「イルミネーション・エンブレム(TM)の設定」で行った設定どおりにイルミネーション・エンブレム™を点灯させることはできません。

メールの到着やホームページの更新をランプの点灯で確認する

「自動メール受信ユーティリティ」で設定を行うと、メールの到着やホームページの更新時にイルミネーション・エンブレム(TM)を点灯させることができます。詳しくは、「パソコンガイド」 「パソコンでできること」 「自動メール受信ユーティリティ」をご覧ください。

キーボード













キーの名称



- ① 【Esc】: エスケープキー
- ② 【半角 / 全角】: 半角 / 全角キー
- ③ 【F1】～【F12】: ファンクションキー
- ④ 【Ins】: インサートキー
- ⑤ 【Del】: デリートキー
- ⑥ 【Pause】: ポーズキー
- ⑦ 【Num Lock】: ニューメリックロックキー
- ⑧ 【Back Space】: バックスペースキー
- ⑨ 【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑩ 【Home】: ホームキー
- ⑪ 【PgUp】: ページアップキー
- ⑫ 【PgDn】: ページダウンキー
- ⑬ 【Shift】: シフトキー
- ⑭ 【 ⏪ ⏩ ⏴ ⏵ 】: カーソル移動キー
- ⑮ 【 🖱 】: アプリケーションキー
- ⑯ 【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑰ 【変換】: 変換キー
- ⑱ スペースキー
- ⑲ 【無変換】: 無変換キー
- ⑳ 【Alt】: オルトキー
- ㉑ 【 🪟 】: Windowsキー
- ㉒ 【Ctrl】: コントロールキー
- ㉓ 【Fn】: エフエヌキー
- ㉔ 【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉕ 【Tab】: タブキー







キーの使いかた

特殊なキーを使う

キー操作	説 明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプ()が点灯し、キー前面に黄色で表示されている数字や記号が入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ()が点灯し、アルファベットを入力をすると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力をすると小文字が入力されます。
【半角 / 全角】	押すごとに、日本語入力システムのオン / オフが切り替わります。
【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(p.16)
【  】	右クリックするのと同じ機能があります。
【  】	「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。
【  】+【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。
【  】+【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。
【Shift】+【  】+【M】	【  】+【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。
【  】+【F1】	Windowsのヘルプを表示します。
【  】+【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】+【  】+【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【  】+【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

キー操作	機能	説明
【Fn】+【F2】	ワイヤレス機能のオン / オフ	ワイヤレスLAN / Bluetooth™機能を使用する / 使用しないを切り替えます ¹ 。
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え ( / )	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」「テレビ」 ² 「液晶ディスプレイ」「CRT」の順に切り替わります(p.144)。
【Fn】+【F6】	ビーブ音オン / オフ ( / )	ビーブ音のオン / オフを設定します。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F10】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する / しないを切り替えます。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【  】	右Windows	右【  】の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Home】	End	【End】の役割

1: ワイヤレスLAN機能はワイヤレスLANモデルのみ、Bluetooth™機能はLaVie GシリーズのBluetooth™モデルのみで使用可能です。

2: テレビが接続されているときのみ切り替わります。



メモ

【Fn】+【F3】、【Fn】+【F6】、【Fn】+【F10】、【Fn】+【F12】の設定については、パソコンを起動するたびに設定をしないする必要があります。

キーボードの設定をする

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「プリンタとその他のハードウェア」 「キーボード」 をクリックする

「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウ左上の「速度」タブで、次のような設定を行うことができます。

「速度」タブの設定

表示までの待ち時間

一つのキーを押し続けたときに、入力のくりかえしがはじまるまでの時間を調節します。

表示の間隔

一つのキーを押し続けたときに、文字の入力がくりかえされる間隔を調節します。

カーソルの点滅速度

カーソルの点滅間隔を調節します。

「ハードウェア」タブの設定

「ハードウェア」タブにはキーボードの状態が表示されます。

キーボードの詳細な情報を表示させたり変更したりする場合は、「プロパティ」ボタンをクリックし、表示されたプロパティで設定を行ってください。

キーボードに問題がある場合は、「トラブルシューティング」ボタンをクリックするとハードウェアトラブルシューティングを開始します。

言語の設定をする

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「日付、時刻、地域と言語のオプション」 「地域と言語のオプション」 をクリックする

「地域と言語のオプション」ウィンドウが表示されます。

ウィンドウ左上の各タブで、表示される言語や入力時に使用する言語を追加したり設定することができます。

日本語入力システムの追加や設定を行う場合は、「言語」タブをクリックしてから「詳細」ボタンをクリックし、「テキスト サービスと入力言語」ウィンドウで設定を行ってください。

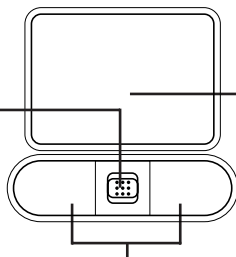
別売のキーボードやテンキーボードを使うには

このパソコンは別売のキーボードやテンキーボードを接続して使うことができます。
詳しくは、PART4「周辺機器を使う」をご覧ください。

NXパッド

名称と役割

スクロールスライドスイッチ
このボタンをスライドさせることで、画面をスクロールさせることができます。



パッド
ここで指をすべらせて、ポインタの移動などを行います。

クリックボタン
左右2つのボタンがあります。これらのボタンで操作の確定などを行います。



参照

NXパッドの使いかたについて  「ばそガイド」「こんなときの操作集」

スクロールスライドスイッチを使う

スクロールスライドスイッチを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

🔍 チェック

- ・スクロールスライドスイッチの機能に対応していないアプリケーションでは使用できません。
- ・アプリケーションによっては、ポインタの位置によって動作が異なることがあります。

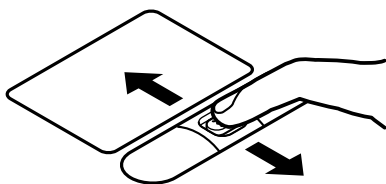
画面を上下方向にスクロールさせる

1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする

2 スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前にスライドさせる

パッド側にスライドさせると画面が上にスクロールし、手前にスライドさせると画面が下にスクロールします。

また、スクロールスライドスイッチをスライドさせたままにすることで、連続して画面をスクロールさせることができます。



🔍 チェック

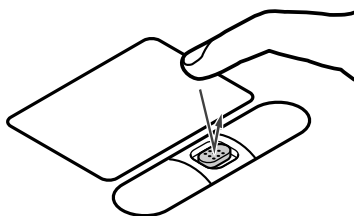
スクロールスライドスイッチを押した状態でスライドさせようとしてもスクロールしないことがあります。スクロールさせるときは、スクロールスライドスイッチを押さずに軽く指をおいてスライドさせてください。

画面を上下、左右方向にスクロールさせる

1 スクロールさせたい画面にポインタを移動する

2 スクロールスライドスイッチを押す

ポインタの形がやに変わります。



チェック


スクロールスライドスイッチを押すときは、スライドさせないように注意してください。

3 ポインタの形が変わったら、パッドを使ってスクロールさせる

パッド上で指をすべらせた方向にスクロールします。

パッドによるスクロールを終了したい場合は、もう一度、スクロールスライドスイッチを押してください。ポインタの形が元に戻ります。

チェック

- ・ アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。
- ・ ポインタの形がのときは、上下方向にのみスクロールできます。

ズーム機能を使う



チェック

アプリケーションによってはこの機能は使用できません。

- 1 拡大、縮小したい画面にポインタを動かす
- 2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前にスライドさせる
パッド側にスライドさせると画面の表示が拡大され、手前にスライドさせると縮小されます。

NXパッドの一時的なオン / オフ機能として使う

スクロールスライドスイッチを使って、NXパッドを一時的にオンまたはオフにすることができます。

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「プリンタとその他のハードウェア」 「マウス」をクリックする
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウの左上の各タブで次のような設定を行うことができます。

「ボタン」タブの設定

ボタン設定

左右のクリックボタンの設定や、スクロールスライドスイッチ(スライドスイッチ)の設定ができます。

ダブルクリック速度

ダブルクリックのクリック間隔の調整を行います。

スクロール機能

スクロール中にスライドスイッチを押すことで、スクロールを継続させるスクロールロック機能の設定や、スクロールの速度の設定ができます。スクロールロック機能は、クリックボタンやスライドスイッチを押すか、タップすることで解除できます。

**チェック**

スクロールロック機能を解除しない場合、自動的にスタンバイ状態にならない場合があります。

「ポインタ」タブの設定**デザイン**

ポインタのデザインを変更することができます。

「ポインタ オプション」タブの設定**速度**

ポインタの速度を調節したり、精度を高めるように設定できます。

動作

ポインタの動作を設定します。ポインタを自動的に既定のボタン上に移動できます。

表示

ポインタの軌跡を表示させたり、文字を入力中はポインタを非表示にすることができます。

【Ctrl】を押してポインタの位置を表示させることもできます。

「動作」タブの設定**速度と加速度**

ポインタの動作速度を調節します。

アクセラレーション

パッド上で指をすばやく動かすことで、ポインタの移動速度を「速度」で設定した以上に速くすることができます。パッド上でゆっくり指を動かしたときは、「速度」で設定した速度で動きます。

オートジャンプ

ウィンドウやダイアログボックスを開いたときに、ポインタをボタンの上に自動的に合わせるように設定できます。

「ハードウェア」タブの設定

「ハードウェア」タブにはNXパッドの状態が表示されます。
NXパッドの詳細な情報を表示させたり変更したりする場合は、「プロパティ」ボタンをクリックし「NX PADのプロパティ」ウィンドウで設定を行ってください。
NXパッドに問題がある場合は、「トラブルシューティング」ボタンをクリックするとハードウェアトラブルシューティングを開始します。

「タッピング」タブの設定

タッピング

をクリックして にすると、タップが効かないように設定できます。

タッピング速度

タップする速度を調節します。タップの間隔(指をパッドに触れてから離すまで)を調整することで、間違っただけではタップにならないように設定できます。

ドラッグロックの設定

パッド上でドラッグをしている場合のドラッグロックの設定ができます。ドラッグしている途中でパッドから指を離しても、ドラッグしたままの状態を保つことができます。

タイピング

キー入力時に間違っただけでタップされたり、ポインタが移動するのを防ぐことができます。

「ジェスチャー」タブの設定

コーナータップ

パッドの左上角や右上角をタップする動作に、次の機能を割り当てることができます。

- ・ショートカットメニューの表示
- ・全ウィンドウ最小化
- ・オートスクロール
- ・最近使ったファイルの表示
- ・イージーキャプチャー
- ・お気に入りの表示



メモ

イージーキャプチャーは、「ペイント」などのアプリケーションを起動しなくても、NXパッドを操作して簡単な絵を作成し、起動中のアプリケーションに貼り付けることができる機能です。

ブラウザ補助機能

パッドの上端を左右どちらかになぞって指を離すと、ブラウザの「進む」「戻る」の操作ができます。


スクロール機能

パッドの右端、下端をなぞって上下、左右にスクロールすることができます。また、以下の設定を行うことで、機能をより使いやすくすることもできます。

- ・スクロール速度
スクロールする速度を設定することができます。
- ・スクロール領域
パッド上のスクロール機能で使用する部分を「スクロール領域」といいます。スクロール領域の広さを変更することができます。

「その他」タブの設定

トレイアイコン

「タスクバーにアイコンを表示する」の をクリックして にすると、画面右下の通知領域に  が表示されなくなります。

IMEキャプチャー

IMEパッドの手書き入力エリアでタップすると、絶対座標モードで入力できるようになります。「使用する」の をクリックして にすると、この機能が有効になります。

イーजीキャプチャーの設定

「イーजीキャプチャーの設定」ボタンをクリックすると、次の各設定を変更できます。

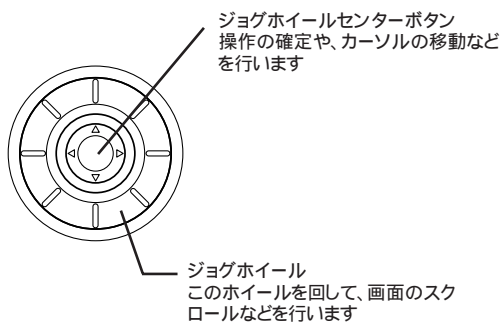
イーजीキャプチャーは、「ジェスチャー」タブの中の「左(または右)コーナータップ」で割り当てることができます。

- ・キャンパスサイズ
使用するキャンパスの幅、高さを変更できます。
- ・線の種類
使用する線の太さ、色を変更できます。
- ・オプション

「前回のイメージを保持する」の をクリックして にすると、イーजीキャプチャーで描いたイメージが保存され、次回イーजीキャプチャーを開いたときに表示されます。

ジョグホイール

名称と役割

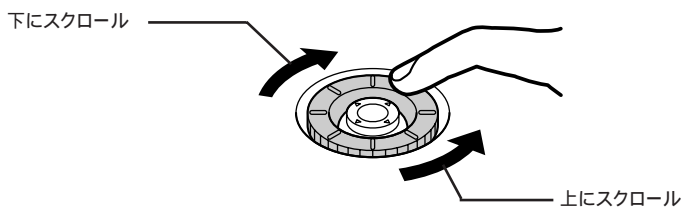


ジョグホイールを使う

ジョグホイールを使うと、次のような操作ができます。

画面を上下方向にスクロールさせる

画面を下にスクロールしたい場合は、ジョグホイールを時計回りに回します。画面を上スクロールしたい場合は、ジョグホイールを反時計回りに回します。

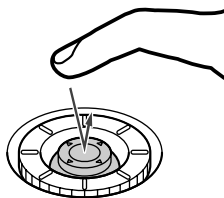


❗ チェック

ジョグホイールを回すときに、センターボタンを同時に押さないようご注意ください。

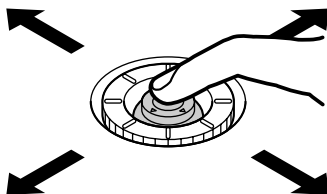
確定する

ジョグホイールセンターボタンの上から垂直にボタンを1回押すと、キーボードの【Enter】と同じ働きをします。



カーソルを移動する

カーソルを移動させたい方向に合わせて、センターボタンを液晶側、手前、左方向、または右方向に倒すと、キーボードの【**↑** **↓** **←** **→**】と同じ働きをします。



チェック

ポインタの移動はできません。



メモ

- ・上記の使いかたのほか、アプリケーションにより、ジョグホイールに固有の機能が割り当てられている場合があります。
音楽や映像の再生 / 編集に関する操作方法についてはPART3をご覧ください。また、テレビに関する操作方法については『TVモデルガイド』をご覧ください。
- ・パソコンの電源が入っている場合は、ジョグホイールが常時青色に点灯します。
ジョグホイールの点灯 / 消灯の切り替え方法についてはp.6をご覧ください。

インナーシートホルダー

インナーシートホルダーとは

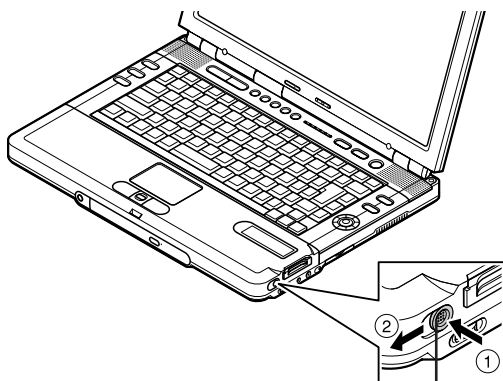
このパソコンのメディア用ポケットには、インナーシートホルダーが取り付けられています。

インナーシートホルダーに好みのデザインの内紙を差し込み、ネームラベルや写真入れのように利用することができます。

インナーシートホルダーの取り外しかたと取り付けかた

インナーシートホルダーを取り外す

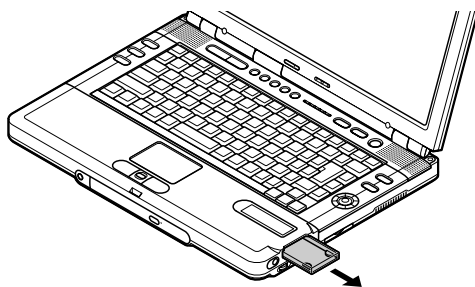
- 1 メディア用ポケットロックボタン(▲)を図の矢印の方向にスライドさせる



押し込みながら()
手前にスライドさせる()

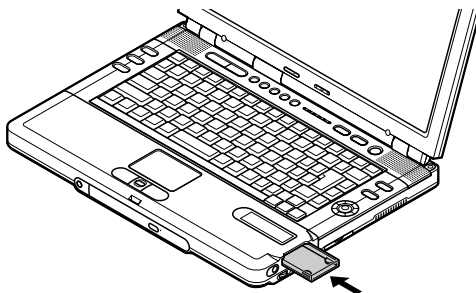
インナーシートホルダーが少しとび出します。

2 インナーシートホルダーを水平に静かに引き抜く



インナーシートホルダーを取り付ける

- 1 インナーシートホルダーの向きを確認し、ラベル面を上にして水平に静かに差しこむ




インナーシートを作成する

インナーシートホルダーの中に差し込む用紙を「インナーシート」と呼びます。「らくちんプリント」を使うと、インナーシートの作成 / 編集 / 印刷ができます。らくちんプリントでは、用意されているデザインの中からお気に入りのものを選んだり、好きな画像データを使ってオリジナルデザインのインナーシートを作成することなどができます。

購入時の状態では、らくちんプリントはインストールされていません。らくちんプリントを使う場合は、インストールを行ってください。



参照

- ・らくちんプリントのインストール方法について  「ばそガイド」 「アプリケーションの追加と削除」
- ・らくちんプリントについて 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「らくちんプリント」 「らくちんプリントのヘルプ」 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「らくちんプリント」 「らくちんプリントのマニュアル」



チェック

らくちんプリントを使うには、あらかじめプリンタを使えるように設定しておく必要があります。

ハードディスク


ハードディスクを使用するときの注意

ハードディスクとは

ハードディスクとは、Windows やアプリケーションなどのソフトウェア、またはそれらで作成したデータを記録し、読み出すための装置です。非常に精密な機械なので、強い衝撃や過度の重量などが加わらないように注意してください。



チェック


データの読み書き中(ハードディスクアクセスランプ  の点灯中)は少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。

データのバックアップについて

ハードディスクが故障すると、大切なデータが失われてしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは再セットアップしても元通りにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどのハードディスク以外の媒体にこまめにバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。



参照

バックアップの取りかた 『困ったときのQ&A』PART1の「トラブルの予防」または  「ばそガイド」の「トラブルの予防」 大事なデータはバックアップを取ろう」

ハードディスクの領域の削除やフォーマットについての注意

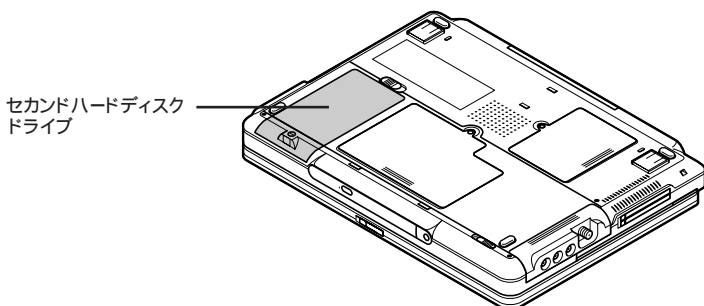
Dドライブは絶対に削除やフォーマットをしないでください。削除やフォーマットをすると再セットアップができなくなります。再セットアップは、Windowsが起動しなくなった場合に、パソコンを購入時の状態に戻すための操作です。

セカンドハードディスクドライブを使う

セカンドハードディスクドライブ搭載モデルでは、セカンドハードディスクドライブがあらかじめパソコンに取り付けられています。

セカンドハードディスクドライブが搭載されていないモデルでは別売のセカンドハードディスクドライブ(PC-VP-WU10)を利用することができます。

セカンドハードディスクを利用すると、より大量のデータをハードディスクに保存できるようになります。



チェック

セカンドハードディスク使用時には、ACアダプタを本体から取り外さないでください。

セカンドハードディスクドライブの取り外しかたと取り付けかた

セカンドハードディスクドライブを取り外す

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る

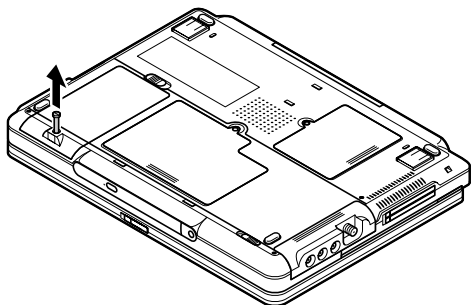


チェック

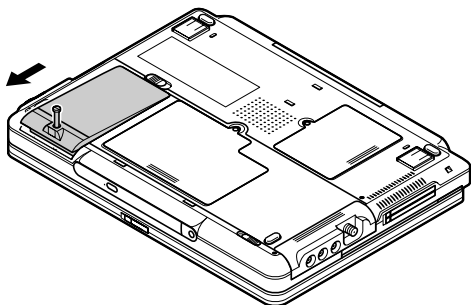
セカンドハードディスクドライブを取り外す場合は必ず電源を切ってください。スタンバイ状態や休止状態でセカンドハードディスクドライブを取り外すと、元の状態に復帰できなくなります。

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

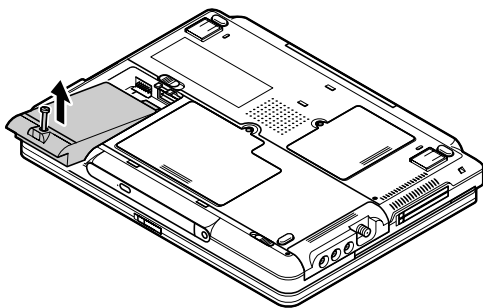
4 マイナスドライバーでネジを緩め、ネジを上方に持ち上げる



5 ネジを上方に持ち上げたまま、セカンドハードディスクドライブをコネクタから外れるまで矢印の方向に引っ張る



6 ネジを上方に持ち上げたまま、セカンドハードディスクドライブを矢印の方向に持ち上げて取り外す



セカンドハードディスクドライブを取り付ける

バッテリーパックを使用している場合は、あらかじめバッテリーパックを取り外しておいてください。



参照

バッテリーパックを取り外す このPARTの「バッテリー」の「バッテリーパックを交換する」(p.58)

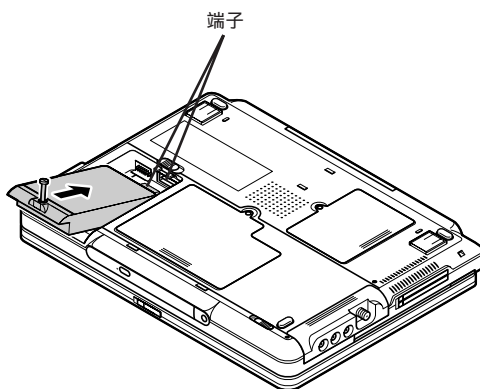
- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る



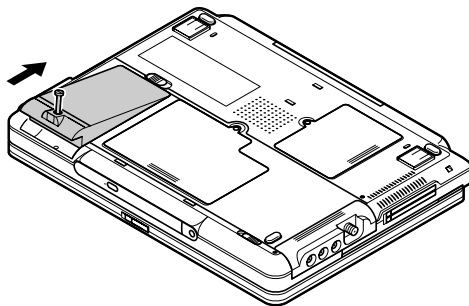
チェック

セカンドハードディスクドライブを取り付ける場合は必ず電源を切ってください。スタンバイ状態や休止状態でセカンドハードディスクドライブを取り付けると、元の状態に復帰できなくなります。

- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 セカンドハードディスクドライブを端子の位置に注意してバッテリースロットにセットする



- 5 セカンドハードディスクドライブをできるだけ本体背面に水平にし、図の矢印の方向に押し込む



- 6 マイナスドライバーでネジを締める

フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクは添付のフロッピーディスクドライブにセットしてお使いください。

フロッピーディスクドライブの接続のしかたと取り外しかた

⚠ 注意



高温注意

パソコンの使用直後は、TVチューナパックおよびその周辺が熱くなっていますので、取り扱いにご注意ください。

TVチューナパックを取り外す場合には、パソコンの電源を切って数分たってから行うことをお勧めします。




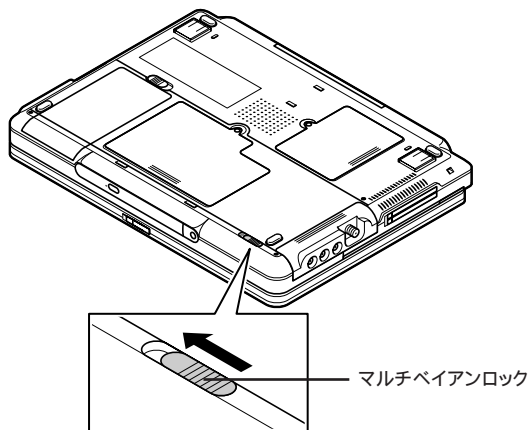
チェック

フロッピーディスクドライブを使うには、内蔵のTVチューナパックを取り外す必要があります。

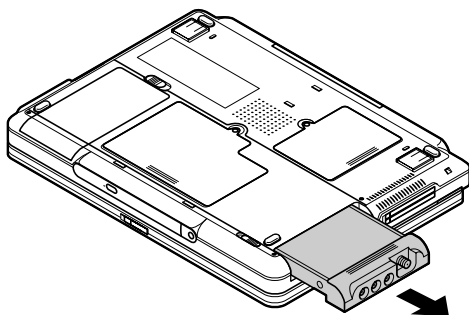
パソコンからTVチューナパックを取り外すと、テレビが見られなくなります。

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 アンテナ線を接続している場合はパソコンからアンテナケーブルを取り外す
- 4 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

- 5** マルチベイアンロック()を矢印の方向へスライドさせる
スライドさせたままの状態、次の手順に進んでください。

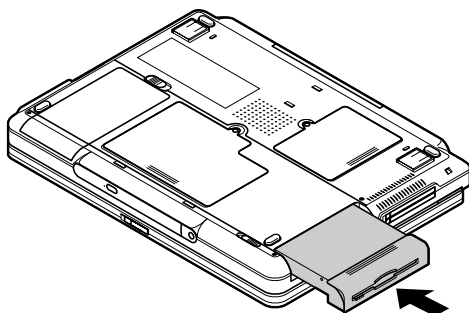


- 6** TVチューナパックを矢印の方向にスライドさせる
TVチューナパックがはずれます。



7 フロッピーディスクドライブを矢印の方向にカチッという音するまで差し込む

これで、接続は完了です。




パソコンでテレビを見るときには、同様の手順でフロッピーディスクドライブを取り外し、TVチューナバックを取り付けてください。

使用できるフロッピーディスクの種類

このパソコンのフロッピーディスクドライブでは、1.44Mバイトまたは720Kバイトでフォーマットされたフロッピーディスクを使用することができます。フロッピーディスクのフォーマットについては、Windowsのヘルプをご覧ください。

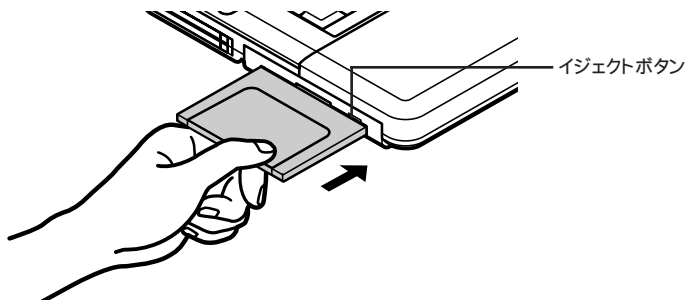
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

- ・パソコンにフロッピーディスクドライブを取り付ける前にフロッピーディスクドライブを参照するような操作を行ったときには、次の操作ができるようになるまで時間がかかることがあります。
- ・このパソコンでは、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・Windowsの「ディスクのコピー」またはコマンドプロンプトのDISKCOPYコマンドでコピーを行うときは、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクアクセスランプ()が点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・1.44Mバイト以外の容量でフロッピーディスクをフォーマットすることはできません。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた


フロッピーディスクをセットする

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。

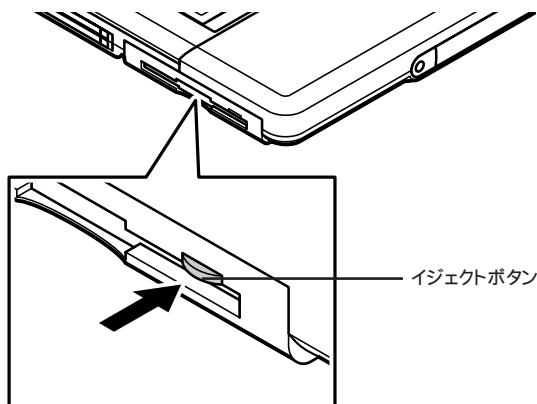


フロッピーディスクを取り出す

⚠️ チェック

フロッピーディスクに書き込み中、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ()が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

- 1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し飛び出します。



2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す

フロッピーディスクをフォーマットする

1 フロッピーディスクをセットする

2 「スタート」ボタン 「マイ コンピュータ」をクリックする

「マイ コンピュータ」ウィンドウが表示されます。

3 「3.5インチFD」アイコンを右クリックする

4 メニューから「フォーマット」をクリックする

「フォーマット」ウィンドウが表示されます。

5 「開始」ボタンをクリックする

フォーマット作業がはじまります。



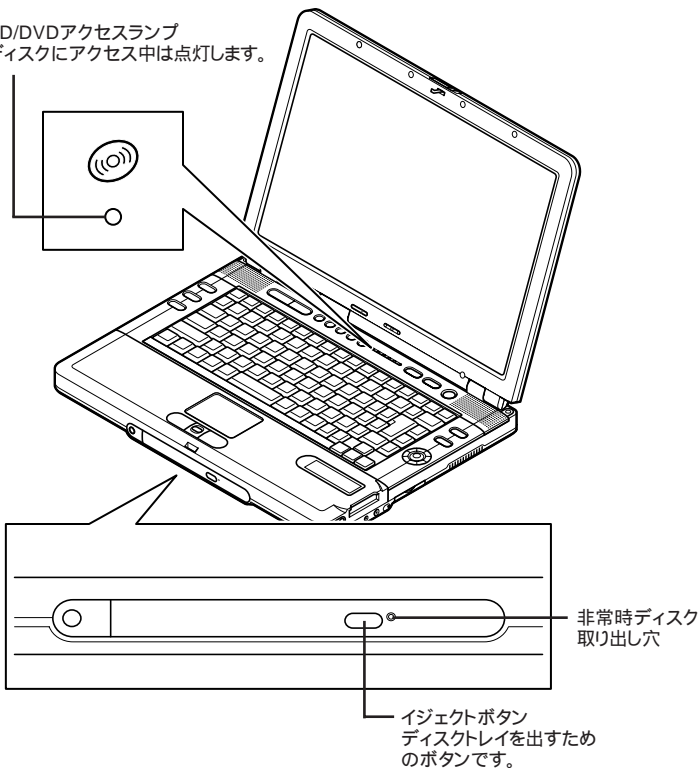
メモ

「クイック フォーマット」を行う場合は、「フォーマット オプション」欄の「クイック フォーマット」のをクリックしてにしてください。

CD/DVDドライブ

名称と役割

CD/DVDアクセスランプ
ディスクにアクセス中は点灯します。



メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

再生可能なディスク

音楽CD、ビデオCD、フォトCD、DVD VIDEOディスク

読み込み可能なディスク

CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM

書き込み可能なディスク

CD-R、CD-RW

書き換え可能なディスク

CD-RW

CD/DVDドライブを使用するときの注意

- ・ CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・ 本体のCD/DVDアクセスランプ(◎)が点灯している場合は、絶対にディスクを取り出さないでください。故障の原因となります。
- ・ ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。故障の原因となることがあります。またラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、操作中に手に振動を感じる場合があります。

ディスクのセットのしかたと取り出しかた

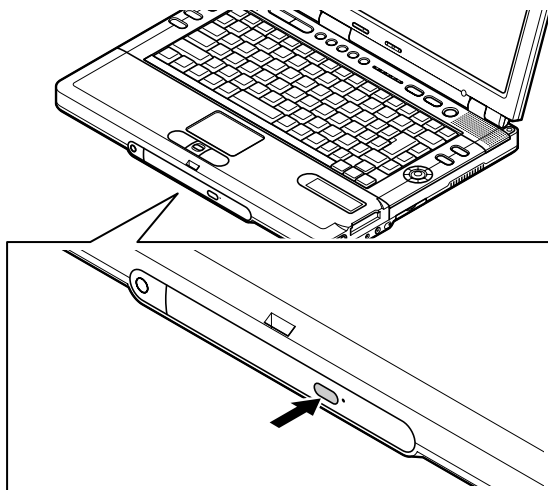
ディスクをセットする



メモ

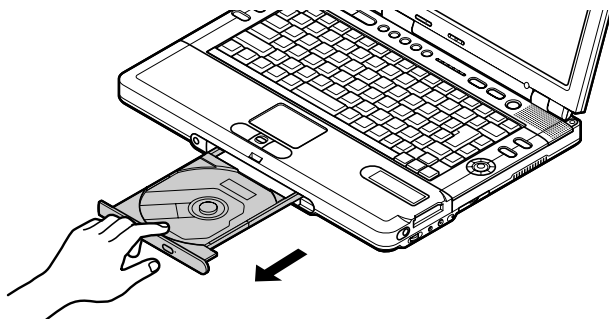
パソコンの電源が入っていない場合や、スタンバイ状態または休止状態の場合は、ディスクをセットすることはできません。

1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す

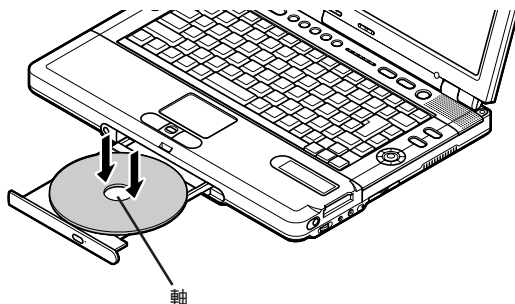


ディスクトレイが少し飛び出します。

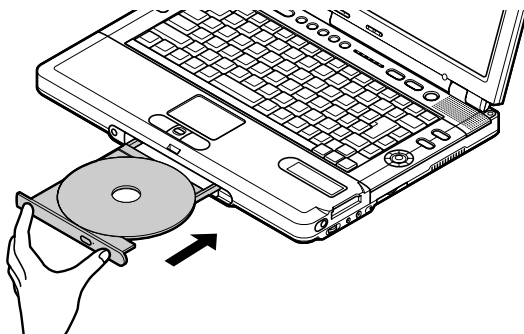
2 手でディスクトレイを静かに引き出す



3 ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、軸にしっかりはめ込む



4 CD/DVDドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す





メモ

CD/DVDドライブにディスクをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)。

このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。

どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の✕をクリックしてください。

ディスクを取り出す



メモ

パソコンの電源が入っていない場合や、スタンバイ状態または休止状態の場合は、ディスクを取り出すことはできません。

- 1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2 手でディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す
- 3 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

ディスクを取り出せなくなった場合は

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴(p.41)に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



チェック

CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使わないようにしてください。

音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する



チェック

DVD VIDEOディスクは、リージョンコード(国別地域番号。日本は2です)によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。

Jet-Audio Playerを使う

このパソコンには、音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生するためのアプリケーションとして、「Jet-Audio Player」がインストールされています。Windowsが起動しているときにディスクをセットすると、自動的にJet-Audio Playerが起動して再生がはじまります。




チェック

デュアルディスプレイ機能(p.145)の実行中や、画面をこのパソコンの液晶ディスプレイとテレビに同時表示している場合には、DVD VIDEOディスクを再生することはできません。



参照

- ・「Jet-Audio Player」の使いかたについて  「ぱそガイド」 「パソコンでできること」 または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「Jet-Audio Player」 「使い方マニュアル」
- ・CD/DVDプレーヤボタンでJet-Audio Playerを操作するには PART3の「音楽の再生 / 編集機能」の「音楽を再生するには」(p.110)

CDプレイモードで音楽CDを再生する


このパソコンの電源が入っていない場合や、スタンバイ状態または休止状態の場合に、Windowsを起動することなく音楽CDを再生することができます。



参照

CDプレイモードを使う PART3の「音楽の再生 / 編集機能」の「CDプレイモードで音楽CDを再生する」(p.112)

CD-RやCD-RWにデータを書き込む

「RecordNow DX」を使うと、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができます。詳しくは、 「ぱそガイド」 「パソコンでできること」 「RecordNow DX」をご覧ください。

液晶ディスプレイ

解像度と表示色



メモ

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。



チェック

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

このパソコンでは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	液晶 ディスプレイ のみに表示	別売の ディスプレイ のみに表示	液晶ディスプレイ と別売の ディスプレイ の同時表示 ¹⁾	テレビ のみ
800 × 600	65,536色				
	1,677万色 ²⁾				
1,024 × 768	65,536色				
	1,677万色 ²⁾				
1,280 × 768	65,536色 ³⁾		×		
	1,677万色		×		
1,280 × 1,024	65,536色				
	1,677万色				
1,600 × 1,200	65,536色				
	1,677万色				

：フルスクリーン表示可能

x：表示不可

：【Fn】を押しながら【F10】を押して拡大 / 縮小切り替え可能 (拡大画面の場合、縦横比が正しく表示されない)

：【Fn】を押しながら【F10】を押して拡大 / 縮小切り替え可能 (拡大画面の場合、縦横比が正しく表示されず、縮小画面の場合、画面の両端が黒く表示される)

：バーチャルスクリーンでのみ表示可能で、【Fn】を押しながら【F10】を押して拡大 / 縮小切り替え可能 (拡大画面の場合、縦横比が正しく表示されず、縮小画面の場合、画面の両端が黒く表示される)

：【Fn】を押しながら【F10】を押して拡大 / 縮小切り替え可能 (縮小画面の場合、縦横比が正しく表示されない)

：【Fn】を押しながら【F10】を押して拡大 / 縮小切り替え可能 (縮小画面の場合、縦横比が正しく表示されず、画面の両端が黒く表示される)

：別売のディスプレイには、1,024 × 768の解像度で表示される

: パーチャルスクリーンでのみ表示可能で、【Fn】を押しながら【F10】を押して拡大 / 縮小切り替え可能(拡大画面の場合、画面の両端が黒く表示され、縮小画面の場合、縦横比が正しく表示されない)
: パーチャルスクリーンでのみ表示可能

- 1: 別売のCRTディスプレイ未接続時は、このパソコンの液晶ディスプレイのみに表示される
- 2: このパソコンの液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのデザイン機能により実現
- 3: 購入時の設定



メモ

320 × 200ドット、320 × 240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、このパソコンでは画面のまわりが黒く表示されます。

解像度と表示色の設定

ディスプレイの解像度と表示色はコントロールパネルで設定します。

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「デスクトップの表示とテーマ」 「画面」をクリックする

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 「画面の解像度」または「画面の色」を変更する

・画面の解像度の変更をする場合


「画面の解像度」欄でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。



チェック

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

・色の変更をする場合

「画面の色」欄で  をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。



メモ

中(16ビット)とは65,536色のことで、最高(32ビット)は1,677万色のことです。

4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする

このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

画面表示を調整する

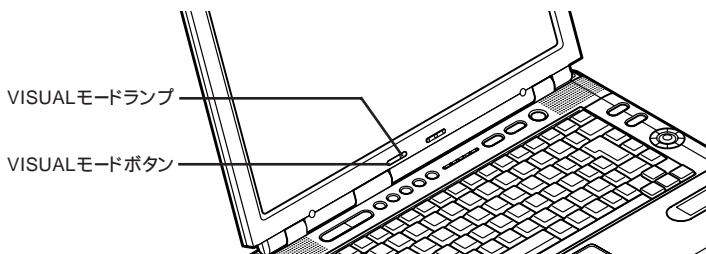
キーボードの【Fn】やボタンを使って画面表示の調整ができます。

明るさを調整する

キーボードを使う

機能	キー操作	説明
輝度を上げる(▲☀)	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる(▼☀)	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。

VISUALモードボタンを使う



VISUALモードボタンを押すとVISUALモードのオン / オフが切り替わります。VISUALモードにすると、バックライトが明るくなります(VISUALモード時は、VISUALモードランプが緑色に点灯します)。

画面の伸縮を調整する

キーボードを使う

機能	キー操作	説明
画面の伸縮	【Fn】+【F10】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する / しないを切り替えます。

バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。



メモ

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポイントをディスプレイの画面の端に移動させます。ポイントの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

バーチャルスクリーンモードを設定する

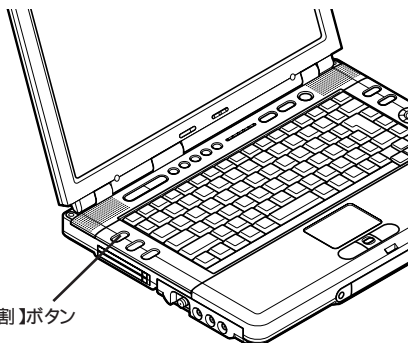
このパソコンの液晶ディスプレイでは、1,280×1,024、1,600×1,200の解像度はバーチャルスクリーン表示になります。外部CRTディスプレイ接続時、これらの解像度が選択できないことがあります。下記手順を実行することで選択可能になります。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「デスクトップの表示とテーマ」 「画面」をクリックする
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「このモニタでは表示できないモードを隠す」の をクリックして にする

画面分割機能

アプリケーションのウィンドウをワンタッチ操作でディスプレイ上に分割して表示することができる機能です。デスクトップ上を2分割(縦または横)、4分割、6分割にして起動しているアプリケーションを表示することができます。分割のしかたは変更することができます。

1【画面分割】ボタンを押す



【画面分割】ボタン

画面が分割表示され、次のような画面が表示されます。



画面の分割のしかたを設定することができます。
分割したい画面の数と方法をクリックしてください

ディスプレイに表示したいアプリケーションを選べます。
(ウィンドウサイズが固定されている一部のアプリケーションなどは、起動していても表示されません。)

画面の分割数や、表示するアプリケーションは右側の設定画面で選んで変更することができます。

もう一度【画面分割】ボタンを押すと、通常のデスクトップの画面に戻ります。

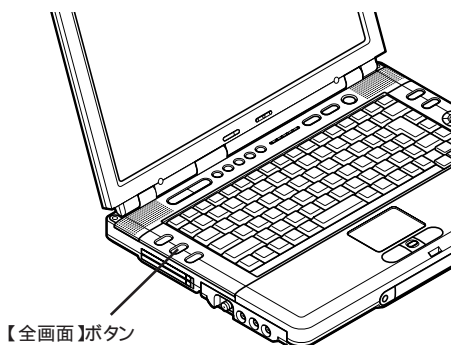
【全画面】ボタンを使う

アプリケーションのウィンドウが分割していたり、重なっていたりしてウィンドウの内容が見えにくくなるときがあります。そんなときは、【全画面】ボタンでディスプレイいっぱいにアプリケーションのウィンドウを拡大することができます。

1 ディスプレイいっぱいに表示したいアプリケーションのウィンドウをクリックする

最小化されてタスクバーにある場合は、タスクバーにある表示したいアプリケーションのボタンをクリックします。

2 【全画面】ボタンを押す



アプリケーションのウィンドウがディスプレイいっぱいに表示されます。もう一度【全画面】ボタンを押すと、ウィンドウが元のサイズに戻ります。

バッテリー

バッテリーのみで使う

バッテリーパックを使うと、AC電源が無い場所でもパソコンを使うことができます。セカンドハードディスクドライブ搭載モデル以外では、バッテリーパックが添付されています。

セカンドハードディスクドライブ搭載モデルでは、セカンドハードディスクドライブを取り外すと、別売のバッテリーパック(PC-VP-WP32)を使うことができます。バッテリーだけの駆動時間は限られていますので、長時間使用する場合は、省電力機能を使用することをおすすめします。



参照

省電力機能について このPARTの「省電力機能」(p.61)

さらに次のような点に気をつけると、バッテリーパックを長持ちさせることができます。

- ・バッテリーの残量をできるだけなくしてから充電する
- ・充電はフル充電(バッテリー充電ランプが消灯)になるまで中断しない
- ・定期的にバッテリーリフレッシュを実行する(p.56)
- ・このパソコンを1か月以上使わないときは、バッテリーパックを取り外して、涼しいところに保管する



メモ

バッテリーは自然放電していますので、使用していない場合でも2~3か月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリーを充電する



チェック

- ・バッテリーの充電中は、バッテリーパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度もくりかえして使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。

バッテリーの充電のしかた

バッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電がはじまります。

バッテリーの充電状態は、バッテリー充電ランプ()で確認することができます (p.11)



- ・パソコンの電源を入れて使用しているときでもバッテリーは充電されます。
- ・充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

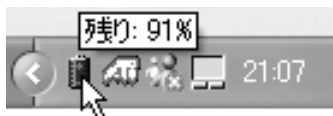


バッテリーの充電時間について PART6の「本体機能一覧」(p.176)

バッテリーの残量を確認する


バッテリー残量は、次の方法で確認することができます。

画面右下の通知領域にある  の上にポインタを合わせる



アイコンはバッテリーの残量により異なります。



 をダブルクリックすると、より詳しい情報が表示されます。

「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックし、表示された「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブで確認する



バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなった場合は

バッテリーの残量が少なくなると、電源ランプ(④)が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ(⑤)が点灯し、バッテリーの充電がはじまります。また、バッテリーを充電しながらパソコンを使用することもできます。

ACコンセントが使えない場合

使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。

上記の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態(p.65)になります。また、パソコンをバッテリーのみで使用している場合は、バッテリー残量が少なくなったときにパソコンをどのような状態にするかを設定しておくこともできます。次の「バッテリー残量が少なくなったときの動作の設定」をご覧ください。

🔍 チェック

フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリー残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリーのみで使用している場合、バッテリー残量が少なくなったとき、どのような動作をさせるかを設定します。設定の手順は次のとおりです。



チェック

次の設定を行う場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントでこのパソコンにログオンしてください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」 をクリックする
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「アラーム」タブをクリックする
- 3 バッテリー残量が少ないとき(バッテリー低下アラーム)と、バッテリー残量がわずかなとき(バッテリー切れアラーム)に、それぞれどのような動作をするようにしたいかを設定する
「アラームの動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリーリフレッシュを実行してください。

バッテリーでの駆動時間が短くなった

バッテリーを完全に使い切らないまま充電をくりかえしていると、バッテリーの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これをバッテリーの「メモリ効果」と呼びます。

購入直後や、長期間の放置で、バッテリーの性能が一時的に低下した
バッテリーの残量表示に誤差が生じている

バッテリーリフレッシュの実行

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける(p.59)

- 3 パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度ACアダプタとバッテリーパックを本体から外して、再度取り付けてください。
 - 4 バッテリーをフル充電(バッテリー充電ランプが消灯した状態)まで充電する
 - 5 BIOSセットアップメニューを起動する(p.168)
 - 6 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 7 【 】または【 】で「バッテリーリフレッシュ」を選び、【 Enter 】を押す

次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュがはじまります。



Battery Refresh Now(55% LEFT).....Don't close Display.....Press ESC Key to Cancel

🔍 チェック

バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。液晶ディスプレイを閉じると、ビビビと警告音が鳴ります。

バッテリーリフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的にパソコンの電源が切れます。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

1 【Esc】を押す

次のようなメッセージが表示されます。



Continue Battery Refresh

Cancel Battery Refresh


2【 または【 】で「 Cancel Battery Refresh 」を選び、【 Enter 】を押す
Windowsが再起動します。



バッテリーリフレッシュ中にパソコンの電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリーリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリーリフレッシュを続ける場合は「 Continue Battery Refresh 」を選んでください。中断する場合は「 Cancel Battery Refresh 」を選ぶと、バッテリーリフレッシュを中断し、Windowsが再起動します。

バッテリーパックを交換する

交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプ()が消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリーリフレッシュ(p.56)を行ってください。それでも使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

交換用のバッテリーパック

交換用のバッテリーパックはPC-VP-WP32(バッテリーパック(リチウムイオン))を使用してください。

バッテリーパックの交換のしかた

⚠ 警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意



毒物注意

使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠ 注意



感電注意

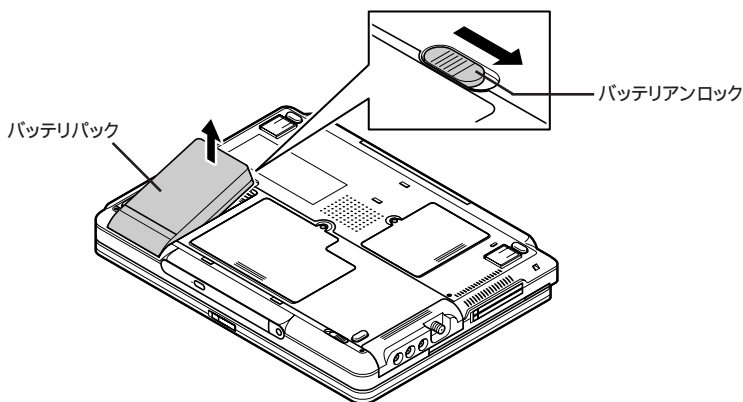
濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

⚠️ チェック

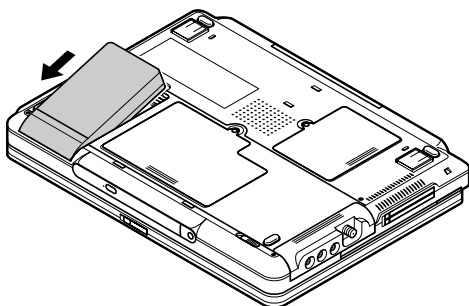
- ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・ スタンバイ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ (🔌) が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してから「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切ってください。
- ・ 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。

バッテリーパックを取り外す

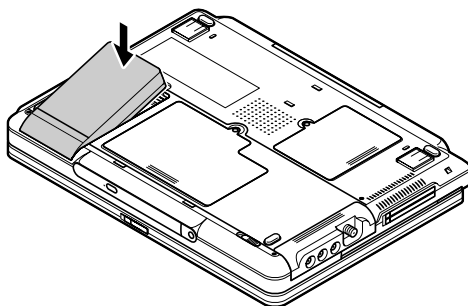
- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 バッテリーパックを取り外す
バッテリーアンロック (🔒) をスライドさせると、バッテリーパックが少し持ち上がります。バッテリーアンロックをスライドさせたままの状態、バッテリーパックを矢印の方向に持ち上げて取り外してください。



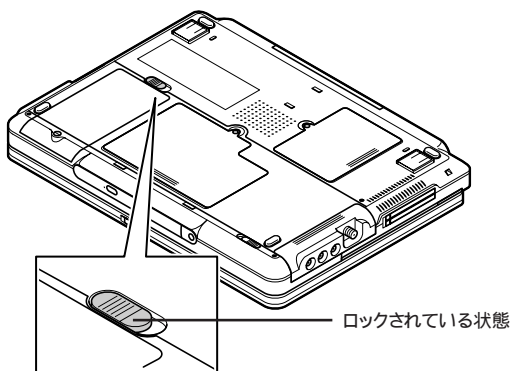
5 新しいバッテリーパックをバッテリースロットにセットする



6 図の矢印の方向にバッテリーパックを倒し込む



7 バッテリーアンロック(🔒)がロックされていることを確認する



省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

このパソコンの省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」、「休止状態(ハイバネーション)」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。このパソコンでの省電力機能の設定は、「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」で行います。

省電力機能を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のような場合には、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・プリンタへ出力中
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・「システムのプロパティ」ウィンドウを表示中
- ・Windowsの起動/終了処理中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、USB対応機器、IEEE1394対応機器を使用中

スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。

- ・バッテリーのみで使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー駆動時にバッテリー残量が少なくなってきたとき、パソコンをどのような動作にさせるかなどの設定もできます(p.55)。
- ・セカンドハードディスクドライブ搭載モデルをお使いの場合は、ACアダプタをパソコンから取り外さないでください。
- ・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
- ・SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- ・フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたままスタンバイ状態または休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。スタンバイ状態または休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してからスタンバイ状態または休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用しているときは、必要なファイルを保存してから、フロッピーディスクを取り出してください。
- ・「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックして各設定を変更する場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えやセカンドハードディスクドライブなど周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。
- ・タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、パソコンはスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。
- ・スタンバイ状態または休止状態から復帰後、デバイスの警告メッセージが表示される場合があります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。

スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。

スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が緑色に点滅します。

「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「スタンバイ」ボタンをクリックする

キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

ほかに、「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックし、「詳細設定」タブで設定を行うと、次のような方法でスタンバイ状態にするように設定できます。

電源スイッチを押す

「詳細設定」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

液晶ディスプレイを閉じる

「詳細設定」タブで、「ポータブル コンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定します。

スタンバイ状態の設定をする

「電源設定」で設定をする

「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」の「電源設定」タブでは、スタンバイ状態にするまでの時間を変更することができます。

また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。購入時には「常にオン」のモードに設定されています。モードは7つのモードから選ぶことができます。

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または画面の下段でそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力は何も行われないうまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何も入力がないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何も入力がないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。



メモ

- ・画面の下段の「××の電源設定」の「××」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。
- ・「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「モニタの電源を切る」「ハード ディスクの電源を切る」「システム スタンバイ」「システム休止状態」のそれぞれの時間を設定する

4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする

5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする

これで、新しいモードが登録されました。

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。

データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

休止状態にする

次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。
休止状態になると、電源ランプ(④)が消灯し、パソコンの電源が切れます。

「スタート」ボタン 「終了オプション」を使って休止状態にする

1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックする

2 【Shift】を押しながら「休止状態」ボタンをクリックする

【Shift】を押すと「スタンバイ」ボタンが「休止状態」ボタンに切り替わります。

バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする

ほかにも、次のいずれかの方法で休止状態にするように設定できます。

電源スイッチを押して休止状態にする

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「休止状態」タブをクリックする

3 「休止状態を有効にする」がになっていることを確認する

4 「詳細設定」タブをクリックする

5 「電源ボタン」欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

- 1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1～4を行う
- 2 「電源ボタン」欄の「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ
- 3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

スタンバイ状態や休止状態から復帰させる

スタンバイ状態や休止状態から復帰させることを「復帰」または「レジューム」といいます。

スタンバイ状態からの復帰

電源スイッチを押すとスタンバイ状態から復帰し、ログオン画面が表示されます。「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーでこのパソコンをお使いの場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。スタンバイ状態から復帰します。



液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰させることができます。また、タスクスケジューラを使って時刻を指定して復帰させることもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

休止状態からの復帰

電源スイッチを押すとパソコンの電源が入り、「Windows を再開しています...」と表示された後、ログオン画面が表示されます。「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーでこのパソコンをお使いの場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。休止状態から復帰します。

セキュリティ機能

このパソコンのセキュリティ機能

このパソコンには、次のようなセキュリティ機能があります。

パスワード

パスワードを設定することにより、パソコンの不正使用やデータの盗難を防止することができます。

ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

起動セクタへの書き込みを禁止することにより、パソコンの起動に必要なファイルへのウイルス感染を防止することができます(p.171)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロック(p.3)に別売のセキュリティケーブル(PK-SC/CA01)を取り付け、盗難を防止することができます。



チェック

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する

パスワードを設定することで、このパソコンの使用者を制限するとともに、不正使用を防止することができます。パスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・ BIOSセットアップメニューの起動と設定変更
- ・ パソコンの起動
- ・ スリープ状態(スタンバイ状態または休止状態)からの復帰
- ・ キーボードやポインティングデバイスからの入力



チェック

- ・ 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。
- ・ ご購入元、NECフィールドイングの各支店、営業所などにこのパソコンの修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。



参照

パスワードを忘れてしまった 『困ったときのQ&A』PART2の「パスワード」

パスワードの種類

設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、このパソコンの使用者を制限するために設定します。また、使用者の使用できる機能を制限することもできます。

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、パスワード入力のタイミングを、起動時やスリープ状態からの復帰時に設定しておくこともできます。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに使用者のためのパスワードで、パスワードを入力しないと、パソコンを使用できなくなります。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知します。このように設定しておく、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、パソコンを起動することもできません。

パスワードを設定する

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動することができなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.168)

2 「セキュリティ」を選ぶ

3 【 】または【 】で、「スーパーバイザパスワードの設定」または「ユーザパスワードの設定」を選ぶ



チェック

スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 【Enter】を押す

パスワード設定の画面が表示されます。

5 パスワードを入力する



パスワードの文字列は、6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字 / 小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。

6 【Enter】を押す

7 手順5で入力したパスワードを、もう一度入力する

8 【Enter】を押す



設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

パソコンの起動時

パソコンの起動時に常にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.168)
- 2 「セキュリティ」の「起動時のパスワード」を選ぶ
- 3 「はい」を選ぶ
- 4 BIOSセットアップメニューを終了する

スリープ状態からの復帰時



チェック

「起動時のパスワード」を「はい」に設定していないと、「レジューム時のパスワード」の設定は変更できません。

スリープ状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.168)
- 2 「セキュリティ」の「レジューム時のパスワード」を選ぶ
- 3 「はい」を選ぶ
- 4 BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを入力する

パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」の「起動時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

- 1 パソコンの電源を入れる
次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。


Enter CURRENT Password : _

- 2 設定されているパスワードを入力する
- 3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。





チェック

- ・ 誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチ()を押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

パスワードを設定しているときの復帰のしかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」の「レジューム時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 パソコンの電源を入れる

キャップスロックキーランプ () とスクロールロックキーランプ () が同時に点滅します。このとき、画面には何も表示されません。

2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、データが復帰されてデータの内容が表示されます。



チェック



- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないとは復帰できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

キーボードロック

キーボードロックを設定すると、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

キーボードロックを設定する

1 パスワードが設定されているときに【Ctrl】+【Alt】+【Back Space】または【Fn】+【Back Space】を押す

キャップスロックキーランプ () とスクロールロックキーランプ () が同時に点滅し、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

キーボードロックを解除する

キーボードロックは次の手順で解除してください。

1 キャップスロックキーランプ () とスクロールロックキーランプ () が同時に点滅していることを確認する

2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

このとき、画面にはパスワード入力画面は表示されません。

3【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されるとランプは消灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力が可能になります。



チェック

- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと解除できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると解除できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

サウンド機能


このパソコンのサウンド機能

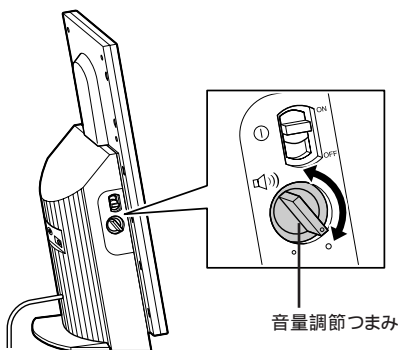
このパソコンには外付けのスピーカが添付されています。外付けスピーカからの生成音量は、スピーカ本体の「音量調節つまみ」や、Windowsの「ボリュームコントロール」を使って調節できます。

外付けスピーカを接続していない場合は、パソコンに内蔵されているスピーカから音声が出力されます。内蔵スピーカの音量はパソコン本体の「音量調節つまみ」や、Windowsの「ボリュームコントロール」を使って調節できます。

音量を調節する

外付けスピーカを接続している場合

外付けスピーカの音量調節つまみ()で音量を調節します。音量を上げたい場合はつまみを右に回し、下げたい場合は左に回します。



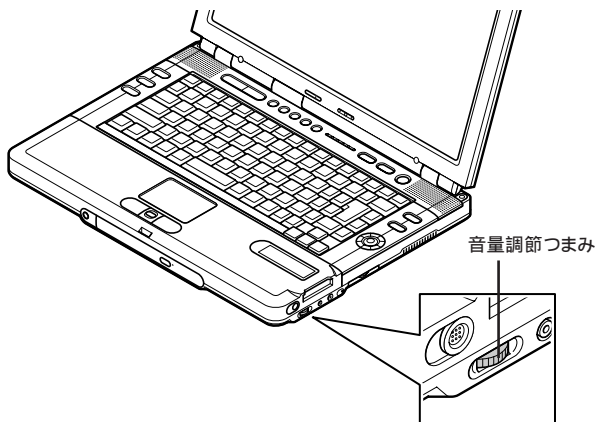
チェック

- ・ 外付けスピーカの音量は本体の音量とも連動しています。外付けスピーカの音量調節つまみで調節してもうまく調節できない場合は、次の「外付けスピーカを接続していない場合」をご覧ください。パソコン本体の音量調節つまみでも調節してください。(パソコン本体で最大、外付けスピーカで最大にしたときに最大の音が出ます。)
- ・ 外付けスピーカ使用時は、パソコン本体のスピーカは動作しません。

外付けスピーカを接続していない場合

パソコン本体の音量調節つまみ()で音量を調節します。

音量を上げたい場合はつまみを奥に倒し、下げたい場合は手前に倒します。



ボリュームコントロールを使う

「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「エンターテインメント」
「ボリューム コントロール」を開くと、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

ビープ音を設定する

キーボードの【Fn】+【F6】を押すと、ビープ音のオン / オフを切り替えることができます。

同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力機能について

このパソコンには同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力端子が用意されており、デジタル入出力を持ったオーディオ機器を接続して音楽などを再生したり、録音することができます。



メモ

デジタル入出力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプ、DVDプレーヤなどがあります。

同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、スピーカから出力されるすべての音声をデジタル出力できます。

(WAVE出力、MIDI出力、音楽CDの再生音など)



参照

同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力端子 PART4の「同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力端子」(p.163)

同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)出力するための設定

このパソコンで同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からデジタルで出力するためには、以下の設定が必要です。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」をクリックする
- 2 画面左側にある「関連項目」「コントロールパネルのその他のオプション」をクリックし、「ヤマハ DS-XG設定」をクリックする
「ヤマハ DS-XG設定」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デジタル出力」タブをクリックする
- 4 「OFF」以外の設定にする
- 5 「OK」ボタンをクリックする

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について

このパソコンには、ヘッドホン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子が用意されており、光デジタル入力を持ったオーディオ機器に接続して音楽などを再生したり、オーディオ機器にデジタル録音できます。



メモ

光デジタル入力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプなどがあります。

ヘッドホン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、WAVE出力、MIDI出力、音楽CDなどのデジタル再生音を出力することができます。別売のサラウンド5.1chスピーカ・システムを接続することにより、DVD VIDEOディスク再生時に5.1chのDolby Digitalを出力することができます。

Dolby, ドルビー, Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
非公開機密著作物。著作権1992 - 1999年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能を使う場合は、「同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)出力するための設定」(p.75)と同様の手順で設定してください。

音楽CDのデジタル出力設定

音楽CDを、同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からデジタル出力する場合、または、ヘッドホン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子から光デジタル出力する場合は次の手順で設定を変更してください。

- 1 「デバイス マネージャ」を開く (p.iii)
- 2 「DVD/CD-ROM ドライブ」の左の \oplus をクリックする
- 3 表示されるCD-ROMデバイスをダブルクリックする
- 4 「プロパティ」タブをクリックする
- 5 「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」が \square になっていることを確認する
- 6 「OK」ボタンをクリックする
- 7 「デバイス マネージャ」ウィンドウを閉じる
- 8 「OK」ボタンをクリックする

P A R T

2

通信機能

このパソコンを、一般の電話回線、携帯電話や PHS、ネットワークなどに接続して使う方法を説明します。

モデム

内蔵モデムを利用する

内蔵FAXモデムと電話回線を接続すると、インターネットやメールの利用、FAXの送受信などができるようになります。

電話回線に接続するときは

使用する電話回線の種類によってはすぐに接続できない場合があります。3ピンプラグ式コンセントの場合は、市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、モジュージャック方式への変更が必要です。また、直結配線方式の場合は、モジュージャック方式への変更が必要です。モジュージャック方式への変更についてはNTTに相談してください。

電話回線に接続する

このパソコンに電話回線を接続する場合は、添付のモジュラーケーブルを使用して、本体の電話回線用モジュラーコネクタ(□) (p.3)と電話回線を接続してください。

接続について詳しくは、『はじめにお読みください』をご覧ください。



参照

電話回線に接続する 『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」



メモ

このパソコンに付属のモジュラーケーブルの長さが足りない場合は、十分な長さの市販のモジュラーケーブルを購入してください。



チェック

内蔵FAXモデムは、一般加入電話回線に適合するように設計されています。一般加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

1つの電話回線のモジュージャックをパソコン以外の機器(たとえば電話機など)と共用する場合は、機器を使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。パソコンと電話機などを両方も電話回線に接続したままにしたい場合は、次の1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続するをご覧ください。

1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する



電話回線のモジュラージャックが1つの場合、パソコンで通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機のモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタを利用し、パソコンと電話機の両方を接続することができます。



チェック

- ・分岐アダプタを使用しても、パソコンと電話機で同時に電話回線を使用することはできません。
- ・パソコンで通信中は、電話機の受話器を外さないでください。通信が妨害され、切断されることがあります。


内蔵モデムを使用するときの注意

- ・このパソコンでは、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使えますが、これらの機能は添付のアプリケーション以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については「ばそガイド」をご覧ください。
- ・内蔵FAXモデムは一般加入電話回線のみに対応しています。一般加入電話回線以外に接続すると、パソコン本体の故障、発熱の原因になることがありますので注意してください。
- ・構内交換機 (PBX) の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。構内交換機 (PBX) が、NTTの一般加入電話回線と同等であることを確かめてください。
- ・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからない場合は、NTTに確認してください。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり通信時に雑音が入ることがあります。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ダイヤルアップネットワーク接続の場合、Internet Explorerを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。回線を切断する必要がある場合は、画面右下の通知領域にあるを右クリックし、表示されたメニューから「切断」をクリックしてください。
- ・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使っている場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。

- ・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要ことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・このパソコンの内蔵FAXモデムは、海外では使用できません。
- ・回線を使って通信中は、スタンバイ状態や休止状態にしないでください。
- ・内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、使用していないアプリケーションを終了させてください。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。




参照

ATコマンドについて  「ばそガイド」 「パソコンでできること」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、モデムを使用した接続設定にする場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「ネットワークとインターネット接続」 「ネットワーク接続」をクリックする
- 2 ダイヤルアップの接続設定をしているアイコンをダブルクリックする
- 3 「プロパティ」ボタンをクリックする
- 4 「全般」タブをクリックし、「接続方法」欄で次のものを選ぶ
 - ・ Lucent Technologies Soft Modem AMR
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 ウィンドウの右上の  をクリックしてウィンドウを閉じる



インターネットへの通信環境を切り替える

「インターネット設定切替ツール」を使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。

パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。購入時の状態では、インターネット設定切替ツールはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使う場合は、インストールを行ってください。



参照

- ・「インターネット設定切替ツール」のインストール方法  『パソコンガイド』「アプリケーションの追加と削除」
- ・「インターネット設定切替ツール」について  『パソコンガイド』「パソコンでできること」

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話またはPHSと接続する

このパソコンに携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。

このパソコンで携帯電話やPHSを接続する場合は、次のような別売のPHS接続ケーブルや携帯電話接続ケーブルが必要です(LaVie Gシリーズでそれぞれのケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

- ・ 携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)
- ・ cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)
- ・ PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)
- ・ PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)



メモ

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

接続の方法


このパソコンに携帯電話またはPHSを接続する方法は、次のとおりです。

⚠ 警告



感電注意

雷が鳴り出したら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

- 1 携帯電話接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する
プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。
- 2 パソコンのUSBコネクタ( p.2, p.3)に、接続ケーブルのUSBプラグを接続する
プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



接続ケーブルのプラグは、どのUSBコネクタに接続してもかまいません。USBコネクタへの接続については、PART4の「USB対応機器」(p.160)をご覧ください。

携帯電話 / PHS接続機能を使用するときの注意

- ・このパソコンの携帯電話 / PHS接続機能では、購入時にインストールまたは添付されているアプリケーションのみ使用できます。携帯電話用に市販されているアプリケーションを使用することはできません。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。




参照

ATコマンドについて  「ばそガイド」 「パソコンでできること」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にする場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「ネットワークとインターネット接続」 「ネットワーク接続」をクリックする
- 2 ダイヤルアップの接続設定をしているアイコンをダブルクリックする
- 3 「プロパティ」ボタンをクリックする
- 4 「全般」タブをクリックし、「接続方法」欄で次のものを選ぶ
・ SunComm MultiMobile3 USB
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 ウィンドウの右上の  をクリックしてウィンドウを閉じる

チェック

お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また、専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

携帯電話またはPHSを接続して、屋外などでインターネットや電子メールを利用する場合、近くのアクセスポイントを使えば電話料金を節約することができます。


メモ

ここでの説明は、すでにプロバイダとの契約が終わっていることが前提となっています。

インターネット設定切替ツールを使うと、使用する場所にあわせてダイヤル設定を切り替えることができます。

購入時の状態では、インターネット設定切替ツールはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使う場合は、インストールを行ってください。

参照

「インターネット設定切替ツール」のインストール方法  「ばそガイド」 「アプリケーションの追加と削除」

インターネット設定切替ツールでアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、まず自分が使用する予定の場所の市外局番やダイヤル方法、アクセスポイントを設定しておく必要があります。

一度設定すると、接続先を選ぶだけでインターネットエクスペローラやメールソフトの設定など、インターネットへの接続環境をすべて同時に変更することができます。外出先でも快適に利用するために、以降の説明を読んで必要な設定を行ってください。

外出先に最も近いアクセスポイントをあらかじめ調べておく

インターネット設定切替ツールでアクセスポイントを登録する

外出先に最も近いアクセスポイントを設定します。

BIGLOBE会員の方は、「BIGLOBEかんたん接続ナビ」で最も近いアクセスポイントを設定することができます。


インターネット設定切替ツールで接続先を切り替える

これで外出先でインターネットやメールを楽しむことができます。

外出先から帰ったら、インターネット接続の設定を元に戻す

インターネット設定切替ツールでインターネット接続の設定を自宅の設定に戻します。

メモ

- ・アクセスポイントを変更しなくてもインターネットやメールを楽しむことはできますが、アクセスポイントまでの電話料金がたくさんかかることとなります。最も近いアクセスポイントに変更することによって電話料金をおさえることができます。
- ・「BIGLOBEかんたん接続ナビ」でアクセスポイントを変更する  「パソコンガイド」 「BIGLOBE入会案内」

参照

「インターネット設定切替ツール」について  「パソコンガイド」 「パソコンでできること」

いろいろなデータ通信を行う

このパソコンの携帯電話 / PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

- ・ cdmaOneによるデータ通信
- ・ NTTドコモのDoPaサービスによるデータ通信
- ・ NTTドコモのドッチーモによるPIAFS32Kデータ通信
- ・ NTTドコモのドッチーモによるPIAFS64Kデータ通信
- ・ NTTドコモの64K対応PHSによるデータ通信
- ・ DDIポケットの32K対応電話機によるPIAFS32Kデータ通信
- ・ DDIポケットのH^W(エッジ)によるPIAFS64Kデータ通信

これらのデータ通信を利用する場合には、それぞれのデータ通信に対応した接続ケーブルと、ダイヤルアップの接続の設定が必要になることがあります。

チェック

これらのデータ通信を利用する場合は、アクセスポイントが利用するデータ通信に対応していることを確認してください。対応していないデータ通信方式で接続すると、接続できなかったり、正常に通信できないことがあります。

データ通信の種類		必要な接続ケーブル	ダイヤルアップの接続の設定
cdmaOne ¹		cdmaOne接続ケーブル (PC-VP-WK06)	必要ありません。
NTTドコモ	DoPaサービス (パケット通信 サービス)	携帯電話(DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「 # # 02 」を追加する ²
	PHS (64K対応機種)	携帯電話 (NTTドコモ/アステル) 接続ケーブル (PC-VP-WK-07)	電話番号の最後に「 # # 4 」 を追加する
	ドッチーモ (PIAFS64K 機種) ³	携帯電話(DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「 # # 4 」 を追加する
	ドッチーモ (PIAFS32K 機種) ³	携帯電話(DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「 # # 3 」 を追加する ⁴
DDIポケット	PIAFS32K 対応電話機	PHS(DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	電話番号の最後に「 # # 3 」 を追加する ⁴
	H [®] (エッジ)	PHS(DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	電話番号の最後に「 # # 4 」 を追加する ⁵

1: データ通信を行うには、データ通信モードを「 Async 」に設定する必要があります。Packet通信モードを利用する場合は、データ通信モードを「 Packet 」に変更してください。データ通信モードの切り替えについては、cdmaOneの取り扱い説明書をご覧ください。

2: DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、この設定は必要ありません。

3: ドッチーモでPIAFS通信を行う場合は、ドッチーモの待ち受けモードを「 PHS専用 」に切りかえる必要があります。

4: NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合は、この設定は必要ありません。

5: 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができないことがあります。32Kbpsで接続されます。また、次のような場合にも、64Kbpsでなく、32Kbpsで接続されることがあります。

- ・ 電話番号の最後に「 # # 4 」を追加しなかった場合
- ・ 回線が混雑している場合


携帯電話連携機能

携帯電話に登録してある情報を編集する

このパソコンと携帯電話を接続して、携帯電話に登録してある電話番号や連絡先などの情報をパソコン上で編集することができます。また、着信メロディやメールの編集もできます。編集作業には「携快電話5N」を使います。



参照

「携快電話5N」について 携快電話5Nのヘルプ、または「ばそガイド」パソコンでできること」

iモード機能を備えている携帯電話と連携して使う

予定表や連絡先をホームページ上で入力したり、作成した画像データなどをあらかじめホームページに登録しておき、そのデータをiモード機能を備えている携帯電話を使って閲覧することができます。

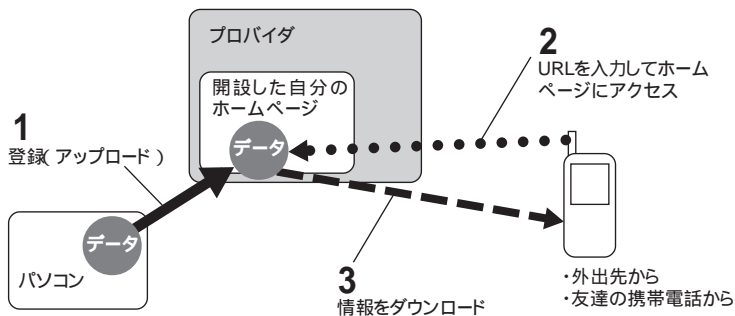
携帯電話でデータを閲覧できるようにするためには、次の装置が必要です。

iモード機能を備えた市販の携帯電話

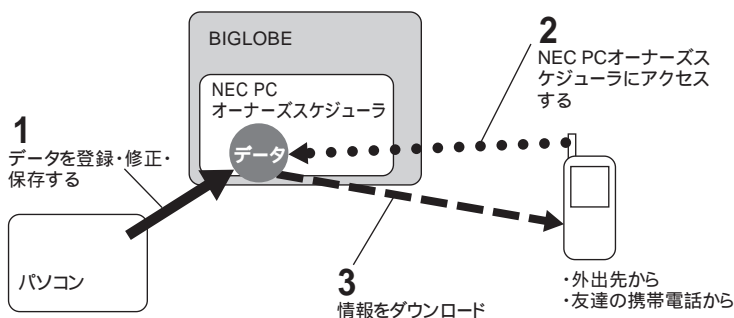
携帯電話でデータを閲覧するには

次の図のような流れでデータを登録し、携帯電話で閲覧します。

自分のホームページを使用する場合



NEC PCオーナーズスケジュールを使用する場合



携帯電話でデータを開覧するための準備

インターネットに接続できる環境にする

プロバイダに入会してインターネットに接続できるように設定しておきます。



参照

インターネットに接続する『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」または「ばそガイド」の「パソコンでできること」の「インターネット / メール」

閲覧したいデータを置いておく場所を確保する

携帯電話から閲覧したいデータを置いておく場所を確保するには、自分のホームページスペースを確保しておく方法と、NEC PCオーナーズスケジュールを利用する方法があります。

・自分のホームページスペースを開設する

FTPプロトコル(インターネット上でファイル転送するための規格)に対応した、インターネットに公開可能なホームページスペースを開設しておきます。ホームページの開設方法は、各プロバイダに確認してください。



メモ

ここでいうホームページスペースとは、プロバイダに入会して開設した個人ホームページのことです。開設した個人ホームページに自分の予定表や好きな画像などのデータを登録し、携帯電話からその場所を閲覧します。

- ・ NEC PCオーナーズスケジューラに登録する

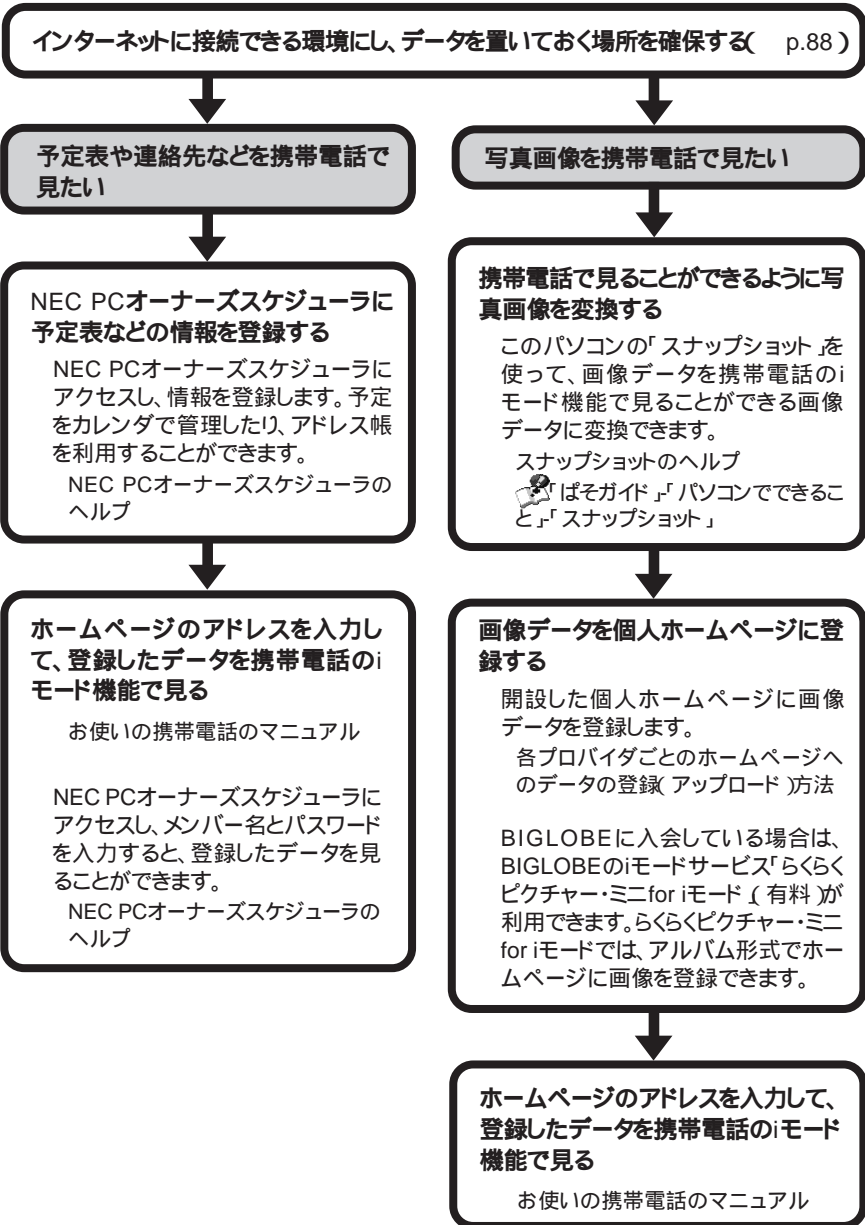
NEC PCオーナーズスケジューラは、予定表、アドレス帳などの情報をインターネット上でまとめて管理するためのホームページです。

NEC PCオーナーズスケジューラの基本サービスへの登録は無料です。

NEC PCオーナーズスケジューラのURL

http://www.biglobe.ne.jp/nec_pc/imodel/schedule/

携帯電話で登録したデータを見る



LAN(ローカルエリアネットワーク)

LAN内蔵モデル/LANカード添付モデル/ワイヤレスLANモデルでは、LANインターフェイスによるネットワーク接続が可能です。

ワイヤレスLANを使ってネットワークに接続する場合は「ワイヤレスLAN」(p.96)も合わせてご覧ください。

LANに接続するときの注意

LANに接続してこのパソコンを使用するときは、次の点に注意してください。

- ・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れた場合は、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、「スタート」ボタン「終了オプション」をクリックし、「再起動」ボタンをクリックしてWindowsを再起動してください。
- ・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・ネットワーク通信をする場合には、パソコンにACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ・ネットワークとの通信中にはスタンバイ状態や休止状態にしないでください。このパソコンが正常に動かなくなることがあります。

LANに接続する

このパソコンのLANインターフェイスでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。



メモ

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。このパソコンは、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、このパソコンに接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

既存のネットワークに、端末としてこのパソコンを接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。

このパソコンのLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用する場合は、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用する場合は、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。



チェック

- ・このパソコンを稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。
- ・ネットワークの設定について詳しくは、「ヘルプとサポート センター」 「ネットワークとWeb」をご覧ください。

LAN内蔵モデルの場合

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 リンクケーブルの一端を、このパソコンのLAN用モジュラーコネクタ(品)
(p.3)に、奥までしっかり差し込む
- 3 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続する
ネットワーク側の接続や設定については、接続した機器のマニュアルをご覧ください。

LANカード添付モデルの場合

添付の『LANカード添付モデルをご購入のお客様へ』をご覧ください。

ワイヤレスLANモデルの場合

「ワイヤレスLAN」(p.96)をご覧ください。


電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定(LAN内蔵モデルのみ)

次の設定を行うと、このパソコンをネットワークに接続して使用している場合、電源回復イベントが発生したときに、パソコンをスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。



チェック

電源回復イベントの設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、パソコンのバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先してパソコンを使いたい場合は、電源設定は行わずに購入時の設定で使用してください。

- 1 「デバイス マネージャ」を開く(p.iii)
- 2 「ネットワーク アダプタ」の左の  をクリックして、表示されたLANアダプタをダブルクリックする
- 3 「電源の管理」タブをクリックする
- 4 以下の設定を行う
 - ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」が になっていることを確認する
 - ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」の をクリックして にする



メモ

電源回復イベントには、MagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出(たとえば、ARPリクエスト、NetBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出)があります。MagicPacket以外の電源回復イベントでスタンバイ状態から復帰させたい場合は以下の設定を行ってください。

- ・「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」の をクリックして にする

ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、コマンドプロンプトで、次のどちらかのコマンドを入力し、【Enter】を押すことで確認できます。

```
NET CONFIG WORKSTATION
```

「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の()内に表示されます。

```
ipconfig /all
```

「Physical address」として表示されます。

CATVでインターネットを利用する

このパソコンのLANインターフェイスから、CATVインターネットを利用することができます。

CATVインターネットとは

CATVインターネットは、CATVのケーブルを利用したインターネット接続サービスです。

約500Kbps～約10Mbps(モデムの約10～100倍)の高速な接続が可能です。また、電話回線を利用しないため、電話料金がかかりません(ただしCATVインターネットのサービス会社への接続料金はかかります)。



メモ

データの転送速度は、CATVインターネットのサービス会社によって異なります。また、データの転送速度は、回線の混雑の状況、データを転送する状況(アップロード時か、ダウンロード時か)によって変化することがあります。

CATVインターネットを利用するには

CATVインターネットを利用するには、CATVインターネットのサービス会社（最寄りのCATV局）と契約が必要です。最寄りのCATV局に、インターネットの接続サービスを行っているかを確認してください。

CATVインターネットへの接続方法や設定方法については、CATVインターネットのサービス会社に確認してください。

CATVインターネットのサービス会社によっては、ユニバーサル管理アドレス（MACアドレス）が必要になります。ユニバーサル管理アドレス（MACアドレス）については、前述の「ユニバーサル管理アドレス（MACアドレス）」をご覧ください。

ワイヤレスLAN

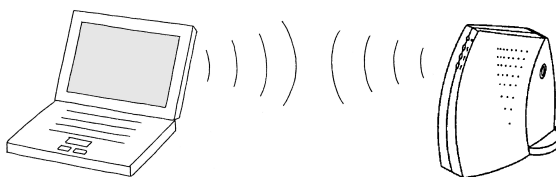
ここでは、ワイヤレスLANモデルについての説明をしています。LANに接続する場合は、LAN(ローカルエリアネットワーク)(p.91)も合わせてご覧ください。

ワイヤレスLAN機能でできること

このパソコンのワイヤレスLAN機能を使用することで、次のようなことができます。

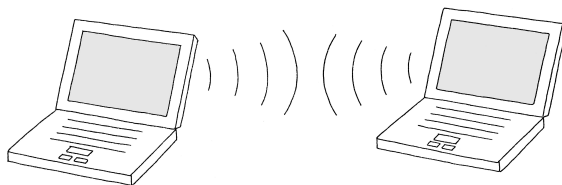
ワイヤレスLAN対応周辺機器(親機)とのワイヤレス接続

このパソコンとワイヤレスLANに対応した別売の周辺機器(親機)を使用すると、ケーブルで接続せずにLANを利用することができます。
たとえば、ワイヤレスLANに対応したターミナルアダプタなどを利用してインターネットに接続することができます。



他のワイヤレスLAN対応パソコンとのワイヤレス通信

このパソコンとワイヤレスLANに対応した他のパソコンを使用すると、ケーブル接続やフロッピーディスクなどの媒体を使用せずに、ファイルのコピーなどを行うことができます。



ワイヤレスLAN機能を使用するときの注意

2

通信機能

⚠警告



感電注意



けが注意

埋め込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、本製品をペースメーカー装着部から22cm以上離して使用してください。

満員電車の中など、人と人が近接する状態となる可能性のある場所では、本製品の電源を切るかワイヤレスLAN機能をオフにしてください。これは心臓ペースメーカーや補聴器などの医療機器を使用している方と近接する可能性があり、万が一にでもそれらの機器に影響を与えることを防ぐためです。

本製品の電波出力は、たとえば携帯電話などに比べて低く抑えられており、医療機器に与える影響はきわめて少ないものですが、使用に際しては各医療機関の指示にしたがってください。特に医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るかワイヤレスLAN機能をオフにしてください。

また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るかワイヤレスLAN機能をオフにしてください。詳しい内容については、各医療機関にお問い合わせください。

現在各航空会社では、航空機の飛行状態などに応じて、機内での無線機器・電子機器などの使用を禁止しており、本製品もその該当機器となります。電子機器に影響を与え、事故の原因となるおそれがありますので、機内では本製品の電源を切るかワイヤレスLAN機能をオフにしてください。詳しい内容については、各航空会社にお問い合わせください。

⚠注意



感電注意



けが注意

補聴器を装着されている方は、本製品の使用により、補聴器にノイズなどを引き起こす可能性がありますので、使用前に確認してください。

- ・通信速度や通信距離は、ワイヤレスLAN対応機器や電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件によって異なります。
- ・電波の性質上、通信距離が離れるにしたがって通信速度が低下する傾向があります。より快適に使用するために、ワイヤレスLAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- ・電子レンジを使用中に、ワイヤレスLAN対応機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。ワイヤレスLAN対応機器と電子レンジは離して使用することをおすすめします。

- ・ワイヤレスLAN対応機器とBluetooth™対応機器を同時に使用した場合、それぞれの機器の通信速度や通信距離が低下する場合があります。ワイヤレスLAN対応機器とBluetooth™対応機器はいずれかをオフにするか、離して使用することをおすすめします。
- ・ワイヤレスLAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイントやレジデンシャルゲートウェイなどが必要です。
- ・ワイヤレスLANとBluetooth™の両方が内蔵されているモデルの場合、ワイヤレスLANとBluetooth™を同時に使用すると、それぞれの機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。その場合は、どちらかの機能をオフにしてください。ワイヤレスLAN機能をオフにする場合は、「ワイヤレスネットワーク接続の状態」ウィンドウで「無効にする」ボタンをクリックしてください。Bluetooth™機能をオフにする場合の手順については、添付のマニュアル『Bluetooth™について』をご覧ください。

接続できるワイヤレスLAN製品

本製品と接続できる製品は、以下のとおりです(2001年9月現在)。

レジデンシャルゲートウェイ

- ・PK-WL002H 無線LANアクセスポイント(11Mbps)

無線LANアクセスポイント

- ・PK-WL003 無線LANアクセスポイントN
- ・PK-WL005 無線LANアクセスポイントE
- ・PK-WL007 無線LANアクセスポイントS
- ・PC-WL20R1 Aterm WL20R
- ・PC-WB20R1 Aterm WB20R
- ・PC-WL30A1 Aterm WL30A
- ・PC-WL50T1 Aterm WL50T
- ・PC-WB50T1 Aterm WB50T
- ・PA-WB55TL1 Aterm WB55TL
- ・PA-WB45RL1 Aterm WB45RL
- ・PA-WB65DSL1 Aterm WB65DSL

ワイヤレスLAN周辺機器

- ・PK-WL001H 無線LANカード(11Mbps)
- ・PK-WL001 無線LANカード(11Mbps)
- ・PK-WL004 無線LAN USBボックス(11Mbps)
- ・PK-WL006 無線LAN(11Mbps)カードE
- ・PR-WL-11 無線LANプリンタボード
- ・PR-WL-01 無線LANプリンタアダプタ

ワイヤレスLANモデル

- ・ 2001年7月出荷のLaVie T、LaVie C、LaVie GのワイヤレスLANモデル
- ・ 2001年8月出荷のVersaPro オールインワンノート、モバイルノート(ベイ内蔵型)のワイヤレスLAN(無線LAN)モデル
- ・ 2001年10月、11月出荷のLaVie、VersaProのワイヤレスLAN(無線LAN)モデル



メモ

その他の製品については、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェアドットコム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

ワイヤレスLAN機能のオン / オフ

ワイヤレスLAN機能のオン / オフには、以下の方法があります。



メモ

【Fn】+【F2】およびBIOSセットアップメニューで設定したオン / オフ状態は、電源を切った後も保存されています。



チェック

他の機器に影響をあたえる場合やワイヤレスLAN機能を使用しない場合は、ワイヤレス通信機能をオフにすることをおすすめします。

【Fn】+【F2】で切り替える

【Fn】を押しながら【F2】を1回押すごとにワイヤレスLAN機能、Bluetooth™機能を含むワイヤレス通信機能全体のオン / オフが切り替わります。

ワイヤレスLAN機能のオン / オフの状態はパソコン本体のワイヤレスランプ (●●) (p.12)で確認することができます。

BIOSセットアップメニューで切り替える

ワイヤレスLAN機能、Bluetooth™機能を含むワイヤレス通信機能全体のオン / オフはBIOSセットアップメニューでも設定できます。

ワイヤレスLAN機能のオン / オフの状態はパソコン本体のワイヤレスランプ (●●) (p.12)で確認することができます。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.168)

2 「周辺機器」メニューの「ワイヤレスデバイス」を「使用する」または「使用しない」に設定する

3【F10】を押す

「セットアップ確認」のメッセージが表示されます。

4【Enter】を押す

Windowsが再起動します。

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」ウィンドウで切り替える

この方法では、ワイヤレスLAN機能のみのオン / オフができます。



チェック

ワイヤレスLAN機能のみのオン / オフは、ワイヤレスランプで確認することができません。

オフにする場合

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」ウィンドウで「無効にする」ボタンをクリックする

オンにする場合

- 1 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ネットワーク接続」をクリックする
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。


- 2 「ワイヤレスネットワーク接続」アイコンをダブルクリックする

ワイヤレスLANの設定を行う



メモ

- ・ユーティリティの使用方法など詳しくは、Windowsのヘルプ(ヘルプとサポートセンター)をご覧ください。
- ・別売のWARPSTAR(ベース)を使ってインターネットに接続する手順については、「C:¥OPTIONS¥WIRELESSLAN¥WS-SETSUZOKU¥WARPSTAR.HTM」をご覧ください。

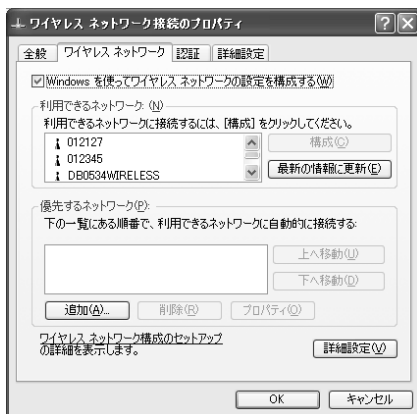
- 1 ワイヤレスランプ( p.12)が点灯していることを確認する

点灯していない場合は、「ワイヤレスLAN機能のオン / オフ」(p.99)の手順でオンにして、ランプを点灯させてください。

- 2 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ネットワーク接続」をクリックする
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。

- 3 「ワイヤレスネットワーク接続(ORiNOCO Wireless LAN PC Card...)」を右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックする
「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「ワイヤレス ネットワーク」タブをクリックする

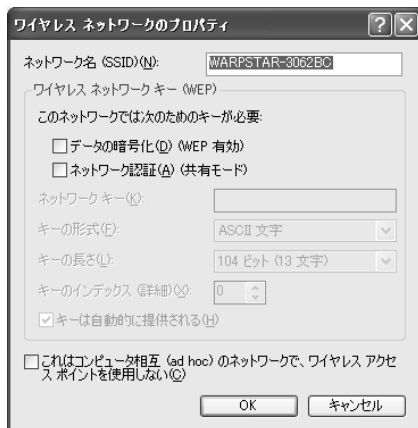


メモ

「利用できるネットワーク」に接続するネットワーク名が表示されない場合は、「最新の情報に更新」ボタンをクリックしてください。

5 「利用できるネットワーク」から接続する親機(またはパソコン)を選び、「構成」ボタンをクリックする

「ワイヤレス ネットワークのプロパティ」ウィンドウが表示されます。



6 セキュリティの設定を行う

セキュリティの設定を行うことで、無線ネットワークの外部からの不正なアクセスを防止することができます。セキュリティの設定を行わない場合は、手順7に進んでください。

親機に暗号キーが設定されている場合は、「ネットワーク キー」欄に暗号キーを入力してください。また、パソコン同士で接続する場合は、両方のパソコンで同じネットワークキーを設定してください。

7 パソコン同士で接続する場合は、「これはコンピュータ相互 (ad hoc) のネットワークで、ワイヤレスアクセスポイントを使用しない」の をクリックして にする

レジデンシャルゲートウェイ、無線LANアクセスポイントと接続する場合は、この手順は必要ありません。

8 「OK」ボタンをクリックする

「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」ウィンドウの「優先するネットワーク」欄に選んだ機器名が追加されます。




9 「OK」ボタンをクリックする


しばらくすると、画面右下の通知領域に「ワイヤレス ネットワーク接続 に接続しました」と表示されます。

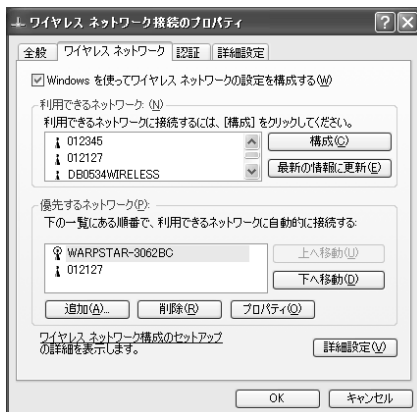


接続状態を確認する

画面右下の通知領域にあるをダブルクリックすると、「ワイヤレス ネットワーク接続の状態」ウィンドウの「シグナルの強さ」でアンテナ強度を確認できます。



また、接続している親機(相手のパソコン)は、「ワイヤレス ネットワーク接続の状態」ウィンドウの「プロパティ」ボタンをクリックして表示される「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」ウィンドウの「優先するネットワーク」ので確認できます。



ワイヤレスLAN機能を停止する

一時的にワイヤレスLAN機能を使用しないようにするには、「ワイヤレス ネットワーク接続の状態」ウィンドウで「無効にする」ボタンをクリックしてください。

ADSLについて

ADSLの特長

ADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line(非対称デジタル加入者回線)とは、家庭にある一般の電話回線(アナログ回線)を使って、インターネットに高速で接続できるようにする技術です。ADSLには次のような利点があります。

- ・家庭にある一般の電話回線(アナログ電話回線)で利用できる(専用の回線が不要)
- ・アナログモデムやISDN回線(INSネット64)より高速で接続できる
- ・インターネットに常時接続でき、定額料金のため、いつでも好きなだけ利用できる(回線接続業者などとの契約内容による)
- ・一つの回線で電話とインターネットを同時に利用できる(「電話共用タイプ」の場合)

: ADSL回線使用中、FAXモデムにモジュラーケーブルを接続して、ダイヤルアップ接続をすることはできません。

ADSLを利用するためには、利用する地域がADSLサービスの提供区域内であることを確認してください。

また、ADSLの利用には、別売のADSLモデムが必要です。



メモ

BIGLOBEのホームページにもADSLの情報が記載されています。

<http://www.biglobe.ne.jp/service/adsl/>

Bluetooth™機能

ここでは、Bluetooth™モデルについての説明をしています。
Bluetooth™機能を使うと、次のようなことができます。

- ・他のBluetooth™対応パソコンとのワイヤレス通信
- ・Bluetooth™対応周辺機器とのワイヤレス通信

Bluetooth™について詳しくは『Bluetooth™について』をご覧ください。

P A R T

3

マルチメディア機能

このパソコンで、音楽や映像の再生や編集を行う方法を説明します。

音楽の再生／編集機能

音楽を再生するには

このパソコンで音楽CDや音楽データを再生するには次のような方法があります。

CDプレイモードで音楽CDを再生する(p.112)



メモ

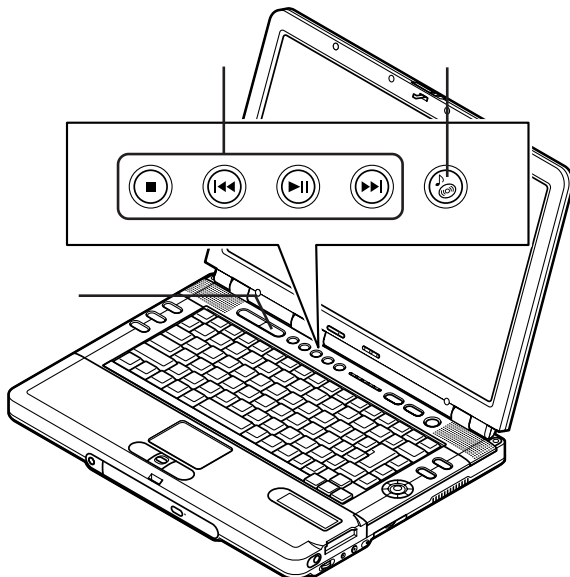
CDプレイモードとは、電源が入っていない状態、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、パソコンをオーディオ機器としてのみ使用するためのモードです。パソコンの電源が入っていない、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、オーディオ電源スイッチを押すことによりCDプレイモードになります。

Windowsを起動して音楽CDや音楽データを再生する(p.113)

- ・ Jet-Audio Playerを使う

音楽を再生するときに便利なボタン

CD/DVDプレーヤボタンを使って音楽CDの操作ができます。



オーディオ電源スイッチ()

スイッチを押すとCDプレイモードが起動します。CDプレイモードを終了する場合は、スイッチをもう一度押します。



メモ

パソコンの電源が入っている場合はCDプレイモードにはなりません。

LCDインジケータ

LCDインジケータには次のような内容が表示されます。

状態	表示内容
再生中 / 一時停止中	- - には現在のトラックナンバー(曲番)が表示されます。 一時停止中はトラックナンバーが点滅します。
停止時	1
ディスクが入っていない / 音楽CD以外のディスクがセットされている	
スリープモード(節電モード)	SP



メモ

トラックナンバー以外はCDプレイモードでのみ表示されます。

CD/DVDプレーヤボタン

CD/DVDプレーヤボタンには次の機能があります。

ボタン	機能
■	停止
⏮	前のトラックへ戻る 押し続けると巻き戻し
⏸	再生 / 一時停止
⏭	次のトラックへ進む 押し続けると早送り




チェック

- ・ Windows が起動している場合、CD/DVDプレーヤボタンは、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」でのみ使うことができます。
- ・ ワンタッチスタートボタンが無効に設定されている場合には、CD/DVDプレーヤボタンでJet-Audio Playerを操作することはできません。

音楽再生機能を使用しているときの注意

- ・ CDプレイモードで音楽CDを再生中に電源スイッチを押すと、CDプレイモードは停止し、Windowsが起動します。
- ・ 音楽CDフォーマット(CD-DA)をCD-RおよびCD-RWにマルチセッションで書き込むと、追加した曲はCDプレイモードでは再生できません。
- ・ バッテリのみで使用中に、CDプレイモードで音楽CDを再生していると、バッテリーがなくなった時点で電源が切れます。このとき、バッテリー容量が残り少なくなったことを知らせる警告音は鳴りません。
- ・ CDプレイモードでの音楽CDの再生が終了すると、約2分後にCDプレイモードはスリープモードに変わります。このとき、LCDインジケータには「 SP 」と表示されます。CDプレイモードがスリープモードに入っている場合は、CD再生ボタン(▶||)を押すとスリープモードから復帰します。再度音楽CDを再生する場合は、もう一度CD再生ボタン(▶||)を押してください。

CDプレイモードで音楽CDを再生する

1 パソコンの電源が入っていない、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、オーディオ電源スイッチ()を押す

2 CD/DVDドライブに音楽CDをセットする(p.43)

音楽CDをセットすると、LCDインジケータに「 1 」と表示されます。これで再生の準備ができました。

 **チェック**

音楽CDをセットしてからLCDインジケータに「 1 」と表示されるまで数秒かかります。しばらくお待ちください。

3 CD再生ボタン(▶||)を押す

音楽CDの再生がはじまります。

 **メモ**

- ・ トラック(曲)を次や前に移動したいときや、再生を停止または一時停止したい場合は、CD/DVDプレーヤボタンを利用してください。トラックを移動すると、LCDインジケータに現在のトラックナンバーが表示されます。
- ・ 音量は、外付けスピーカの音量調節つまみと本体の音量調節つまみで調節します(p.73 ~ p.74)。

Windowsを起動して音楽CDや音楽データを再生する

Jet-Audio Playerを使う

Jet-Audio Playerは、音楽CDやDVD VIDEOディスク、MP3規格の音楽データなどを再生できるアプリケーションです。また、音楽データをWAVEファイルに変換したり、MP3、WAVE、MIDIなどの音楽データをMDに録音することもできます。



メモ

MP3とは、MPEG1 Audio Layer-3の略で、音楽データを高音質のまま高い圧縮率で保存できる規格のことです。MP3規格の音楽データは、インターネットなどからダウンロードすることができます。



参照

Jet-Audio Playerの使いかた 「パソコンガイド」 「パソコンでできること」 または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「Jet-Audio Player」 「使い方マニュアル」

ジョグホイールで操作する

早送り、巻き戻しなどの機能をジョグホイールでもコントロールすることができます。

機能	ジョグホイールの操作
早送り	ジョグホイールセンターボタンを右に倒す
巻き戻し	ジョグホイールセンターボタンを左に倒す
音量を上げる	ジョグホイールセンターボタンを上を倒す
音量を下げる	ジョグホイールセンターボタンを下を倒す
次のトラックに進む	ジョグホイールを右に回す
前のトラックに戻る	ジョグホイールを左に回す

リモコンで操作する

早送り、巻き戻しなどの機能をリモコンでもコントロールすることができます。詳しくは添付の『リモコンについて』をご覧ください。

編集してオリジナルMDを作る

このパソコンのヘッドホン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子と、光デジタルオーディオ入力端子をもつ市販のMDデッキを接続すると、音楽CDやMP3データの曲をパソコンで再生しながら、MDに録音することができます。



チェック

- ・パソコンとMDデッキを接続するには、市販の光デジタル接続ケーブルをお買い求めください。
- ・MDデッキの機能や録音のしかたなどについては、MDデッキのマニュアルをご覧ください。
- ・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

Jet-Audio Playerで再生しながらMDに録音する

Jet-Audio Playerを使って、音楽CDやMP3などの音楽データをMDに録音するときは、次のような操作を行います。

操作の流れ

市販のMDデッキと接続ケーブルを用意する

- ・光デジタルオーディオ入力端子をもつ市販の録音機能付きMDデッキ
 - ・市販の光デジタル接続ケーブル
- このパソコンのヘッドホン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子の形状と、MDデッキの光デジタル入力端子の形状を確認してください。

光デジタル接続ケーブルを使って、このパソコンとMDデッキを接続する

このパソコンのヘッドホン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子とMDデッキの光デジタル入力端子に市販の光デジタル接続ケーブルを接続します。
PART4の「ヘッドホン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子」(p.164)
お使いのMDデッキのマニュアル



光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子から、光デジタルで出力できる設定になっていることを確認する

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子から音楽データを光デジタル出力する場合や、音楽CDからのデジタル出力を光デジタルで出力する場合は、出力できるようになっているかを確認しておいてください。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について(p.76)

音楽CDのデジタル出力設定(p.76)



Jet-Audio Playerを起動し、録音の準備をする

Jet-Audio Playerを起動したら、録音する音楽データを選びます。また、音楽データを録音する順番に並び替えて録音することもできます。

Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル



録音する

Jet-Audio Playerで音楽データを再生し、MDデッキでの録音を開始します。MDデッキによっては、Jet-Audio Playerを再生すると同時に自動的に録音を開始できるように設定できます。

Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル


録音のしかた お使いのMDデッキのマニュアル

編集してオリジナル音楽CDを作る

このパソコンにインストールされているRecordNow DXを使うと、音楽CDなどから好きな曲を選んでCD-Rに書き込み、オリジナル音楽CDを作ることができます。作成したオリジナル音楽CDは、家庭用のCDプレーヤー、カーステレオ用のCDプレーヤー、パソコンについているCD-ROMドライブなどで再生することができます。



参照

RecordNow DXについて  「ばそガイド」 「パソコンでできること」



チェック

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

映像の再生／編集機能

3

マルチメディア機能


映像の再生

デジタルビデオ機器で撮った映像を再生する

このパソコンでは、外部のデジタルビデオ機器で撮影した映像を取り込んで編集することができます。また、ハードディスクに保存したり、外部のデジタルビデオ機器に出力することもできます。ハードディスクに保存した映像はJet-Audio Playerを使って再生することができます。



参照

- ・ Jet-Audio Playerの使いかた  「ばそガイド」 「パソコンでできること」 または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「Jet-Audio Player」 「使い方マニュアル」
- ・ 外部デジタルビデオ機器の接続と映像の編集 「映像の編集」 (p.119)

DVD VIDEOディスクを再生する

「Jet-Audio Player」を使って、DVD VIDEOディスクを再生することができます。Jet-Audio Playerを起動するには、「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「Jet-Audio Player」 「Jet-Audio Player」をクリックします。また、再生しているDVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示することもできます。




メモ

DVD VIDEOディスクは、映像と音声を高画質、高音質で記録してあるディスクです。美しい映像や音声を楽しむことができます。また、DVD VIDEOディスクの中には、利用者の好みに応じた使いかたができるディスクもあります。たとえば、映画の字幕や音声を数カ国語の中から選んで再生したり、スポーツやコンサートの映像をアングル(見る角度、視点)を切り替えて再生したりできます。



参照

- ・ Jet-Audio Playerの使いかた  「ばそガイド」 「パソコンでできること」 または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「Jet-Audio Player」 「使い方マニュアル」
- ・ パソコンにテレビを接続する、DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示する PART4の「外部ディスプレイを使う」の「表示するディスプレイを切り替える」(p.144)

ジョグホイールで便利に使う

DVD VIDEOディスクを再生している場合に、早送り、巻き戻しなどの機能をジョグホイールでコントロールすることができます。

機能	ジョグホイールの操作
早送り	ジョグホイールセンターボタンを右に倒す
巻き戻し	ジョグホイールセンターボタンを左に倒す
次のチャプターに進む	ジョグホイールを右に回す
前のチャプターに戻る	ジョグホイールを左に回す
音量を上げる	ジョグホイールセンターボタンを上倒す
音量を下げる	ジョグホイールセンターボタンを下倒す
DVDメニュー表示時にメニューを選択する	ジョグホイールセンターボタンを選択したいメニューの方に倒して選択したら、ジョグホイールセンターボタンを押す

テレビや地上波データ放送を見る

このパソコンでは、テレビや地上波データ放送を見たり、録画したりすることができます。また、次のような便利な機能があります。

- ・じっくり見たい場面で一時停止をしたり、もう一度見たい場面を巻き戻して再生し、さらにそこから番組の続きを見ることができる(タイムシフト機能)
- ・テレビの番組表をパソコンに取り込んで録画や、視聴の予約ができる



参照

テレビ番組を見たり、録画するには 『TVモデルガイド』

DolbyHeadphone機能を使う

このパソコンには、DolbyHeadphone機能が搭載されています。このパソコンのヘッドホン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子に市販のヘッドホンを接続すると、DVD VIDEOディスクの臨場感のあるデジタルサウンドを楽しむことができます。

Dolby,ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーの商標です。
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
非公開機密著作物。著作権1992 - 1999年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



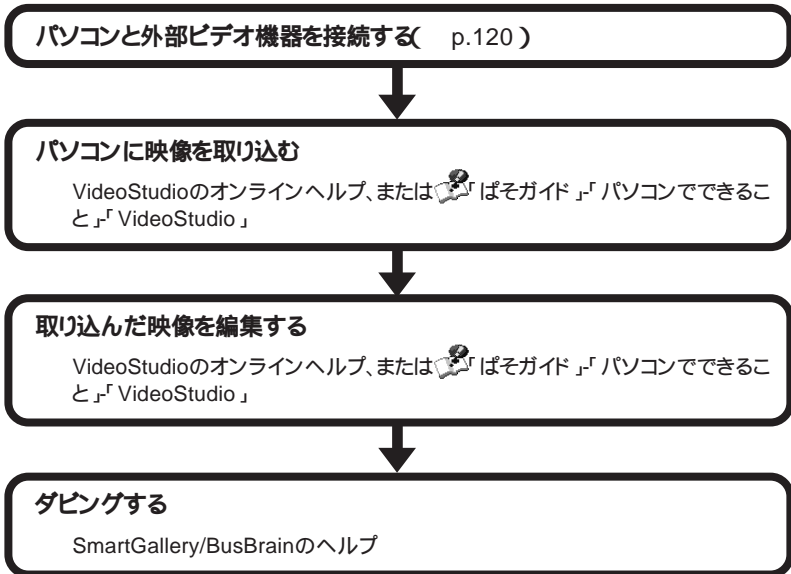
参照

Jet-Audio Playerの使いかた  『パソコンでできること』 または「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「Jet-Audio Player」 「使い方マニュアル」

映像の編集

「VideoStudio」や「SmartGallery/BusBrain」を使って、デジタルビデオ機器の映像を編集またはダビングすることができます。

外部ビデオ機器の映像を編集し、ダビングする



外部ビデオ機器を接続する

デジタルビデオデッキやデジタルビデオカメラなどの外部ビデオ機器は、次のようにして接続してください。

◆ メモ

- ・ 接続できる外部ビデオ機器は、IEEE1394での入出力に対応している機器です。外部ビデオ機器にIEEE1394コネクタがついているかを確認してください。IEEE1394コネクタはDV端子などの別名で呼ばれていることもあります。詳しくは販売店などで確認してください。
- ・ このパソコンのIEEE1394コネクタは4ピンです。パソコン側に接続するケーブルのプラグは4ピンのものを選んでください。外部ビデオ機器側に接続するプラグは、外部ビデオ機器のIEEE1394コネクタの形状に合ったものを用意してください。
- ・ IEEE1394コネクタへの接続について詳しくは、PART4の「IEEE1394コネクタ」(p.158)をご覧ください。

1 外部ビデオ機器のIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルのプラグを接続する

2 このパソコンのIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルの4ピンのプラグを接続する(p.158)

🔍 チェック

- ・ 接続するときには、プラグの向きに注意してください。プラグの向きを間違えるとIEEE1394コネクタやプラグを破損するおそれがあります。
- ・ お客様が録画、録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、著作権者に無断で使用できません。

ジョグホイールでVideoStudioを操作するには

プレビューウィンドウの映像のコマ送り / コマ戻しなどの機能を、ジョグホイールでコントロールすることができます。

また、切り取り開始位置などの微調整が、ジョグホイールで簡単に行うことができます。

機能	ジョグホイールの操作
コマ送り	ジョグホイールを右に回す
コマ戻し	ジョグホイールを左に回す
早送り	【Ctrl】を押しながらジョグホイールを右に回す
巻き戻し	【Ctrl】を押しながらジョグホイールを左に回す
ジョグホイールで操作するバーを選択する	ジョグホイールセンターボタンを押す
タイムライン上の映像を選択する	ジョグホイールセンターボタンを左右に倒す




チェック

【Ctrl】を押しながらジョグホイールを回すと、クリップの先頭 / 最後に移動することができます。

ジョグホイールを使ってトリミングする

プレビューウィンドウを使って映像の切り取りが簡単にできます。ジョグホイールセンターボタンを押すごとに操作できるバーが点滅します。

- 1 ジョグホイールセンターボタンを一回押してからジョグホイールを回し、映像を確認する
- 2 映像を確認したらジョグホイールセンターボタンを押し、切り取り開始位置を決める
開始位置の微調整はジョグホイールで行うと便利です
- 3 切り取りを開始したい位置でジョグホイールセンターボタンを押す
- 4 切り取り終了位置を決める
終了位置の微調整はジョグホイールで行うと便利です。
- 5 切り取りを終了したい位置でジョグホイールセンターボタンを押す
- 6 トリミングが終わったら画面左の (変更内容を適用) をクリックする



【Ctrl】を押しながらジョグホイールを回すと、切り取り位置をすばやく検索できます。


画像ファイルや映像ファイルを活用する

画像ファイルや映像ファイルを管理する

「SmartGallery」を使うと、パソコンに取り込んだ画像や映像などのマルチメディアファイルをまとめて管理することができます。画像や映像のファイルをカテゴリ（分類）別に分けて表示したり、サムネイル（画像を縮小して一覧表示したもの）で表示したりすることができるので、たくさんの画像ファイルの中から見たいファイルを探す場合などに便利です。



参照


SmartGalleryの使いかた  「ばそガイド」 「パソコンでできること」

携帯電話で閲覧できるアルバムを作成する

「スナップショット」を使うと、iモードなどに対応した画像を作成して、インターネットへ掲載することができます。作成した画像は携帯電話の待ち受け画面として利用することができます。



参照

スナップショットの使いかた  「ばそガイド」 「パソコンでできること」 またはスナップショットのヘルプ

DVD形式のビデオデータ作成機能

DVD形式のビデオデータの作成のしかた



チェック

お客様がテレビ放送や録画物などから取り込んだ映像や音声は、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。

このパソコンにインストールされている「VideoStudio」や「DVDit!」を使うと、録画した映像を編集したり、編集した映像にタイトルやメニュー（目次）をつけてDVDビデオのような作品を作れます。

また、作成した映像はハードディスクやCD-Rに保存して、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」で再生できます。

お気に入りの映像を、DVD形式のビデオデータ（DVDタイトル）に仕上げてください。

オリジナルのDVD形式のビデオデータを作成する

外部ビデオ機器から映像を取りこむ

このPARTの「映像の編集」(p.119) またはVideoStudioのオンラインヘルプ


パソコンでTV番組を録画する

『TVモデルガイド』PART3の「テレビ番組を録画しよう」

VideoStudioで映像を編集する

このPARTの「映像の編集」(p.119)

DVDit!で編集できるデータにする

 「パソコンでできること」「DVDit!」



DVDit!でタイトルやメニューをつけて仕上げる



「はそガイド」「パソコンでできること」「DVDit!」

「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「DVDit! LE」 「DVDit! ユーザーガイド」



DVD形式のビデオデータを保存する



「はそガイド」「パソコンでできること」「DVDit!」

「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「DVDit! LE」 「DVDit! ユーザーガイド」

マルチメディアファイルの管理機能


SmartGalleryを使う

このパソコンにインストールされている「SmartGallery」を使用すると、映像などのファイルをまとめて管理でき、再生や編集がスマートにはじめられます。

SmartGalleryは、デジタルビデオカメラの映像といった動画や写真などの静止画、音楽データ、インターネットのホームページなど、マルチメディアファイルをまとめて管理できるアプリケーションです。ファイルをカテゴリ(分類)に分けて表示したり、SmartGalleryのサムネイル(画像を一覧表示したもの)から直接いろいろなアプリケーションを起動してファイルを開いたりできるので、ファイルの数が多くなってもすぐに目的のファイルを使うことができます。



参照

SmartGalleryについて SmartGalleryのヘルプ、または  「パソコンガイド」 「パソコンでできること」

ジョグホイールでSmartGalleryを操作するには

ジョグホイールを使って、次のような操作をすることができます。

機能	ジョグホイールの操作
<ul style="list-style-type: none">・ファイルの選択・スライドショー実行中に次のスライドに進む	ジョグホイールセンターボタンを右に倒す
<ul style="list-style-type: none">・ファイルの選択・スライドショー実行中に前のスライドに戻る	ジョグホイールセンターボタンを左に倒す
ファイルが選択されているときに、ファイルの種類に応じて動画や音声を再生したり、静止画や音声を再生したり、静止画を表示したりするアプリケーションが起動する	ジョグホイールセンターボタンを押す
<ul style="list-style-type: none">・画面のスクロール(下方向)・スライドショー実行中は次のスライドに進む	ジョグホイールを右に回す
<ul style="list-style-type: none">・画面のスクロール(上方向)・スライドショー実行中は前のスライドに戻る	ジョグホイールを左に回す

リモコンを使う

スライドショーの表示をリモコンでもコントロールすることができます。詳しくは添付の『リモコンについて』をご覧ください。

P A R T

4

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

このパソコンに接続できる周辺機器

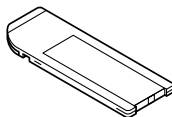
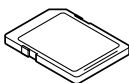
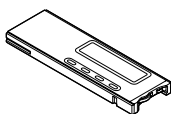
本体前面 / 右側面

メディア用ポケット

InfoAudio

「SDメモリーカード」

「メモリスティック」



USBコネクタ

USB機器

マウス、キーボード、
携帯電話、PHS端末など



ヘッドホン / 光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子

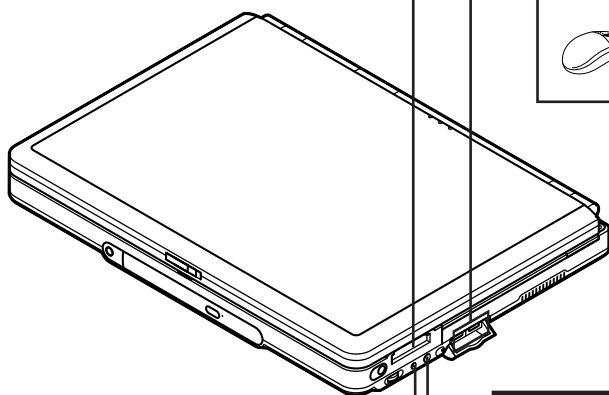
ヘッドホン

光デジタル入力のあるAV機器

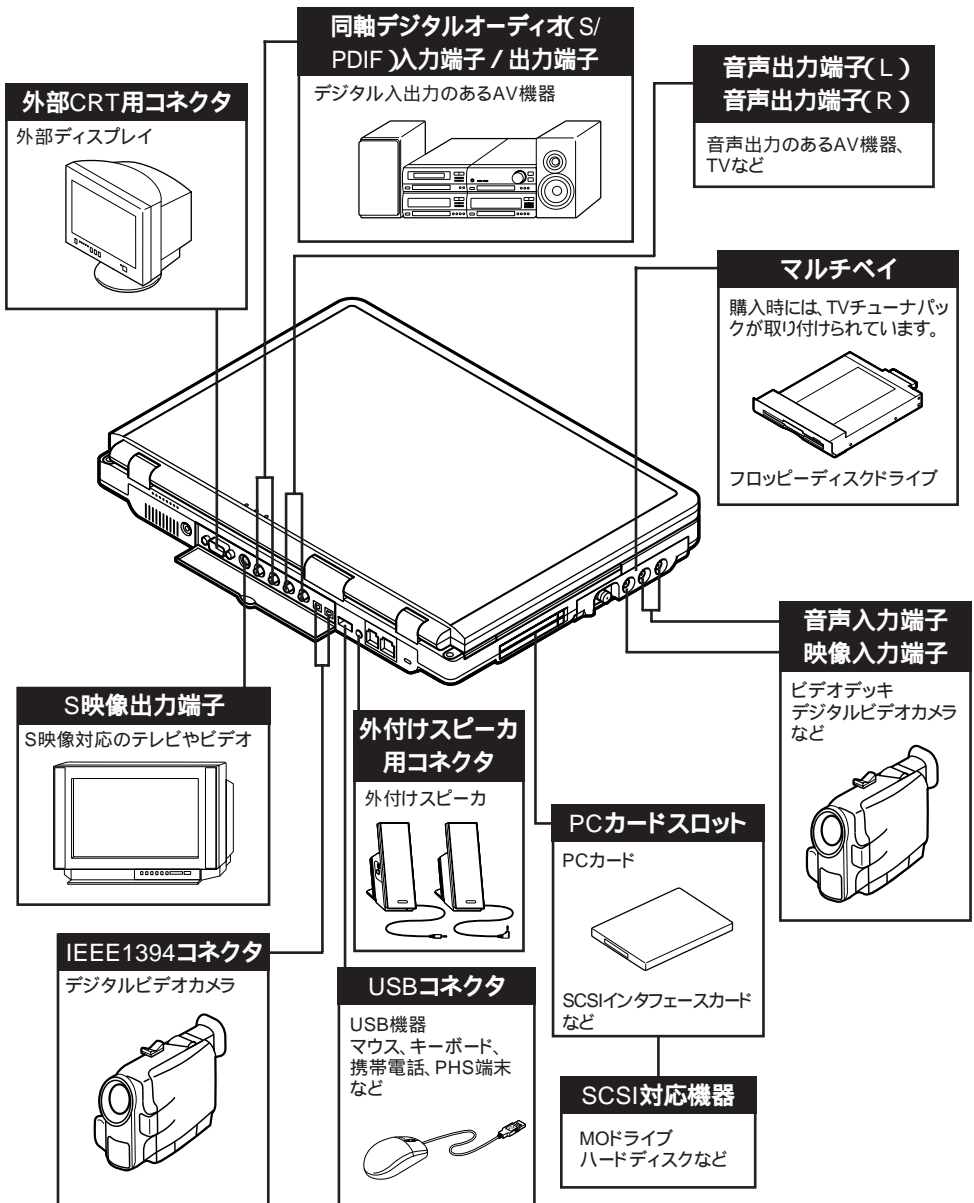


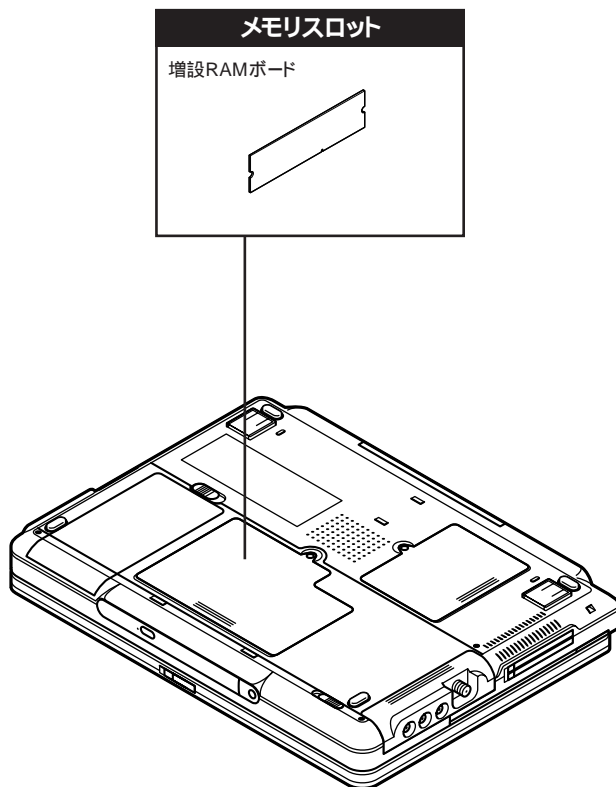
外部マイクロホン端子

マイクロホン



本体背面 / 左側面





周辺機器を接続する前に

周辺機器を利用する

プリンタや外部ディスプレイなど、パソコンに接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。このパソコンには、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

周辺機器を利用するときの注意

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



感電注意

周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



高温注意

パソコンの使用直後は、TVチューナパックおよびその周辺が熱くなっていますので、取り扱いにご注意ください。

TVチューナパックを取り外すときには、パソコンの電源を落として数分たってから行うことをお勧めします。

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- ・スタンバイ状態または休止状態の場合は、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
スタンバイ状態または休止状態の場合は、復帰させてデータを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- ・別売の周辺機器を取り付ける場合は、その周辺機器がこのパソコンに対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がありますので、周辺機器の説明書などをよく読んで使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、周辺機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、周辺機器の取扱説明書にしたがって正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認して用意しておいてください。
- ・PCカードやその他の周辺機器をはじめとお使いになる際に、フロッピーディスクを挿入するようメッセージが表示される場合があります。フロッピーディスクドライブを接続していない場合は、フロッピーディスクドライブを接続してください。フロッピーディスクドライブの取り付けかたについては、PART1の「フロッピーディスクドライブ」(p.36)をご覧ください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の周辺機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、次の手順でリソースが競合しないように変更してください。



参照

リソースについて PART6の「割り込みレベルとDMAチャンネル」(p.187)



チェック

管理者権限を持つユーザーアカウントでこのパソコンにログオンしてください。

- 1 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2 「デバイス マネージャ」を開く (p.iii)
- 3 **!** や **X** が表示されていて動作しない周辺機器のドライバをダブルクリックする
- 4 「プロパティ」ウィンドウで「リソース」タブをクリックし、「自動設定」の をクリックして にする

5 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選び、ダブルクリックする

「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

6 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする

「競合するデバイス」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。



チェック

他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、変更不可のメッセージが表示された場合は、その値への変更はできません。



メモ

選んだ周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

7 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」ウィンドウで「OK」ボタンをクリックする

「変更不可の構成を作成しています」ウィンドウが表示されます。

8 「はい」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

9 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

周辺機器の電源を入れる / 切る順序

このパソコンに周辺機器を接続している場合は、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

電源を入れるとき


周辺機器 パソコン

電源を切るとき

パソコン 周辺機器


周辺機器の取り外しと再接続

周辺機器の中でも、USB対応機器、IEEE1394対応機器、PCカードなどは、パソコンの電源を入れたまま取り付け、取り外しができます。

ただし、画面右下の通知領域にが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

1 画面右下の通知領域にあるをダブルクリックする

「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウが表示されます。

が表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。

2 取り外したい周辺機器名またはPCカード名をクリックして、「停止」ボタンをクリックする

周辺機器名やPCカード名が表示されていない場合は、手順4へ進んでください。

3 「ハードウェア デバイスの停止」ウィンドウで取り外したい周辺機器名やPCカード名をクリックして「OK」ボタンをクリックする

画面右下の通知領域に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウを閉じる

これで周辺機器またはPCカードを取り外すことができます。

同じ周辺機器を再接続する場合は、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待たば使用できます。

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバをパソコンにセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

チェック

デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しくセットアップしてください。

「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、周辺機器が使用可能な状態になります。



メモ

このパソコンにインストールされているWindowsには、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

周辺機器を接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、このパソコンやドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。



メモ

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

プリンタ

このパソコンには、USB対応のプリンタを接続することができます。

プリンタを使う準備

プリンタを接続するには、別売のケーブルが必要です。お使いのプリンタに合わせてケーブルを用意してください。

プリンタによっては、接続するだけですぐ使えるものもあります。

プリンタを接続しても何も表示されない場合は、「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「プリンタとその他のハードウェア」 「プリンタとFAX」でプリンタのアイコンが表示されているか確認してください。

接続したプリンタのアイコンが表示されている場合は、すぐにプリンタを使うことができます。

USB対応のプリンタ

1 USB対応のプリンタを接続する



接続のしかた このPARTの「USB対応機器」(p.160)

2 プリンタ用のドライバや必要なアプリケーションをインストールする



インストールのしかた プリンタに添付のマニュアル

3 正しく接続できたかテスト印刷をして確認する

プリンタを設定する

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「プリンタとその他のハードウェア」 「プリンタとFAX」で行います。たとえば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。
詳しくは、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。



チェック

NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能に対応していない場合があります。その場合は、「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」の「電源設定」タブで「システム スタンバイ」を「なし」に設定してください。

ネットワーク上の共有プリンタを使うための設定をする

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

マウス

別売のマウスの設定方法

このパソコンでは、別売のUSBマウスを使用することができます。



チェック

- ・管理者権限を持つユーザーアカウントでこのパソコンにログオンしてください。
- ・マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合でもキーボードによる操作は可能ですので次の手順でWindowsを再起動してください。

キーボードを使って再起動する

- 1 **【 F10 】**を押す
- 2 カーソル移動キーで「終了オプション」を選択し**【 Enter 】**を押す
- 3 カーソル移動キーで「再起動」ボタンを選択し**【 Enter 】**を押す

USBマウスを使用する



このパソコンにUSBマウスを接続して使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。



チェック

マウスドライバの変更を行う場合は、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

- 1 「デバイス マネージャ」を開く (p.iii)
- 2 「マウスとそのほかのポインティング デバイス」の左の **⊕** をクリックする
- 3 「NX PAD」をダブルクリックする
「NX PADのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 5 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」の **○** をクリックして **○** にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」の  をクリックして  にし、「次へ」ボタンをクリックする

7 「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックする

「標準PS/2ポートマウス」が複数表示されている場合は、一番上の「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
必要なファイルがコピーされます。
コピーが終了すると、「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されます。

チェック

- ・「モデル」欄に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「互換性のあるハードウェアを表示」の をクリックして にして「製造元」欄から「(標準マウス)」を選択し、「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
- ・Windows XPとの互換性を警告するようなメッセージが表示された場合は、「続行」ボタンをクリックしてください。
- ・デバイスのインストールの確認「ウインドウ」が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

8 「完了」ボタンをクリックする

9 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」ウインドウが表示されます。

10 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

Windowsが起動したあとにUSBマウスを接続してください(p.161)

メモ






- ・別売のUSBマウスを接続したときに、NXパッドでの操作を無効に設定しておくことができます。無効に設定しておくことにより、NXパッドでの誤操作を防ぐことができます。USBマウスを接続したときにNXパッドを無効にするには、BIOSセットアップメニューの「拡張設定」メニューで、「NXパッド」を「使用しない」に設定してください(p.172)
- ・マウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスを接続したあと、マウスのマニュアルにしたがってドライバの変更を行ってください。

NXパッドを使用する設定に戻す



チェック

管理者権限を持つユーザーアカウントでこのパソコンにログオンしてください。

- 1 「デバイス マネージャ」を開く (p.iii)
- 2 「マウスとそのほかのポインティング デバイス」の左の  をクリックする
- 3 現在使用しているマウスを選択し、ダブルクリックする
現在使用しているマウスのプロパティが表示されます。
- 4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 5 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」の  をクリックして  にし、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」の  をクリックして  にし、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「モデル」欄から「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
「NX PAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。
必要なファイルがコピーされます。
コピーが終了したら、「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されます。
- 8 「完了」ボタンをクリックする
- 9 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 10 「はい」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

再起動後、NXパッドが有効になります。再起動してもポインタが動かない場合は、キーボードを使用してWindowsをもう一度再起動してください。

他社製のマウスドライバに変更する

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されているものがあります。他社製のマウスドライバのインストール、アンインストールは次の手順で行ってください。



チェック

マウスドライバを変更するときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

他社製のマウスドライバをインストールする

- 1 「USBマウスを使用する（ p.138 ）の手順1～10を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する
- 2 他社製のマウスドライバをインストールする



参照

マウスドライバのインストール マウスのマニュアル

他社製のマウスドライバをアンインストールする

- 1 他社製のマウスドライバをアンインストールする



参照

マウスドライバのアンインストール マウスのマニュアル

- 2 「USBマウスを使用する（ p.138 ）の手順1～10を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する
- 3 「NXパッドを使用する設定に戻す（ p.140 ）の手順にしたがって、NXパッドを使用する設定に戻す

外部ディスプレイを使う

CRTディスプレイを使う

このパソコンには別売のCRTディスプレイを接続することができます。CRTディスプレイの大画面を使った作業が可能になります。

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数 (kHz)	垂直走査 周波数 (Hz)	表示色	
			65,536色	1,677万色
800×600	37.9	60		
	46.9	75		
	53.7	85		
1,024×768	48.4	60		
	56.5	70		
	60.0	75		
	68.7	85		
1,280×1,024	64.0	60		
	80.0	75		
	91.1	85		
1,600×1,200	75.0	60		
	93.8	75		

:表示可能


:最高(32ビット)で表示




チェック

使用するCRTディスプレイによっては、表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイを使用する場合は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

CRTディスプレイを接続する

- 1 「スタート」ボタン、「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 本体背面のコネクタカバーを開ける
- 3 ディスプレイ用ケーブルをパソコンの外部CRT用コネクタ( p.3)に差し込み、ネジを回して固定する
- 4 CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
CRTディスプレイを接続した場合、パソコンはACアダプタで使用してください。

プロジェクタを使う

このパソコンの外部CRT用コネクタ()には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。別売のプロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。



参照

プロジェクタとの接続のしかた プロジェクタのマニュアル

テレビを使う

パソコンにテレビやビデオなどの機器を接続すると、パソコンの画面やDVD VIDEOディスクの再生画面をテレビに出力することができます。

このパソコンには、S映像入力端子またはビデオ入力端子付きのテレビやビデオを接続することができます。

S映像入力端子付きのテレビやビデオと接続する場合は、「スタート」ボタン「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切ってから、パソコンのS映像出力端子(S) (p.3)に市販のSビデオケーブルを接続してテレビやビデオと接続してください。

ビデオ入力端子付きのテレビやビデオと接続する場合は、「スタート」ボタン「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切り、添付のビデオ変換ケーブルの黒いほうのコネクタをパソコンのS映像出力端子(S) (p.3)に接続してから、ビデオ変換ケーブルの黄色いコネクタと市販のビデオケーブルを接続し、テレビやビデオと接続してください。

表示するディスプレイを切り替える

別売のCRTディスプレイやテレビなどが接続されている場合は、キーボードを使って画面の出力先を切り替えることができます。

1 【Fn】を押したまま【F3】を押す

キーを押すごとに、「このパソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示」「テレビ」「このパソコンの液晶ディスプレイ」「CRTディスプレイ」の順に画面の出力先が切り替わります。



メモ

「テレビ」への出力は、テレビが接続されているときのみ切り替わります。





チェック

ビデオCDやDVD VIDEOディスクの動画再生中は、画面の切り替えを行わないでください。

複数のディスプレイに同時表示する

パソコンの液晶ディスプレイと接続した外部ディスプレイの両方に同時に画面を表示させることができます。

同じ画面を2つのディスプレイに表示する

- 1 「スタート」ボタン「コントロールパネル」「デスクトップの表示とテーマ」「画面」をクリックする
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリックする
- 3 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。
- 4 「モニタ」「パネル」「テレビ」のボタンをクリックして設定し、それぞれの隣にある  をクリックして表示するディスプレイを決定する
 が水色の場合は表示がオンになり、赤の場合はオフになります。

チェック

メディアプレーヤーなどでビデオCDを表示する場合、複数のディスプレイで同時表示させると、一方のディスプレイで画面が正しく表示されないことがあります。このような場合は、「パネル」の下の水色の丸いボタンをクリックして「プライマリ」に設定してください。

なお、液晶ディスプレイとテレビを同時にプライマリに設定することはできません。

- 5 設定が終了したら「適用」ボタンをクリックし、表示が切り替わったことを確認して「OK」ボタンをクリックする
- 6 メッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

チェック

DVD VIDEOディスク再生は「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるのも、表示できる範囲が広がります。

チェック

画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン / オフ、プライマリ / セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

- 1 別売のディスプレイを接続し (p.143) 電源を入れる
- 2 パソコンの電源を入れる
- 3 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「デスクトップの表示とテーマ」 「画面」をクリックする
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリックする
- 5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。
- 6 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。



チェック

表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

- 7 「モニタ」「パネル」の下のボタンをクリックする

「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。



チェック

すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート (水平同期周波数) が表示されます。

- 8 「OK」ボタンをクリックする
- 9 「OK」ボタンをクリックする

デュアルディスプレイ機能を使う

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「デスクトップの表示とテーマ」 「画面」をクリックする
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする
- 4 表示されたメニューから「接続」をクリックする
- 5 「適用」ボタンをクリックする
- 6 「OK」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

デュアルディスプレイ機能を解除する場合は、同様の手順を行って解除してください。

InfoAudio、「メモリースティック」、 「SDメモリーカード」を使う

メディア用ポケットのアダプタについて

このパソコンのメディア用ポケットでは、InfoAudio / マジックゲート メモリースティック アダプタ / SDメモリーカードアダプタのいずれかを使用し、「マジックゲート メモリースティック」や「SDメモリーカード」を使用することができます。

InfoAudioが添付されている場合、詳しい使いかたについては『InfoAudioを使ってみよう』をご覧ください。アダプタが添付されているモデルの場合、詳しい使いかたについては『「メモリースティック」を使ってみよう』/『「SDメモリーカード」を使ってみよう』をご覧ください。

アダプタが添付されていないモデルの場合、「メモリースティック」や「SDメモリーカード」を使用するには、別売のアダプタが必要です。

型名	名称
PC-VP-WU15	InfoAudio(インフォオーディオ)
PC-VP-WU08X	マジックゲート メモリースティック アダプタ
PC-VP-WU09X	SDメモリーカードアダプタ

PCカード

使用できるPCカードの種類

- ・このパソコンではPC Card Standard準拠のPCカードが使用できます。
- ・TYPE I かTYPE II のPCカードを両方のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
- ・CardBus対応のPCカードは、両方のスロットで同時に使うことができます。

PCカードを使用するときの注意

- ・PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。
 - 高温多湿あるいは低温の場所に放置しない
 - 濡らさない
 - 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしない
 - ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えない
 - PCカードの端子部分に金属などを差し込まない
- ・PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

PCカードのセットのしかたと取り出しかた

⚠注意



高温注意

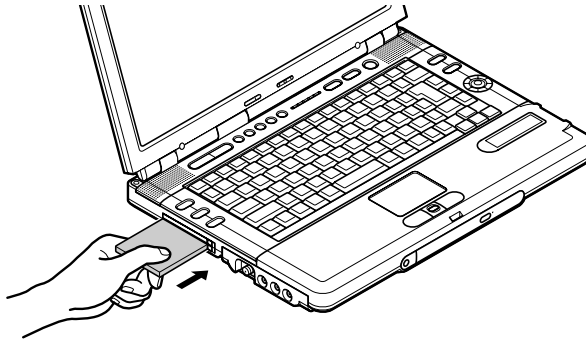
本機の使用後や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

PCカードをセットする / 取り出すときの注意

- ・PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態の場合は、PCカードをセットしたり、取り出したりにしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりにしないでください。

PCカードをセットする

PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、PCカードスロットに水平に静かに差し込んでください。



メモ

PCカードスロットにPCカードをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)。

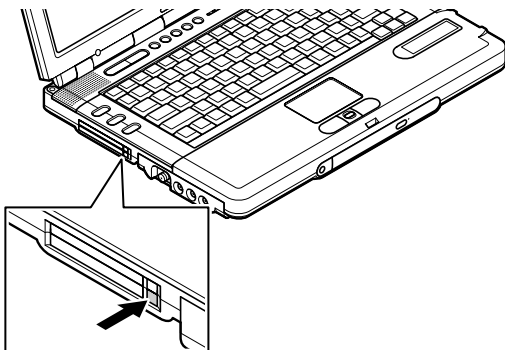
このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。

どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の✕をクリックしてください。

PCカードを取り出す

PCカードを取り出すときは、必ず次の手順で取り出してください。

- 1 「周辺機器の取り外しと再接続」(p.134)の手順1~4を行う
- 2 本体のPCカードイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが手前にとび出します。



- 3 もう一度イジェクトボタンをカチッと音がするまで押す
PCカードが少し飛び出します。
- 4 PCカードを水平に静かに引き抜く

PCカードの割り込みレベルを設定する

PCカードによっては、割り込みレベルの設定がパソコンの他の設定と重なってしまう場合があります。PART6の「割り込みレベルとDMAチャンネル」(p.187)やPCカードのマニュアルをご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。



割り込みレベルの設定を変更する このPARTの「リソースの競合について」(p.132)

メモリ

メモリを増設する

別売の増設RAMボードを取り付けてメモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M025	128Mバイト
PK-UG-M026	256Mバイト
PK-MM133SD512	512Mバイト

：システムバス133MHz対応ですが、動作周波数は100MHzになります。

増設RAMボードを取り扱うときの注意

⚠注意



感電注意

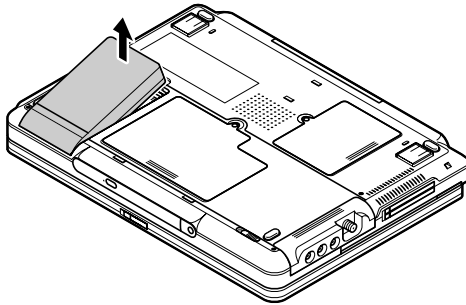
増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

- ・増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- ・増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- ・増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

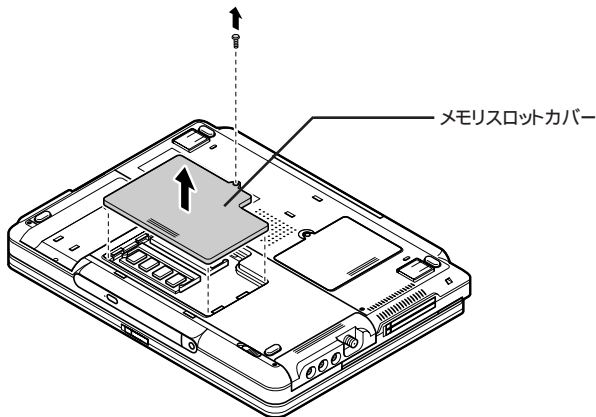
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた

増設RAMボードを取り付ける

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックしてパソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す
- 4 バッテリーパックを取り付けている場合は、バッテリーパックを取り外す(p.59)
セカンドハードディスクドライブを取り付けている場合は、次の手順に進んでください。



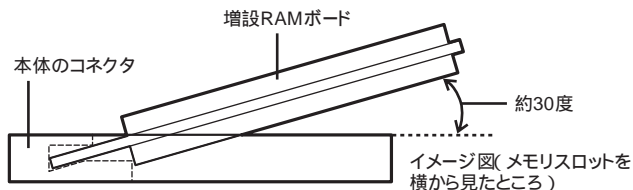
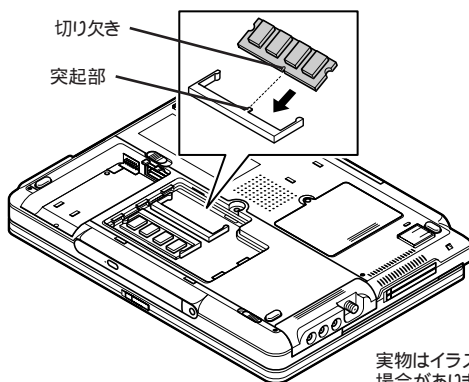
- 5 図のネジをプラスドライバーで取り外し、メモリスロットカバーを取り外す



- 6 増設RAMボードの切り欠き部分をコネクタの突起部に合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する。増設RAMボードが奥まで挿入できている場合は、端子部分(金色)のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

 チェック

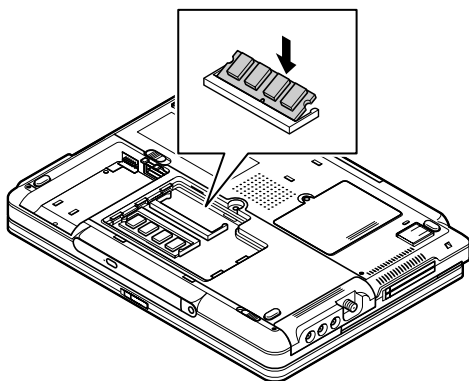
増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。



 チェック

挿入するときに、コネクタが固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く押し込む



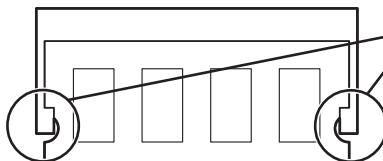
8 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する

正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し(1mm程度)見える状態です。



チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。



両方がロックされていることを確認してください。

9 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

10 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、正しく増設できたかどうか確認してください。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設したメモリがパソコンに正しく認識されているかどうかを確認します。

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「システム」をクリックする

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「全般」タブで右下に表示されている「××× MB RAM」の数値を確認する

×××MBがこのパソコンの総メモリ容量です。



システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが故障ではありません。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- ・増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・このパソコンで使用できる増設RAMボードを取り付けているか

ハードディスクの空き容量を確認する

このパソコンで休止状態の機能 (p.65) を使用する場合は、次の手順1~4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

1 パソコンの電源を入れる



本機の起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。

2 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「休止状態」タブをクリックする

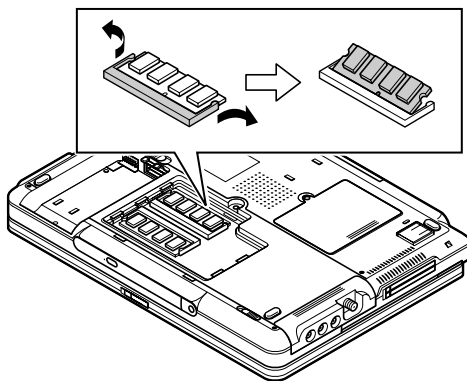
4 「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する



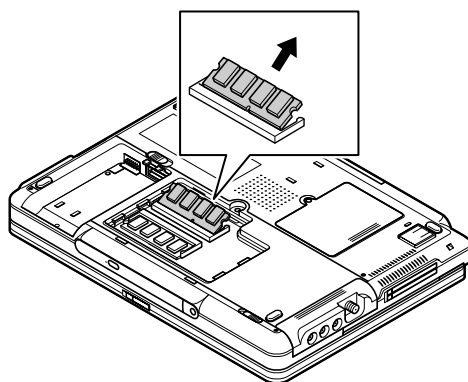
「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。

増設RAMボードを取り外す

- 1 「増設RAMボードを取り付ける(p.153)」の手順1～5にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のように起き上がります。



- 3 起き上がった増設RAMボードをそのまま斜めに引き抜く



- 4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける
- 5 バッテリーパックを取り付ける(p.60)

IEEE1394コネクタ

IEEE1394とは

IEEE1394は、IEEE(米国電気電子技術者協会)で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が速いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。

IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

接続する前に

- ・このパソコンと、IEEE1394コネクタを持っている周辺機器を接続する場合は、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは、4ピンのコネクタです。ケーブルを購入する際は、接続するパソコンや機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。
- ・周辺機器によっては、IEEE1394に対応した端子のことを別の名称(DV端子など)で呼んでいる場合もあります。

IEEE1394対応機器の接続のしかたと取り外しかた

IEEE1394コネクタに機器を接続する

1 本体背面のカバーを開ける

- 2 IEEE1394コネクタ(IEEE 1394) (p.3)にIEEE1394ケーブルのプラグを接続する
このパソコンにはIEEE1394コネクタが2つあります。どちらのコネクタに接続してもかまいません。また、同時に2種類のIEEE1394対応機器を接続することもできます。

チェック

接続する場合は、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、本体側のコネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。

3 ケーブルのもう一方のプラグを周辺機器に接続する


周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。





メモ

IEEE1394コネクタにIEEE1394対応機器を接続すると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用する周辺機器によって異なります)。

このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。

どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の  をクリックしてください。

IEEE1394コネクタから機器を取り外す

IEEE1394対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域に  が表示されます。このような機器の取り外しは、 をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで行ってください。正しく取り外しを行わないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。「周辺機器の取り外しと再接続」(p.134 をご覧になり、正しい手順で取り外しを行ってください)。

IEEE1394コネクタでファイルを転送する

このパソコンのIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタとを別売のIEEE1394接続ケーブルで接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。



チェック

IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

接続にはネットワークの設定が必要です。

ネットワークの設定をするには、「ネットワーク セットアップ ウィザード」を使います。「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ネットワーク セットアップ ウィザード」 をクリックして設定を行ってください。

USB対応機器

USBとは

USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。

USBコネクタはUSBポートと呼ぶこともあります。

現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・ マウス
 - ・ キーボード
 - ・ プリンタ
 - ・ テンキーボード
 - ・ イメージスキャナ
 - ・ 携帯電話
 - ・ デジタルカメラ
 - ・ PHS端末
 - ・ ISDNターミナルアダプタ
- など



メモ

- ・ USB対応機器の、このパソコンでの動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com」(ワンツワンウェアドットコム)をご覧ください。

<http://121ware.com/>

- ・ 携帯電話やPHS端末を接続するには、携帯電話接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルが必要です。

USBコネクタについて

接続する前に

- ・ 機器によっては、接続する前や接続したあとに、ドライバのインストールや各種スイッチなどの設定が必要な場合があります。接続するUSB対応機器のマニュアルを読んで、接続する前に設定が必要な場合は設定を行ってください。また、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。
- ・ USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。
- ・ 接続してすぐ使うことができるUSB対応機器もありますが、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

USB対応機器を接続するときの注意

- ・ USB対応機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・ USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがあります。その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
- ・ はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、もう一度差し込んでみてください。
なお、USB対応機器は一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけで、すぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。
- ・ スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USBコネクタにプラグを抜き差ししないでください。
- ・ USBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブをパソコンに接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブをパソコンに接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。

USB対応機器の接続のしかたと取り外しかた

USB対応機器を接続する

1 本体右側面のカバーを開ける



メモ
本体背面のUSBコネクタ(ポート3)に接続する場合は、この操作は必要ありません。

2 パソコンのUSBコネクタ(p.2, p.3)にプラグを差し込む

このパソコンには複数のUSBコネクタがあります。どのコネクタに接続してもかまいません。

3 接続したUSB対応機器がパソコンに正しく認識されたかどうかを確認する

確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

ポート2(パソコン右側奥)およびポート3(パソコン背面)のUSBコネクタを使うと、USB対応のターミナルアダプタなどを使ってスタンバイ状態から復帰することもできます。なお、スタンバイ状態から復帰するためにはUSBの設定が必要です。設定方法については、「スタート」ボタン「すべてのプログラム」 「NEC電子マニュアル」 「追加情報」をご覧ください。




メモ

この機能を使用すると、「SmartWakeup!サービス」を利用して自宅のパソコンを遠隔起動することができます。



「SmartVision TV録画予約サービス」と組み合わせると、外出先からTVの録画予約などもできるようになります。



参照



- ・ SmartWakeup!のインストール方法  「ばそガイド」 「アプリケーションの追加と削除」
- ・ SmartVision TV録画予約サービス、SmartWakeup!サービスについては『TVモデルガイド』PART3の「外出先から録画予約しよう」

USBコネクタから機器を取り外す

USB対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域に  が表示されます。このような機器の取り外しは、  をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで行ってください。正しく取り外しを行わないと、パソコンが正常に動作なくなることがあります。「周辺機器の取り外しと再接続」 (p.134) をご覧になり、正しい手順で取り外しを行ってください。

同軸デジタルオーディオ(S/PDIF) 入出力端子

オーディオ機器を接続する

このパソコンの同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入出力端子( / ) (p.3)には、デジタルの入出力を持ったオーディオ機器を接続することができます。





チェック

このパソコンのデジタル出力のサンプリングレートは48KHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48KHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。

ヘッドホン／光デジタルオーディオ (S/PDIF)出力端子

オーディオ機器やヘッドホンを接続する

このパソコンのヘッドホン / 光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子( /  p.2)には、デジタル入力を持ったオーディオ機器やヘッドホンを接続することができます。

デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続する場合、市販の光デジタルケーブルを使用します。パソコン本体側の端子は光ミニ端子です。



チェック

このパソコンの光デジタル出力のサンプリングレートは48KHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48KHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。



メモ

ヘッドホン / 光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子には、通常のヘッドホンやオーディオ機器も接続することができます。

マルチベイ

購入時、マルチベイにはTVチューナパックが接続されています。そのほかに、付属のフロッピーディスクドライブを接続することができます。



参照

フロッピーディスクドライブの接続 PART1の「フロッピーディスクドライブ」の「フロッピーディスクドライブの接続のしかたと取り外しかた」(p.36)

5

BIOSセットアップメニュー

セキュリティや周辺機器など、パソコンの使用環境の設定について説明します。設定方法を間違えると正しく動作なくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューを使ってできること

BIOSセットアップメニューは、パソコンの使用環境を設定するためのものです。BIOSセットアップメニューを使うと、次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・起動デバイスの起動順位の設定
- ・セキュリティの設定
- ・省電力の設定

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動と標準設定画面

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し続ける



BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り【F2】を押しながら電源を入れ直してください。

次のような標準設定画面が表示されます。画面上では「AMIBIOS EASY SETUP UTILITY-VERSION x.xx」と表示されます。

AMIBIOS EASY SETUP UTILITY - VERSIONXX					
標準設定	拡張設定	セキュリティ	起動設定	周辺機器	終了
BIOSバージョン		XXXXX			Setup Help
メモリ容量		256MB			
表示言語 (Language) の選択		Japanese			
システムの日付		XXXXXX			
システムの時刻		hh:mm:ss			
フロッピーディスク A:		1.44MB 3.5"			
▶ IDEプライマリマスタ		XXXXXX			
▶ IDEプライマリスレーブ		使用しない			
▶ IDEセカンダリマスタ		DVD-ROM			
起動セクタへのウイルス感染症防止		使用しない			
バッテリーリフレッシュ		[Enter]			
F1 : Help Esc : Exit	↑ ↓ : Select Item ← → : Select Menu	+ / - : Change Values	Enter : Select ▶ Sub-Menu	F5 : Setup Defaults	F10 : Save & Exit

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【 **X** 】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【 PgUp **X** PgDn 】で変更します。
- ・各設定項目の画面から標準設定画面に戻る場合は【 Esc 】を押します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

1 標準設定画面で【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

2 【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。



メモ

「終了」メニューで「変更を保存して終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに(起動前の設定のまま)終了する

1 標準設定画面で【Esc】を押す

2 【Enter】を押す

起動する前の設定のままBIOSセットアップメニューが終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。



メモ

「終了」メニューで「変更を保存せずに終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

購入時の値に戻す

- 1 「終了」メニューで【 **X** 】を使って「デフォルト値をロード」にカーソルを合わせる
- 2 【Enter】を押す
確認の画面が表示されます。
- 3 【Enter】を押す

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。表中の反転部分は、購入時の設定です。

「標準設定」メニュー

「IDEプライマリマスタ」の設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合があるので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定値	説明
BIOSバージョン	-	BIOSのバージョンを表示します。
メモリ容量	-	本機のメモリ容量が自動計算されます。
表示言語 (Language)の選択	English Japanese French	標準では日本語に設定されています。
システムの日付	-	日付を西暦で設定します。
システムの時刻	-	現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。
フロッピーディスクA	使用しない 1.44MB 3.5"	「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブ(FDD)が接続されていても使用することができません。 「1.44MB 3.5"」の場合、接続されているFDDが使用できます。

設定項目	設定値	説明
IDEプライマリマスタ IDEプライマリスレーブ IDEセカンダリマスタ		現在接続されているIDEデバイスの設定をします。 設定したい項目を選んで【Enter】を押すと、下記のサブメニューが表示されます。
種類	ユーザ設定 自動 CD/DVD 使用しない	「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」にするとユーザによる指定ができます。
Cylinders ¹	0-65535	シリンダ数を設定します。
Heads ¹	0-255	ヘッド数を設定します。
Write Precompensation ¹	0-65535	ヘッド待避シリンダ番号を設定します。
Sectors ¹	0-255	セクタ数を設定します。
Maximum Capacity	-	接続されているIDEデバイスの最大容量を表示します。
LBA Mode ²	オン オフ	LBAモードを使用するかどうかを指定します。
Block Mode ²	オン オフ	マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。
Fast Programmed I/O Modes ²	自動 4	CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。
32Bit Transfer Mode	オン オフ	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定できます。
起動セクタへのウイルス感染防止	使用する 使用しない	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると書き込み禁止になります。

1: 「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可

2: 「Type」を「ユーザ設定」CD/DVD」に設定したときのみ指定可

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュを行います。



参照

バッテリーリフレッシュ PART1の「バッテリーリフレッシュ」(p.56)

「拡張設定」メニュー

設定項目	設定値	説明
ビデオ出力方式	NTSC PAL	使用している国、地域でのビデオ出力方式を設定します(日本 / アメリカでは「NTSC」、ヨーロッパでは「PAL」)
LCDパネル拡大表示	オン オフ	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。
NXパッド	使用する 使用しない	外付けマウスを接続したときに、内蔵のNXパッドを使用するかを設定します。
Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジー	自動 バッテリー最適化 使用しない	「自動」に設定すると、AC電源でコンピュータを使用している場合、自動的に最高性能で動作します。 「バッテリー最適化」に設定すると、常にバッテリー最適化で動作します。 「使用しない」に設定すると、Intel®SpeedStep™テクノロジーが使えなくなります。

「セキュリティ」メニュー

スーパーバイザパスワードの設定

スーパーバイザパスワードの設定または変更を行います。

【Enter】を押すとパスワードの設定画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.67)

ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードを設定していないと設定できません。

【Enter】を押すとパスワードの設定画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.67)

パスワード

パスワードを設定すると選択できるようになります。



参照

パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.67)

設定項目	設定値	説明
起動時のパスワード	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
レジューム時のパスワード	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	レジューム時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。

「起動設定」メニュー

設定項目	設定値	説明
クイックブート	使用する 使用しない	「使用する」にすると、BIOSによるシステムの診断を一部スキップし、起動時間を短縮します。
ロゴ表示	使用する スキップ 使用しない	起動時の表示画面を設定します。
起動時表示デバイス	同時表示 LCD表示 CRT表示	起動時に表示するディスプレイを設定します。
起動時Numロック	オフ オン	起動時に【Num Lock】をロックするかを設定します。
第一起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD/DVD ネットワーク	一番最初に起動するドライブを設定します。
第二起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD/DVD	二番目に起動するドライブを設定します。
第三起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD/DVD	三番目に起動するドライブを設定します。
その他のデバイスからの起動	はい いいえ	設定したすべてのデバイスで起動に失敗したとき、その他のデバイスから起動します。

: 「スキップ」または「使用しない」に設定したときに、BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後に【F2】を押しつけてください。

「周辺機器」メニュー

周辺機器に関する設定をします。

設定項目	設定値	説明
内蔵ハードディスク	使用する 使用しない	内蔵ハードディスクを使用するかを設定します。
ワイヤレスデバイス	使用する 使用しない	ワイヤレスデバイスを使用するかを設定します。

P A R T

6

付録

ここでは、このパソコンの機能に関連した補足情報を説明しています。

本体機能一覧

LT900 / LT700 / LT500

型名	LT900/1D	LT700/1D	LT500/1D
型番	PC-LT9001D	PC-LT7001D	PC-LT5001D
CPU	モバイル インテル® Pentium® III プロセッサ1GHz(インテル® SpeedStep™ テクノロジー搭載)	モバイル インテル® Pentium® III プロセッサ900MHz(インテル® SpeedStep™ テクノロジー搭載)	モバイル インテル® Pentium® III プロセッサ850MHz(インテル® SpeedStep™ テクノロジー搭載)
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	256Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	標準256Mバイト(システムバス100MHz対応)	
		最大	1024Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト) を2枚増設した場合)
	ビデオRAM	8Mバイト(Video Chip内蔵)	
表示機能	表示素子 ¹	バックライト付15.3型 TFTカラー液晶ディスプレイ(WXGA)	
	グラフィックアクセラレータ	ATI MOBILITY™ RADEON™-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)	
		800×600ドット(65536色 / 1677万色)	
		1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) ² 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色) ²	
別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色)		
サウンド機能	サウンドチップ	YAMAHA社製 YMF754R搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/ 16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源(WAVE Table音源最大128音))	
	内蔵スピーカ	2スピーカ(ステレオ)	
	外付スピーカ	外付けサラウンドスピーカシステム	
	サラウンド	エンハンスト・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド	
	DolbyHeadphone機能	サポート	

型名	LT900/1D	LT700/1D	LT500/1D
型番	PC-LT9001D	PC-LT7001D	PC-LT5001D
映像関係機能	TVチューナ	音声多重対応、受信チャネル:VHF(1~12ch) UHF(13~62ch)	
	データ放送受信	地上波データ放送(bitcast, ADAMS)文字多重放送、字幕放送	
	映像合成表示	DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能 (全画面表示可能)ただし、画面縦横比3:4固定	
	テレビ録画機能	MPEG2で録画可能(ビットキャストブラウザはMPEG1で録画可能)	
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)	
	LAN	LT900/LT700の場合:ワイヤレスLANインターフェイス内蔵、LANカード添付 LT500の場合:LAN内蔵(100BASE-TX/10BASE-T)	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド(スクロールスライドスイッチ付) ジョグホイール標準装備	
	スイッチ/ボタン (光ナビゲーション機能搭載)	電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、オーディオ電源スイッチ、TVボタン	
	スイッチ/ボタン	CD/DVDプレーヤボタン、メニューボタン、画面分割ボタン、全画面ボタン、ヘルプボタン	
	リモコン	添付	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1添付	
	ハードディスク ³	約40Gバイト(内蔵)	約30Gバイト(内蔵)
	セカンドハードディスクドライブ ³	約40Gバイト	なし
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ ^{4,5}	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(内蔵) 読み込み最大24倍速(CD-ROM)8倍速(DVD-ROM) 書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速	
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン) USB×3、ビデオ出力(S-Video×1) RCA×1付属のビデオ変換ケーブルで使用。S-Videoと排他利用) IEEE1394(4ピン)×2		
サウンド関連	同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入力(RCAピンジャック) 同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)出力(RCAピンジャック) ヘッドホン/光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力共用(ステレオ、ミニジャック/光ミニジャック) ライン出力(R) RCAピンジャック) ライン出力(L) RCAピンジャック) 外付けスピーカー用コネクタ出力、マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10k 入力レベル1Vrms(TVチューナバック接続時の仕様) マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms		
映像関連	同軸TVチューナバック側端子:ビデオ入力(コンポジット) ライン入力(RCAジャック)×2 LおよびR) TVチューナバック接続時の仕様) アンテナ入力(U/V混合) 75、同軸F型)		

型名	LT900/1D	LT700/1D	LT500/1D
型番	PC-LT9001D	PC-LT7001D	PC-LT5001D
PCカードスロット	TYPE II ×2スロット(TYPE III ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応		
メディア用ポケット	「メモリスティック」用のマックゲートメモリスティックアダプタおよびInfoAudio(8MB SDメモリーカード添付)添付インナーシートホルダー内蔵		
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)		
バッテリー駆動時間 ^{6 7}	約1.45時間 ¹¹	約1.45時間	
バッテリー充電時間(オン / オフ時) ⁶	約3.5時間(オン時) ¹¹ 約2.9時間(オフ時) ¹¹	約3.5時間(オン時) 約2.9時間(オフ時)	
電源	AC100V ± 10%、50/60Hz (ACアダプタ経由 ⁹)	リチウムイオンバッテリー(DC11.1V、3,600mAh) ⁸ または AC100V ± 10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ⁹)	
消費電力	約27W(内蔵オプション最大接続時) 約60W)		
温湿度条件	5 ~ 35 °C、20 ~ 80% RH ¹⁰ (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	365(W) × 250(D) × 49(H) mm(突起部含まず)		
質量 ⁶	約4.1kg(セカンドハードディスクドライブ搭載時)	約4.2kg(バッテリーパック搭載時)	

- 1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。
- 2: パーチャルスクリーン表示。
- 3: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。
- 4: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
- 5: パワァアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1 ~ 4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
- 6: 時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 7: JEITAバッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。
- 8: バッテリーパックは消耗品です。
- 9: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
- 10: 18 ~ 25 °C、45 ~ 75%での使用を推奨。
- 11: 別売のバッテリーパック PC-VP-WP32 を使用した場合。

LG10JE / LG85JE

の項目の仕様は、お使いのモデルによって異なります。

型名	LG10JE/9	LG85JE/9	
型番	PC-LG10JEWE9	PC-LG85JEWE9	
CPU	モバイル インテル® Pentium® Ⅲプロセッサ1GHz(インテル® SpeedStep™テクノロジー搭載)	モバイル インテル® Pentium® Ⅲプロセッサ850MHz(インテル® SpeedStep™テクノロジー搭載)	
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	256Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	256Mバイト/384Mバイト/512Mバイト(システムバス100MHz対応)	
		最大	1024Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を2枚増設した場合)
	ビデオRAM	8Mバイト(Video Chip内蔵)	
表示機能	表示素子 ¹	バックライト付15.3型TFTカラー液晶ディスプレイ(WXGA)	
	グラフィックアクセラレータ	ATI MOBILITY™ RADEON™-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)	
		800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) ² 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色) ²	
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色)	
サウンド機能	サウンドチップ	YAMAHA社製 YMF754R搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源 WAVE Table音源最大128音)]	
	内蔵スピーカ	2スピーカ(ステレオ)	
	外付けスピーカ	外付けサラウンドスピーカシステム	
	サラウンド	エンハンスト・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド	
	DolbyHeadphone機能	サポート	
映像関係機能	TVチューナ	音声多重対応、受信チャネル: VHF(1 ~ 12ch) UHF(13 ~ 62ch)	
	データ放送受信	地上波データ放送(bitcast、ADAMS)文字多重放送、字幕放送	
	映像合成表示	DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能)ただし、画面縦横比3:4固定	
	テレビ録画機能	MPEG2で録画可能(ビットキャストブラウザはMPEG1で録画可能)	

型名	LG10JE/9	LG85JE/9
型番	PC-LG10JEWE9	PC-LG85JEWE9
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)
	携帯電話/PHS接続ケーブル	ケーブル添付 / なし 携帯電話: 9.6kbpsデータ通信 / 9.6kbps・28.8kbps/パケット通信(DoPa) cdmaOne: 14.4kbpsデータ通信 / 64kbps/パケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル): 32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット): 32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)
	LAN	ワイヤレスLAN内蔵 / LAN内蔵(100BASE-TX、10BASE-T) / LANカード添付 / なし
	Bluetooth™機能	内蔵 / なし
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付
	ポインティングデバイス	NXパッド(スクロールスライドスイッチ付) ジョグホイール標準装備
	スイッチ / ボタン (光ナビゲーション機能搭載)	電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、オーディオ電源スイッチ、TVボタン
	スイッチ / ボタン	CD/DVDプレーヤボタン、メニューボタン、画面分割ボタン、全画面ボタン、ヘルプボタン
	リモコン	添付
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	なし / 3.5型フロッピーディスクドライブ × 1 添付
	ハードディスク ³	約40Gバイト / 約30Gバイト
	セカンドハードディスクドライブ ³	なし / 約40Gバイト
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ ^{4 5}	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(内蔵) 読み込み最大24倍速(CD-ROM)8倍速(DVD-ROM) 書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、USB × 3、ビデオ出力(S-Video × 1)、RCA × 1 付属のビデオ変換ケーブルで使用、S-Videoと排他使用)、IEEE1394(4ピン) × 2	
サウンド関連	同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)入力(RCAピンジャック)、同軸デジタルオーディオ(S/PDIF)出力(RCAピンジャック)、ヘッドホン / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力共用(ステレオ、ミニジャック / 光ミニジャック)、ライン出力(R)、RCAピンジャック)、ライン出力(L)、RCAピンジャック)、外付けスピーカ用コネクタ出力、マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10k 入力レベル1Vrms(TVチューナパック接続時の仕様) マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
映像関連	同軸TVチューナパック側端子: ビデオ入力(コンポジット)、ライン入力(RCAジャック) × 2 (LおよびR)、TVチューナパック接続時の仕様)、アンテナ入力(U/V混合)、75、同軸F型)	

型名	LG10JE/9	LG85JE/9
型番	PC-LG10JEWE9	PC-LG85JEWE9
PCカードスロット	TYPE II × 2スロット(TYPE III × 1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応	
メディア用ポケット	「メモリースティック」用のマジックゲートメモリースティックアダプタ、「SDメモリーカード」用のメモリーカードアダプタ、InfoAudio(8MB SDメモリーカード添付)を選択可能	
パワーマネージメント	自動または任意設定可能	
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)	
バッテリー駆動時間 ^{6 7}	約1.45時間	
バッテリー充電時間 (オン / オフ時) ⁶	約3.5時間(オン時) 約2.9時間(オフ時)	
電源	リチウムイオンバッテリー(DC11.1V、3,600mAh) ⁸ またはAC100V ± 10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ⁹)	
消費電力	約27W(内蔵オプション最大接続時 約60W)	
温湿度条件	5 ~ 35、20 ~ 80% ¹⁰ (ただし、結露しないこと)	
外形寸法	365(W) × 250(D) × 49(H)mm(突起部含まず)	
質量 ⁶	約4.1kg(セカンドハードディスクドライブ搭載時) / 約4.2kg(バッテリーパック搭載時)	

1 : 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。

2 : バーチャルスクリーン表示。

3 : ハードディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。

4 : Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。

5 : パワァアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。1 ~ 4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。

6 : 時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

7 : JEITAバッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。

8 : バッテリーパックは消耗品です。

9 : ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。

10 : 18 ~ 25、45 ~ 75%での使用を推奨。

内蔵FAXモデム

機能概要

項目	規格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> ・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット <ul style="list-style-type: none"> V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 <ul style="list-style-type: none"> V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 <ul style="list-style-type: none"> ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX機能


項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14400/12000
	QAM:9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-9 ~ -15dBm / -15dBm
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

: 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54666/52000/50666/50000/49333/48000/46666/ 45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/37333/36000/ 34666/33333/32000/30667/29333/28000bps ¹
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM: 56000/54667/52000/50667/49333/46667/45333/ 42666/41333/40000/38667/37333/36000/34667/ 33333/32000/30667/29333/28000 TCM: 48000/33600/31200/28800/26400/24000/21600/ 19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps QAM: 9600/4800/2400/1200bps DPSK: 1200bps FSK: 1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 (LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2: ATコマンドについては、「ばそガイド」の「パソコンでできること」の「ATコマンド」をご覧ください。

NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話／PHS接続機能は、携帯電話／PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話／PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

個別仕様

種 類	項 目	規 格
PHS(NTTドコモ/アステル)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値) PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
PHS(DDIポケット)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値) PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6Kbps(データ通信)9.6Kbps(パケット通信) 28.8Kbps(パケット通信)
cdmaOne接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(CDMA方式携帯電話端末後位18芯)
	通信速度	14.4Kbps(データ通信) 64Kbps(パケット通信)

共通仕様

項 目	規 格
制御コマンド	ATコマンド
網制御機能	AA

:ATコマンドについては、「ばそガイド」 「パソコンでできること」 「ATコマンド」 をご覧ください。

内蔵LAN

LAN内蔵モデルのLANの規格は以下のとおりです。

項目	規格概要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps 10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長	100BASE-TX:最大約200m / ステーション間 10BASE-T :最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

:リピータの台数など、条件によって異なります。

ワイヤレスLAN

ワイヤレスLANはワイヤレスLANモデルのみの機能です。

項目	規格
データ転送速度	11M/5.5M/2M/1M(bps)(自動切替) ¹
準拠規格	ARIB STD-T66(小電力データ通信システム規格) IEEE802.11b(ワイヤレスLAN標準プロトコル)
伝送方式	DS-SS方式
伝送距離	見通し約70m(アクセスポイントとの通信時) ²
使用無線チャンネル	1 ~ 11ch
RF周波数帯域	2.4GHz帯全域(2.4 ~ 2.4835GHz)
温湿度条件	温度: 5 ~ 35 湿度: 20 ~ 80%(結露無きこと)

1: IEEE802.11b規格による速度(理論値)であり、実効速度とは異なります。

2: 通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、OSなどの使用条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャンネル

割り込みレベルとDMAチャンネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャンネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。1つのリソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	SCI IRQ
1	キーボード	10	内蔵FAXモデム
2	割り込みコントローラ		CardBusコントローラ
3	アクセラレータ PCIステアリングホルダー	11	PCIステアリングホルダー
4	(空き)		USBホストコントローラ
5	サウンド	CardBusコントローラ	
	IEEE1394ホストコントローラ PCIステアリングホルダー	PCIステアリングホルダー	
6	フロッピーディスクコントローラ	12	NXパッド
7	(空き)	13	数値データプロセッサ
8	システムクロック	14	IDEコントローラ(内蔵ハードディスク)
		15	IDEコントローラ(内蔵CD/DVDドライブ)

DMAチャンネル

「DMAチャンネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス
	デフォルト
#0	(空き)
#1	(空き)
#2	(空き)
#3	フロッピーディスクコントローラ
#4	DMAコントローラ

索 引

索引

英字

ADSL	106
ATコマンド	80
BIOSセットアップメニュー	168
Bluetooth™機能	107
CATVインターネット	94
CD/DVDアクセスランプ	11
CD/DVDドライブ	41
CD/DVDプレーヤボタン	2, 5, 111
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	2, 41
CDの再生	46, 112, 113
CDプレイモード	112
DCコネクタ	3
DMAチャンネル	187
DolbyHeadphone機能	118
DVDの再生	117
DVD形式のビデオデータ	123
【Fn】(エフエヌキー)	16
IEEE1394コネクタ	3, 158
InfoAudio	148
Jet-Audio Player	113, 117
LAN	91, 185
LAN用モジュラーコネクタ	3
LCDインジケータ	2, 111
MACアドレス	94
MP3	113
NXパッド	2, 19
NXパッドの設定	22
PCカード	149
PCカードイジェクトボタン	151
PCカードスロット	3, 150
PIAFS	85
RecordNow DX	116
「SDメモリーカード」	148
SmartGallery	125
S映像出力端子	3, 144
TVチューナバック	3, 165

【TV】ボタン	5, 7
USB	160
USBコネクタ	2, 3, 160
VideoStudio	119, 121
VISUALモード	49
VISUALモードボタン	5, 49
VISUALモードランプ	2, 12, 49

あ行

イジェクトボタン (CD-R/RW with DVD-ROMドライブ) ...	41
イルミネーション・エンブレム™	3, 12
イルミネーション・ボタン	6
インナーシートホルダー	28
インターネット設定切替ツール	81
【インターネット】ボタン	5, 7
映像の再生	117
映像の取り込み、ダビング	119
映像の編集	119
液晶ディスプレイ	2, 47
オーディオ電源スイッチ	5, 111
オリジナルCDの作成	116
オリジナルMDの作成	114
音楽の再生	110
音楽の編集	114, 116
音声出力端子	3
音量調節つまみ(外付けスピーカ)	73
音量調節つまみ(本体)	2, 74

か行

解像度	47
外部CRT用コネクタ	3, 143
外部ディスプレイ	142
外部マイクロホン端子	2
画面の調整	49
【画面分割】ボタン	5, 7, 51
画面分割機能	51
キーボード	2, 14

キーボードの設定	17
キーボードロック	71
起動セクタへのウイルス感染防止	67, 171
輝度	49
キャップスロックキーランプ	11
休止状態	65
休止状態から復帰	66
共有プリンタ	137
クリックボタン	19
携帯電話 / PHS 接続機能	82, 184
携帯電話連携機能	87

さ行

サウンド機能	73
サスペンド	63
周辺機器	128, 131
省電力機能	61
ジョグホイール	2, 26, 113, 118, 121, 126
スーパーバイザパスワード	68, 173
スクロールスライドスイッチ	20
スクロールロックキーランプ	12
スタンバイ状態	63
スタンバイ状態から復帰	66
スピーカ	2
スリープ状態	61
セカンドハードディスクドライブ	4, 32
セキュリティ機能	67
接続先の設定	80, 83
【全画面】ボタン	5, 7, 52
増設RAMボード	152
外付けスピーカ用コネクタ	3

た行

ダイヤル設定	84
ディスプレイの同時表示	144
デジタル出力設定	76
デジタルビデオ	117
データ通信	85

デバイスドライバ	134
デバイスマネージャ	iii
デュアルディスプレイ機能	145
テレビ	118, 144
電源スイッチ	5
電源ランプ	10
電話回線用モジュラーコネクタ	3
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF) 出力端子	3, 163
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF) 入出力機能	75
同軸デジタルオーディオ(S/PDIF) 入力端子	3, 163
盗難防止用ロック	3, 67
ドライバ	134

な行

ニューメリックロックキーランプ	12
-----------------	----

は行

バーチャルスクリーン	50
ハードディスク	31
ハードディスクアクセスランプ	11
ハイバネーション	65
パスワード	67, 173
ばそガイド	ii
バックアップ	31
バッテリー	53
バッテリーアンロック	4, 59
バッテリー残量の確認	54
バッテリー充電ランプ	11
バッテリースロット	60
バッテリーの充電	53
バッテリーパック	4, 59
バッテリーパックの交換	58
バッテリーリフレッシュ	56
パッド	19
ビープ音の設定	74

光デジタルオーディオ(S/PDIF)	
出力機能	76
光ナビゲーション機能	5
非常時ディスク取り出し穴	41, 45
表示色	47
表示ランプ	2, 3, 10
フォーマット(フロッピーディスク)	40
復帰	66
プラグ&プレイ機能	135
プリンタ	136
プロジェクタ	143
フロッピーディスクアクセスランプ	11
フロッピーディスクイジェクトボタン	39
フロッピーディスクドライブ	36
ヘッドホン /	
光デジタルオーディオ(S/PDIF)	
出力端子	2, 164
【ヘルプ】ボタン	ii, 5
ホットキー機能	16
ボリュームコントロール	74

ま行

マウス	138
マルチベイ	3, 165
マルチベイアンロック	4, 37
メディア用ポケット	2, 28, 148
メディア用ポケットロックボタン	2, 28
メール着信ランプ	11
【メール】ボタン	5, 7
【メニュー】ボタン	5, 7
メモリ	152
「メモリースティック」	148
メモリスロット	4, 154
メモリ容量の確認	156
モデム	78, 182

や行

ユーザパスワード	68, 173
ユニバーサル管理アドレス	94

ら行


らくちんプリント	30
リソースの競合	132
リモコン受光部	2
レジューム	66

わ行

ワイヤレスLAN	96, 186
ワイヤレスランプ	2, 12
割り込みレベル	187
ワンタッチスタートボタン	7
ワンタッチスタートボタンの設定	8

「ぱそガイド」を活用しよう

「ぱそガイド」は、添付アプリケーションの操作方法を知りたいときや、パソコンを使っていて困ったときなどに、どうしたらよいかを画面上で見ることができる電子マニュアルです。

1 デスクトップの「ぱそガイド」アイコン()をダブルクリックする
ぱそガイドのメインメニュー画面が表示されます。

2 見たい項目をクリックする



用語集
パソコン関連の用語
を説明しています。

パソコンを使いこなそう

- ・ パソコンでできること
添付されているアプリケーションの概要や詳しい使いかたを説明しています。
- ・ 活用提案
いろいろな機能を組み合わせて使う、より楽しいパソコンの使いかたを提案します。
- ・ アプリケーションの追加と削除
添付アプリケーションの追加と削除の方法を説明しています。

ぱそガイドのメインメニュー画面
©TPVN

「BIGLOBE入会案内」
NECのおすすめプロバイダ、BIGLOBEへの
入会についてご案内をしています。

はじめてのパソコン

- ・ パソコンのいろはを使ってみよう
Windowsの基本操作を、実際にパソコンを動かしながら学習できます。
- ・ インターネットと電子メールをはじめよう
- ・ ワープロを使ってみよう
- ・ ファイルを整理してみよう
インターネットやメールをはじめるとき、文字入力やファイル整理について知りたいときなど、そんなときのためのガイドです。
- ・ こんなときの操作集
Windowsの基本操作、インターネットやメールをするときに役に立つ情報をまとめています。
- ・ トラブルの予防
パソコンのトラブルを未然に防ぐ方法を紹介しています。
- ・ 自動操作説明集
やってみたい操作について、自動的に操作して設定したり説明してくれます。

困ったときのQ&A

- ・ トラブル解決Q&A
- ・ インターネットのトラブル解決
トラブルが起きたときの対処法を説明しています。

サービス&サポート

- ・ NECのサービス&サポート
- ・ アプリケーションのサポート窓口
困ったときのサポートの窓口を紹介しています。

このマニュアルは再生紙
(古紙率:表紙50%、本文100%)
を使用しています。

LaVie

もっと知りたいパソコン

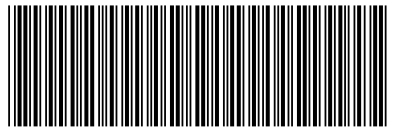


初版 2001年11月
NEC
P
853-810028-208-A

PC98-**NX** SERIES

LaVie

LT900・LT700・LT500



* 8 5 3 8 1 0 0 2 8 2 0 8 A *